

| | | | | | | | |
|-----------------------|---|-----------------|-----------------|--|-------------|---------|--------|
| 科目コード | 5100043 | 単位 | 2 | 時間数 | 30 | | |
| 授業科目名 | 日本国憲法D - 自分の憲法観が持てるように - | 開講学期等 | 前期 | 時間割 | 火3・4 | | |
| 授業科目名英字 | The Constitution of Japan D | | | | | | |
| 備考 | 授業の形式 | | 講義 | 必修・選択 | 選択 | | |
| | 受講対象学生 | | 全学部 1～4年 | | | | |
| 内容的に密接に関係する授業科目 | くらしと法 - 教養法学 - , 教養ゼミナール - 人権の現代的諸相 - | | 履修する際に前提とする授業科目 | 特になし | | | |
| 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 | 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 |
| 池村 好道 | 教育文化・地域科学 | 教文3-330 | 2661 | | | | |
| オフィスアワー | 【曜日及び時間】 | 月曜日 18:00～19:00 | | 【場所】 | 教文3 - 3 3 0 | | |
| 授業の目的 | | | | 授業の到達目標 | | | |
| 統治機構を中心とした日本国憲法の基礎的理解 | | | | 1) 憲法上の基本的な諸概念を説明できる。 2) 日本国憲法の基本構造を説明できる。 3) 各種の憲法問題の基礎を的確に把握できる。 | | | |
| カリキュラム上の位置付け | 本学の教育目標である「主体性と節度のある社会人となるための充実した教養教育」のための授業科目の一つ。本授業科目は統治機構に主眼がおかれており、「人権の現代的諸相」の履修と合わせて、憲法の一層の理解が可能となる。 | | | | | | |
| 授業の概要 | 【授業の概要】 憲法の理念と現実という問題を意識しながら、比較憲法的視点を加味して、統治機構を中心に日本国憲法の入門的解説を行う。 | | | | | | |
| 授業の進行予定及び進め方 | 【進行予定と進め方】 1～2回：国民主権と天皇制：天皇の地位，天皇の行為 3～4回：平和主義：9条の解釈 5～6回：国会：両院制，参議院の存在理由など 7～8回：内閣：議院内閣制など 9～10回：裁判所：司法権の観念と帰属など 11回：地方自治：「地方自治の本旨」など 12～14回：基本権：種類，享有主体など 15回：基本権：私人間効力 ・講義のなかで，憲法の条文をはじめ「六法」をしばしば参照する。 ・教育文化学部学校教育課程以外の学生については，受講者の人数制限を行うことがある。 | | | | | | |
| 授業に関連するキーワード | 憲法 | 統治機構 | | 象徴 | | | |
| | 戦争の放棄 | 衆議院の解散 | | 司法権の独立 | | | |
| | 外国人の人権 | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 期末試験の結果（80％）及び学習態度（20％）による。総合60％以上を合格とする。 | | | | | | |
| 教科書・参考書等 | 【教/参の別】 | 【書籍名】 | | 【著者】 | 【出版社】 | 【出版年】 | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| 教科書・参考書等に関する記述欄 | 教科書は使用しない。プリントを配付する。参考文献は適宜示す。最も小型のものでよいため、「六法」を留意すること。 | | | | | | |
| 自由記述欄 | | | | | | | |

| | | | | | | | |
|--|---|-----------------|-----------------|---|----------|---------|--------|
| 科目コード | 5100090 | | 単位 | 2 | 時間数 | 30 | |
| 授業科目名 | 現代社会と経済 - 証券ビジネス論 - | | 開講学期等 | 前期 | 時間割 | 水7・8 | |
| 授業科目名英字 | Modern World and Economy III:Global Securities Business & Financial Planning | | | | | | |
| 備考 | | | 授業の形式 | 講義 | 必修・選択 | 選択 | |
| | | | 受講対象学生 | 全学部 1～4年 | | | |
| 内容的に密接に関係する授業科目 | | | 履修する際に前提とする授業科目 | | | | |
| 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 | 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 |
| 教育推進主管 | 教育推進総合センター | 学生支援棟 1階事務室内 | 018-889-3193 | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| オフィスアワー | 【曜日及び時間】 | 質問や意見はメールで受け付けま | | 【場所】 | | | |
| 授業の目的 | | | | 授業の到達目標 | | | |
| 戦後の日本を支えた仕組みが変わりいわば自己責任の時代がやってきたといえる。変化するということは悪いことばかりではない。自己責任の時代は知識を知っているかないかで結果が大きく変わってくる。今後日本人として考えておくべき問題と社会や経済の変化について学び、金融・保険・不動産等についてや企業を起こすときに、知っておくべきことを学ぶ。講義は現役の証券マンが担当する。実際のビジネスシーンや就職の面接では企業ではどんなことを考えているかや、その時々タイムリーな話題についても解説する。 | | | | 就職までに身につけておいたほうが良いことや有能な社会人となるために必要なことを理解する。経済と金融についての知識、人生設計とライフプランニングの知識を身につける。債券、株式、投資信託について学び、年金の制度や確定拠出年金の基礎知識を学ぶ。 | | | |
| カリキュラム上の位置付け | 大学生生活を有意義に過ごすには、大学卒業後おきることをあらかじめ理解し予想し準備しておくことも重要だと思います。今の日本がおかれている状況を理解し、自己責任の時代を生きていくために必要な知識を身につけてほしいと思います。 | | | | | | |
| 授業の概要 | 【授業の概要】 授業は講義形式を中心に進めます。毎回疑問点や感想を提出してもらい、それをもとに前回の復習からスタートします。海外の状況やその時々政治経済のトピックス的な話題にも触れる予定です。 | | | | | | |
| 授業の進行予定及び進め方 | 【進行予定と進め方】 4月10日(水) 「ガイダンス」 【講師】 野村証券(株) 秋田支店 4月17日(水) 「経済情報の捉え方」 【講師】 野村証券(株) 秋田支店 4月24日(水) 「金融資本市場の役割とその変化」 【講師】 野村証券(株) 秋田支店 5月1日(水) 「債券市場の役割と投資の考え方」 【講師】 野村証券(株) 本社 5月8日(水) 「債券市場の役割と投資の考え方」 【講師】 野村証券(株) 本社 5月15日(水) 「株式市場の役割と投資の考え方」 【講師】 野村証券(株) 秋田支店 5月22日(水) 「株式市場の役割と投資の考え方」 【講師】 野村証券(株) 秋田支店 5月29日(水) 「投資信託の役割とその仕組み」 【講師】 野村証券(株) 秋田支店 6月5日(水) 「外国為替相場とその変動要因について」 【講師】 野村証券(株) 本社 6月12日(水) 「証券投資のリスク・リターン」 【講師】 野村証券(株) 本社 | | | | | | |
| 授業に関連するキーワード | ライフプランニング | | ファイナンシャルプランニング | | リスクとリターン | | |
| | 確定拠出年金 | | 自己責任社会 | | グローバル化 | | |
| 成績評価の方法 | 定期試験(70%) 出席状況(30%)を中心に総合的に評価して60点以上を合格とする。 | | | | | | |
| 教科書・参考書等 | 【教/参の別】 | 【書籍名】 | | 【著者】 | 【出版社】 | 【出版年】 | |
| | 参考書 | 『証券投資の基礎』 | | 野村証券投資情報部 編 | 丸善株式会社 | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| 教科書・参考書等に関する記述欄 | | | | | | | |
| 自由記述欄 | | | | | | | |

| | | | | | | | |
|----------------------|--|-----------------|--------|--|-----------|---------|--------|
| 科目コード | 5100100 | | | 単位 | 2 | 時間数 | |
| 授業科目名 | 日本と諸外国の政治 A - 現代日本政治 - | | | 開講学期等 | 前期 | 時間割 | 火3・4 |
| 授業科目名英字 | Modern Japanese Politics | | | | | | |
| 備考 | | | | 授業の形式 | 講義 | 必修・選択 | |
| | | | | 受講対象学生 | | | |
| 内容的に密接に関係する授業科目 | | | | 履修する際に前提とする授業科目 | | | |
| 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 | 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 |
| 中村裕 | 教育文化学部 | 教育3 - 332 | 内線2604 | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| オフィスアワー | 【曜日及び時間】 | 月11時～12時 | | 【場所】 | 教育3 - 332 | | |
| 授業の目的 | | | | 授業の到達目標 | | | |
| 社会科学の基礎としての現代日本政治の理解 | | | | 1. 社会科学の1分野としての政治学の基礎の習得。 2. マスメディア等の議論に対する自分なりの観点を整理。 3. 新聞、雑誌、学術書等に積極的に触れる態度の育成。 | | | |
| カリキュラム上の位置付け | | | | | | | |
| 授業の概要 | 現代日本政治の実態に触れつつ、その歴史的背景、理論的意味を検討する。 | | | | | | |
| 授業の進行予定及び進め方 | 1. 政権交代。 2. 二大政党制と穏健な多党制。 3. 冷戦期からポスト冷戦期にかけての日本の政治対立の構図。 4. 自由民主党の歴史的歩み。 5. 民主党とその形成までの過程。 6. 戦後日本政治の担い手－政党、官僚、圧力団体等 7. 戦後日本政治の特質。 | | | | | | |
| 授業に関連するキーワード | 自由民主党 | 民主党 | 政権交代 | | | | |
| | 二大政党制 | 穏健な多党制 | 政党 | | | | |
| | 官僚 | 圧力団体 | 選挙 | | | | |
| 成績評価の方法 | 基本的に試験。 | | | | | | |
| 教科書・参考書等 | 【教/参の別】 | 【書籍名】 | | 【著者】 | 【出版社】 | 【出版年】 | |
| | 参考書 | 『現代日本の政党デモクラシー』 | | 中北浩爾 | 岩波書店 | 2012年 | |
| | 参考書 | 『首相支配』 | | 竹中治堅 | 中央公論新社 | 2006年 | |
| | | | | | | | |
| 教科書・参考書等に関する記述欄 | | | | | | | |
| 自由記述欄 | | | | | | | |

| | | | | | | | |
|--|--|-------------------------|--------------|--|------------|---------|--------|
| 科目コード | 5100130 | | | 単位 | 2 | 時間数 | 30 |
| 授業科目名 | 大学生活と学習 - 大学教育・学習論 - | | | 開講学期等 | 前期 | 時間割 | 火7・8 |
| 授業科目名英字 | Campus Life and Learning II:Teaching and Learning in University | | | | | | |
| 備考 | 授業の形式 | | | 講義・学生参加型 | 必修・選択 | 選択 | |
| | 受講対象学生 | | | 全学部 1～4年 | | | |
| 内容的に密接に関係する授業科目 | 履修する際に前提とする授業科目 | | | (特になし) | | | |
| 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 | 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 |
| 細川 和仁 | 教育推進総合センター | 学生支援棟2F | 018-889-3188 | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| オフィスアワー | 【曜日及び時間】 | 火曜9・10限 | | 【場所】 | 学生支援棟2F教員室 | | |
| 授業の目的 | | | | 授業の到達目標 | | | |
| 大学における学習を有意義なものにするために、大学の教育・学習の特徴や最新の動向について学ぶ。 | | | | 1) 大学の教育・学習に関する基礎的事項について説明できる。 2) 大学の教育・学習の課題について自分なりに問いを立て、論理的に述べることができる。 3) この授業を通じて得た知識・技能・経験に対して、自分なりに意味づけできる。 4) 大学の教育ポリシーに関して、他の受講者と建設的な意見交換ができる。 5) 自分の考えをまとめ、他の受講者にわかりやすく説明するための工夫ができる。 また、他の受講者の説明を聞くことができる。 6) 自らの学歴意識や大学での学習に対する意識を、積極的に省察する。 | | | |
| カリキュラム上の位置付け | 学部・学科・学年によらず受講できる主題別科目です。 | | | | | | |
| 授業の概要 | この科目では、大学における教育・学習の特徴や最新の動向について教育学や学習論の観点から講義し、大学で学ぶことの意義について考えていきます。日本では大学進学率が急激に上昇してきました。そのことは、高等教育の拡大という点から見れば良いことですが、一方で大学の教育・学習の在り方に大きな影響を及ぼしています。社会の中で大学に求められる機能・役割や、高校とのつながり等の観点から、大学で学ぶことの意味について、あらためて考えてみましょう。 | | | | | | |
| 授業の進行予定及び進め方 | 取り上げるテーマとキーワードは次の通りです。 1. 大学教育・学習論へのいざない(第1回～第2回) ・ユニバーサル化する高等教育(大学進学率, 大学「全入」時代, 大衆化) 2. 高校と大学のはざま(第3回～第5回) ・大学に進学する動機(学歴意識, 不本意就学, 満足度) ・大学の「学校化」と学生の「生徒化」(高校と大学, 高校生と大学生, 近代学校システム) 3. 大学教育の3つのポリシー(第6回～第8回) ・大学の入学者受け入れ方針(アドミッション・ポリシー) ・学位授与方針(「学士力」, 「社会人基礎力」, コンピテンシー) 4. カリキュラムの接続(第9回～第11回) ・大学のカリキュラム(教養教育, 専門教育, 単位制, 高校との接続, カリキュラムトランジション) 5. 大学授業の設計と評価(第12回～第14回) ・大学の授業改善(授業評価, 良い授業, 悪い授業, FD, 学習意欲) ・大学授業のデザイン(シラバス, 成績評価, 到達目標) ・学びの技法(読む・書く・調べる・聞く・話す) 6. 大学における教育・学習の課題(第15回) ・大学改革の担い手(学習する環境づくり) ・大学教育・学習の課題(レポート) | | | | | | |
| 授業に関連するキーワード | 学習 | 大学教育 | | 大学生 | | | |
| | 進学 | カリキュラム | | 学習成果 | | | |
| | FD | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 成績評価は100点を満点とし、次の3つの課題に配点します。 (1) 小レポート(30点)(到達目標4, 5) (2) 大レポート(40点).....授業内容に関連するテーマについてのレポート。(到達目標1, 2) (3) リフレクション・ノート(30点).....各回の授業終了時に記入し提出する。(到達目標3, 6) | | | | | | |
| 教科書・参考書等 | 【教/参の別】 | 【書籍名】 | | 【著者】 | 【出版社】 | 【出版年】 | |
| | 参考書 | 『大学生の学び・入門』 | | 溝上慎一 | 有斐閣 | 2006 | |
| | 参考書 | 『大学教育学』 | | 京都大学高等教育研究開発推進センター | 培風館 | 2003 | |
| | 参考書 | 『教育の職業的意義 若者、学校、社会をつなぐ』 | | 本田由紀 | 筑摩書房 | 2009 | |
| | 参考書 | 『大学の学び 教育内容と方法』 | | 杉谷祐美子(編) | 玉川大学出版会 | 2011 | |
| | 参考書 | 『街場の大学論』 | | 内田樹 | 角川書店 | 2010 | |
| 教科書・参考書等に関する記述欄 | 参考書は、授業内容の理解を深めるのに役立ちます。その他の関連する文献も探してみてください。 | | | | | | |
| 自由記述欄 | 各回の授業は、教員による講義と学生同士の意見交換を中心に進めます。自分の考えを持ち、それを他者に伝えること、また他者の考えを聴くことを重視します。 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|---|--|-----------|--------------|---|------------|---------|--------------|
| 科目コード | 5100140 | | | 単位 | 2 | 時間数 | 30 |
| 授業科目名 | 倫理リテラシー | | | 開講学期等 | 前期 | 時間割 | 木3・4 |
| 授業科目名英字 | Ethics Literacy | | | | | | |
| 備考 | | | | 授業の形式 | | 必修・選択 | 選択 |
| | | | | 受講対象学生 | 全学部 1年生以上 | | |
| 内容的に密接に関係する授業科目 | | | | 履修する際に前提とする授業科目 | | | |
| 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 | 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 |
| 銭谷 秋生 | 教育推進総合センター | 2252 | 018-889-2252 | 石井 範子 | 医学系研究科 | 6515 | 018-884-6615 |
| 坪井 ひろみ | 工学資源学研究科 | 2842 | 018-889-2842 | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| オフィスアワー | 【曜日及び時間】 | 銭谷：水曜3・4限 | | 【場所】 | 学生支援棟2階教員室 | | |
| 授業の目的 | | | | 授業の到達目標 | | | |
| 現代社会の様々な領域において解決や決断を迫られている倫理的問題を抽出し、その由来、内容、解決策を考えるために押さえておくべき論点などを論じることで、現代社会が内包する倫理的問題の地図を提示する。 | | | | 1) 「善き生」や「正義にかなった社会」の諸原則を理解し、説明できる。 2) 今日の社会がどのような新たな倫理的問題を内包しているのかを説明できる。 3) それらの問題を考えるために押さえておくべき論点を整理できる。 4) そのような論点を整理をしたうえで、想像力と分析力をもって、問題に関して自ら意見を述べることができる。 | | | |
| カリキュラム上の位置付け | 本学の教育目標1の「社会の変化に柔軟に対応できる幅広い教養」ならびに教養基礎教育の目標2の「現代の諸問題の認識」に関わる科目である。 | | | | | | |
| 授業の概要 | 【授業の概要】 例えば医療技術の進歩は、これまでの価値観の枠組みが予想していないような倫理的問題を課してくる。家畜に应用されているクローン産生技術を用いて人間を生み出すことにも応用していかといった問題、あるいは人工呼吸器をつけてやれば脳幹の機能は停止していても心臓は動き続ける患者を「死亡した」人間とみなしていかといった問題がこれに当たる。医療以外の場でも、このような新しい倫理的問題が姿を現している。この講義では、時代の進展とともに生じてきた新たな倫理的問題を取り上げ、論点を整理し、学生の皆さんが「よく」生きることを考えていく上での材料を提供したい。 | | | | | | |
| 授業の進行予定及び進め方 | 【進行予定と進め方】 1) 「善き生」と道徳の原則 なぜ道徳というようなものが必要なのかということの考察 2) 「正義にかなった社会」の諸構想 リベラリズムをめぐる論争の考察 3) グローバリズムが引き起こす倫理的問題 資源、モノ、技術、企業形態と貧困との関わりの考察 4) 医療の場でのジレンマ問題 医療・看護の場でのような倫理的問題が起るのかということの考察 5) 生命倫理の諸問題 生命の処遇をめぐって生じてきている倫理的問題の考察 | | | | | | |
| 授業に関連するキーワード | 善き生 | | 社会正義 | | グローバリズム | | |
| | 医療・看護とジレンマ | | 生命倫理 | | | | |
| 成績評価の方法 | 期末のレポート（授業内容に関連するテーマについてのレポート）で評価する。 | | | | | | |
| 教科書・参考書等 | 【教/参の別】 | 【書籍名】 | | 【著者】 | 【出版社】 | 【出版年】 | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| 教科書・参考書等に関する記述欄 | 参考文献は、その都度、講義の中で紹介していく。 | | | | | | |
| 自由記述欄 | | | | | | | |

| | | | | | | | |
|---|---|-----------------|--------|---|------------------------------------|---------|--------|
| 科目コード | 5110040 | | | 単位 | 2 | 時間数 | 30 |
| 授業科目名 | 心理学 - 心の科学史 - | | | 開講学期等 | 前期 | 時間割 | 月3・4 |
| 授業科目名英字 | Psychology I: Introduction to Psychology | | | | | | |
| 備考 | 認定心理士指定科目 | | | 授業の形式 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| | | | | 受講対象学生 | 全学部 1～4年 | | |
| 内容的に密接に関係する授業科目 | | | | 履修する際に前提とする授業科目 | 受講希望者が150名を越えた場合には、抽選によって受講生を選抜する。 | | |
| 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 | 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 |
| 中野良樹 | 教育文化学部 | 教5-308 | 2591 | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| オフィスアワー | 【曜日及び時間】 | 金曜日 16:10～17:30 | | 【場所】 | 研究室 | | |
| 授業の目的 | | | | 授業の到達目標 | | | |
| 人間の心は知・情・意の機能が三位一体となることで成立するといわれる。本授業では、これら三つの機能について古典的な心理学の実験や理論を学び、それを踏まえて最近の脳科学などの知見に結びつけ、人間の心の有り様について自分なりに理解し、考察できるようにする。 | | | | 1) 認知、記憶、感情などの機能について心理学の基本的な知見、理論を説明できる。(最終テストによって評価) 2) 人間の心の仕組み、行動の原理について自分なりの考えを述べられる。(授業中に発言を求める) 3) 授業で取り上げた心理学の知見や理論をもとに、自分なりの人間観を表現できる。(授業内のレポートで評価) | | | |
| カリキュラム上の位置付け | 認定心理士必修科目 | | | | | | |
| 授業の概要 | 【授業の概要】 最初に、知・情・意に関わる心のはたらきの中から、「知」の部分について視覚、記憶、思考など認知心理学の知見を取り上げる。続いて、「情」と「意」のはたらきについて、動物の学習行動、作業記憶と自己意識、感情心理学などについて、比較心理学、認知神経科学、発達心理学などの知見を援用しながら説明する。 | | | | | | |
| 授業の進行予定及び進め方 | 1. 心の科学への招待 「心」への科学的アプローチとは 第1部 「知」の科学 2. 視覚の冒険 実験心理学の王道をゆく 3. 人はいかにして世界を知るのか？(1) 形の知覚 4. 人はいかにして世界を知るのか？(2) 主観的輪郭と遮蔽 5. 人はいかにして世界を知るのか？(3) 立体視 6. 直観から思い出まで 記憶の伝統的な分類法 7. 記憶をつむぐメカニズム 記憶の体系化と精緻化 8. 「忘れる」ことの幸せと不幸せ 記憶と忘却の神経心理学 9. 人間の知、機械の知 問題解決をめぐる認知科学と認知工学 10. 人間の賢さと愚かさ 思考のクセを知る 第2部 「情と意」の科学 11. 人間と動物の心に境界はあるのか？ 行動主義心理学の興亡 12. 「自分を知る」のは人間だけなのか？ 作業記憶から自己意識への展開 13. 心の進化の行く先 自己意識をめぐる比較心理学の発展 14. 「こころ」と「あたま」と「きもち」- 前頭葉の認知神経科学 15. 私たちは悲しいから泣くのか、泣くから悲しいのか？ 感情をめぐる永い議論 上記の講義日程終了後に試験を行う | | | | | | |
| 授業に関連するキーワード | 認知心理学 | 生理心理学 | 感情心理学 | | | | |
| | 心と脳 | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 授業中に2回～4回の抜き打ちレポートを実施する。レポートでは授業の内容を理解した上で自分なりの考えを述べられるかを評価する(到達目標3)。レポートを実施した授業に欠席した受講生は、翌週の授業で担当教員からレポート用紙を受け取り、その翌週の授業で提出する。これ以外の方法での提出は認めない。欠席が事前に報告されていない場合は、評価は大幅に下がる。最終週の試験では授業で取り上げた心理学の知見や理論に関して基本的な説明を求める(到達目標1)。レポートの評価と試験の点数をそれぞれ50%とし、総点が60点以上の受講生に単位を認める。なお、試験の欠席は原則認めない。 | | | | | | |
| 教科書・参考書等 | 【教/参の別】 | 【書籍名】 | | 【著者】 | 【出版社】 | 【出版年】 | |
| | 教科書 | 『グラフィック心理学』 | | 北尾・中島ら | サイエンス社 | | |
| | 参考書 | 『サブリミナル・マインド』 | | 下條信輔 | 中公新書 | | |
| | | | | | | | |
| 教科書・参考書等に関する記述欄 | | | | | | | |
| 自由記述欄 | | | | | | | |

| | | | | | | | |
|---|--|----------------|--------|--|----------|---------|--------|
| 科目コード | 5110060 | | | 単位 | 2 | 時間数 | 30 |
| 授業科目名 | 人間関係論 A - 対人・対話・対応 - | | | 開講学期等 | 前期 | 時間割 | 木5・6 |
| 授業科目名英字 | Human Relations | | | | | | |
| 備考 | 受講生は150名以内とします | | | 授業の形式 | 講義・学生参加型 | 必修・選択 | 選択 |
| | | | | 受講対象学生 | | | |
| 内容的に密接に関係する授業科目 | 人間関係論 - 社会の中での私 - | | | 履修する際に前提とする授業科目 | 特になし | | |
| 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 | 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 |
| 佐々木久長 | 医学部 | C-115 | 6506 | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| オフィスアワー | 【曜日及び時間】 | 木曜日16:30-17:00 | | 【場所】 | C-115 | | |
| 授業の目的 | | | | 授業の到達目標 | | | |
| 人間関係に関する基礎的理論を知り、ペアワーク等の経験を通して、より円滑な人間関係を営むことができるようにする。 | | | | 1. 人間関係に関する心理学・社会的理論について理解する 2. 初対面の人と向き合い、相手の話を聴いて気持ちを受けとめることができるようになる 3. 悩んでいる友人に対し、適切な対応ができるようになる | | | |
| カリキュラム上の位置付け | 人間関係に自信が持てない学生が、ある程度自信をもって他者とかわることができるようになるために必要な知識を体験的に学習する科目である | | | | | | |
| 授業の概要 | 【授業の概要】 講義とペアワークを行う | | | | | | |
| 授業の進行予定及び進め方 | 【進行予定と進め方】 授業の進行予定は下記の通り。 総論（自己理解、人間存在、出会いと関係性などについて学習する） <ol style="list-style-type: none"> 人間関係における心の動き 人間関係の主体者としての「私」 人間の存在性について 出会いと関係性の分析 実習（ペアワークを取り入れ、傾聴や話し合いの仕方について学習する） <ol style="list-style-type: none"> ペアワーク（1）- 相手の存在を受けとめる ペアワーク（2）- 相手の話を聴く（傾聴の基本） ペアワーク（3）- コミュニケーション（相手を理解する） ペアワーク（4）- 聴くこと・語ることの意味 各論（人間関係に関するテーマについて学習する） <ol style="list-style-type: none"> 好き・恋愛・愛情、そして友情について考える（1） 好き・恋愛・愛情、そして友情について考える（2） 人間関係における神経症的傾向についての理解 人間関係における援助と攻撃 人間関係における受容と拒否 家族という関係性 15. 試験 | | | | | | |
| 授業に関連するキーワード | 自己理解 | 他者理解 | | 対人認知 | | | |
| | コミュニケーション | 傾聴 | | ペアワーク | | | |
| 成績評価の方法 | 15回目に試験を行い、60点以上を合格とする 11回以上の出席を受験資格とする | | | | | | |
| 教科書・参考書等 | 【教/参の別】 | 【書籍名】 | | 【著者】 | 【出版社】 | 【出版年】 | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| 教科書・参考書等に関する記述欄 | 教科書は指定しません 参考書等は講義中に紹介します | | | | | | |
| 自由記述欄 | | | | | | | |

| | | | | | | | |
|---|--|----------------|--------|--|----------|---------|--------|
| 科目コード | 5110061 | | | 単位 | 2 | 時間数 | 30 |
| 授業科目名 | 人間関係論 B - 対人・対話・対応 - | | | 開講学期等 | 前期 | 時間割 | 木7・8 |
| 授業科目名英字 | Human Relations | | | | | | |
| 備考 | 受講生は150名以内とします | | | 授業の形式 | 講義・学生参加型 | 必修・選択 | 選択 |
| | | | | 受講対象学生 | | | |
| 内容的に密接に関係する授業科目 | 人間関係論 - 社会の中での私 - | | | 履修する際に前提とする授業科目 | 特になし | | |
| 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 | 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 |
| 佐々木久長 | 医学部 | C-115 | 6506 | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| オフィスアワー | 【曜日及び時間】 | 木曜日16:30-17:00 | | 【場所】 | C-115 | | |
| 授業の目的 | | | | 授業の到達目標 | | | |
| 人間関係に関する基礎的理論を知り、ペアワーク等の経験を通して、より円滑な人間関係を営むことができるようにする。 | | | | 1. 人間関係に関する心理学・社会的理論について理解する 2. 初対面の人と向き合い、相手の話を聴いて気持ちを受けとめることができるようになる 3. 悩んでいる友人に対し、適切な対応ができるようになる | | | |
| カリキュラム上の位置付け | 人間関係に自信が持てない学生が、ある程度自信をもって他者とかわることができるようになるために必要な知識を体験的に学習する科目である | | | | | | |
| 授業の概要 | 【授業の概要】 講義とペアワークを行う | | | | | | |
| 授業の進行予定及び進め方 | 【進行予定と進め方】 授業の進行予定は下記の通り。 総論（自己理解、人間存在、出会いと関係性などについて学習する） <ol style="list-style-type: none"> 人間関係における心の動き 人間関係の主体者としての「私」 人間の存在性について 出会いと関係性の分析 実習（ペアワークを取り入れ、傾聴や話し合いの仕方について学習する） <ol style="list-style-type: none"> ペアワーク（1）- 相手の存在を受けとめる ペアワーク（2）- 相手の話を聴く（傾聴の基本） ペアワーク（3）- コミュニケーション（相手を理解する） ペアワーク（4）- 聴くこと・語ることの意味 各論（人間関係に関するテーマについて学習する） <ol style="list-style-type: none"> 好き・恋愛・愛情、そして友情について考える（1） 好き・恋愛・愛情、そして友情について考える（2） 人間関係における神経症的傾向についての理解 人間関係における援助と攻撃 人間関係における受容と拒否 家族という関係性 15. 試験 | | | | | | |
| 授業に関連するキーワード | 自己理解 | 他者理解 | | 対人認知 | | | |
| | コミュニケーション | 傾聴 | | ペアワーク | | | |
| 成績評価の方法 | 15回目に試験を行い、60点以上を合格とする 11回以上の出席を受験資格とする | | | | | | |
| 教科書・参考書等 | 【教/参の別】 | 【書籍名】 | | 【著者】 | 【出版社】 | 【出版年】 | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| 教科書・参考書等に関する記述欄 | 教科書は指定しません 参考書等は講義中に紹介します | | | | | | |
| 自由記述欄 | | | | | | | |

| | | | | | | | | |
|--|--|------------------|-----------------|---|-------------------------|---------|--------|--|
| 科目コード | 5110080 | | 単位 | 2 | | 時間数 | 30 | |
| 授業科目名 | 文学論 A - 教養読書基礎講義 - | | 開講学期等 | 前期 | | 時間割 | 金3・4 | |
| 授業科目名英字 | Lecture on Literature A:Lecture on liberal reading | | | | | | | |
| 備考 | | | 授業の形式 | 講義 | | 必修・選択 | 選択 | |
| | | | 受講対象学生 | 全学部 1～4年 | | | | |
| 内容的に密接に関係する授業科目 | 特になし | | 履修する際に前提とする授業科目 | 特になし | | | | |
| 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 | 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 | |
| 成田 雅樹 | 教育文化学部 | 教3-139・2531 | 2531 | | | | | |
| オフィスアワー | 【曜日及び時間】 | 月火木12:50～16:00 | | 【場所】 | 教文3-139（電話：889-2531） | | | |
| 授業の目的 | | | | 授業の到達目標 | | | | |
| <p>(1) 映像化された作品と原作の文章表現との比較によって、文学作品をストーリーやプロット、レトリックの面から分析する方法を学習し、文学の本質について考察する。</p> <p>(2) 文学作品を作者の生き方と比較して分析する方法を学習することを通して、文学の本質について考察する。</p> | | | | <p>(1) 原作の文章表現及び映像化された作品の構造を分析し、文学作品の様々な「しかけ」を理解することができる。</p> <p>(2) 原作と映像化された作品との比較を通して、文学的表現の本質について論ずることができる。</p> <p>(3) 一般的な近代文学作品と児童文学作品の構造及び表現上の違いについて論ずることができる。</p> | | | | |
| カリキュラム上の位置付け | 目的主題別としては「学問の方法」を主とする科目。また、教養基礎教育の目標2と関わって、文学作品を様々な方法で分析することを通して、文学を通して人間や文化を考察していく契機とするものであり、かつ発表、討論及び論文作成の基礎力を養おうとするものである。 | | | | | | | |
| 授業の概要 | 翻案（映画）と比較したり作者の伝記的資料を参照したりして作品の解釈を深め、レトリック等の文学的表現とその読み取り方を理解し、ミニレポートにまとめていく。 | | | | | | | |
| 授業の進行予定及び進め方 | <p>1(4/12)回...オリエンテーション(本授業の特色・進め方解説、批評理論の概説、ミニレポート「私にとつての文学」)</p> <p>2(4/19)～4(5/10)回...明治期の文学として、夏目漱石の作品とその映像の比較検討、及び作者夏目漱石と作品の関わりについて考察する。「それから」を扱う。ミニレポート(映像と原作の比較・作家の人生と作品の比較)</p> <p>5(5/17)～6(5/24)回...大正期の文学として、芥川龍之介との関わりについて考察する。「トロロコ」「厘気楼」を扱う。ミニレポート(作家の人生と作品との比較・長編と短編との比較・2作品の比較)</p> <p>7(5/31)～8(6/7)回...大正から昭和期の児童文学として、宮沢賢治の作品とその映像の比較検討、及び作者宮沢賢治と作品の関わりについて考察する。「注文の多い料理店」「ゼロ弾きのゴージュ」を扱う。ミニレポート(映像と原作との比較・作家の人生と作品との比較・児童文学と成人向け作品との比較・2作品の比較)</p> <p>9(6/14)回...昭和期の文学として、太宰治の作品と作者太宰治との関わりについて考察する。「人間失格」を扱う。ミニレポート(作家の人生と作品との比較・例えば「走れメロス」との比較)</p> <p>10(6/21)～11(6/28)回...昭和期の児童文学として、新美南吉の作品と作者新美南吉との関わりについて考察する。「ごんぎつね」を扱う。ミニレポート(以前の読後感との通時的比較・作家の人生と作品との比較)</p> <p>12(7/5)～13(7/12)回...現代的な文学作品として、よしもとばななの作品とその映像の比較検討、及び作者よしもとばななと作品の関わりについて考察する。「つぐみ」を扱う。ミニレポート(映像と原作との比較)</p> <p>14(7/19)～15(7/26)回...現代の児童文学作品として、立松和平のいわゆる命シリーズの比較検討、及び作者立松和平と作品の関わりについて考察する。「山のいのち」「海のいのち」「街のいのち」を扱う。ミニレポート(重ね読みによる「いのち」の意味の考察・絵本作品と文庫本作品との比較)</p> <p>16(8/2)回...試験(レポート)</p> | | | | | | | |
| 授業に関連するキーワード | 同化と異化及び通時的比較と共時的比較 | | 観想的態度 | | ストーリーとプロット及びアイロニーとリアリティ | | | |
| | 解釈と物語スキーマ | | 視点及びシーンとサマリー | | 芸術的価値と内容的価値及び気分情調とアレゴリー | | | |
| | 表層と深層及びメタファーとテーマ | | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 授業中の発表や討論などの状況と学習態度、及び授業中のノート・カード類とレポートの内容などを総合して評価する。出席と提出物の提出回数(作家ごとのミニレポート7枚等と試験レポート1枚)が2/3に満たない者は不可とする。この条件を満たしかつ授業で解説した内容を理解している場合：C、授業内容をふまえた自身の考察が到達目標に達している場合：B、Bの者で提出物の内容が到達目標に十分達していると認められる場合：A、Aの者で内容理解や考察が特に優れている場合：S。配点は概ね、授業中の取組3.5点、提出物の内容3.5点、試験レポートの内容3.0点とする。総合6.0点以上を合格(C以上)とする。追試・再試は行わない。 | | | | | | | |
| 教科書・参考書等 | 【教/参の別】 | 【書籍名】 | | 【著者】 | 【出版社】 | 【出版年】 | | |
| | 参考書 | 『文学理論のプラクティス』 | | 土田知則・青柳悦子 | 新曜社 | 2001 | | |
| | 参考書 | 『日本語の文体・レトリック辞典』 | | 中村明 | 東京堂出版 | 2007 | | |
| | | | | | | | | |
| 教科書・参考書等に関する記述欄 | 「それから」「人間失格」「つぐみ」以外の授業中に読むテキスト(原作の文章)及び資料は印刷して配布するが、図書館で借りるか文庫本を書店で購入することを勧める。また、作家の伝記的内容については、新潮社「文豪ナビ」シリーズが廉価で入門者向きである。 | | | | | | | |
| 自由記述欄 | ミニレポートは、各回の授業をふまえて、各回のシラバスにあるテーマで家庭学習した結果をまとめて翌週に提出する。「それから」「人間失格」「つぐみ」は事前に読んでおくこと。また、各作家のその他の作品を随時読み、授業中の発表に備えることが望ましい。 | | | | | | | |

| | | | | | | | |
|--|--|------------------------|--------------|---|---------------|---------|--------|
| 科目コード | 5110110 | | 単位 | 2 | 時間数 | 30 | |
| 授業科目名 | 日本の古典文学 | | 開講学期等 | 前期 | 時間割 | 金3・4 | |
| 授業科目名英字 | Japanese Classic | | | | | | |
| 備考 | 受講人数上限を50名とする。 | | | 授業の形式 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| | | | | 受講対象学生 | 全学部 1～4年 | | |
| 内容的に密接に関係する授業科目 | 日本文化基礎論III、日本文化論 | | | 履修する際に前提とする授業科目 | なし | | |
| 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 | 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 |
| 志立正知 | 教育文化学部日本・アジ | 教文3-132 | 018-889-2611 | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| オフィスアワー | 【曜日及び時間】 | 木曜日13:00～14:20 | | 【場所】 | 教3-132（志立研究室） | | |
| 授業の目的 | | | | 授業の到達目標 | | | |
| <p>日々の暮らしのなかで、何かに悩んだり迷ったりしたとき、古典を細解いてみると、ちょっと心が軽くなったり、問題解決のヒントが見つかったりします。古典に対する知識や理解を深めることで、先人達の知恵に学ぶとともに、現代日本文化や日本人としての私たち自身のアイデンティティを形成している文化的伝統を自覚的に扱う意識を育てることを、本授業の目的とします。</p> | | | | <p>1. 基礎的教養としての古典文学に対する知識を習得し、古典に親しむことができる。 2. 作品の歴史的・思想的背景に対する基礎的知識を身につけ、それについて説明できる。 3. 古人の知恵に学び、現代が古典から継承しているものについて、自らの力で考え論じることができる。 4. 自らの意見を積極的に発信するとともに、他者の意見に耳を傾け、効果的な議論ができる。</p> | | | |
| カリキュラム上の位置付け | 幅広く深い教養、多角的でしなやかな思考力、総合的かつ自律的判断力を培い、豊かな人間性を涵養するという教養教育の目的に即し、大学人として必須の日本文化に対する基礎的理解と、それに根ざして今・自分を捉え直す力を身につけることをねらいとしています。目的主題別科目としては、人文科学分野における「学問の体系」を重視します。 | | | | | | |
| 授業の概要 | <p>【授業の概要】 古典文学作品、は先人達の英知の結晶です。そこには、当時の文化・思想などの伝統がさまざまな形で投影されています。それが今日なお読みつがれているのは、そこに普遍的な「人間」に対する深い洞察が潜んでいるからです。だからこそ、古典作品は今日なお生き生きとした光を放っているのです。 授業では、今日もっとも親しまれている古典のひとつである『徒然草』を扱います。『徒然草』の内容は多様で、ときに真摯な求道者の側面を見せるかと思えば、極めて実利的な実生活に即した処世訓を記したりもしています。だからこそ、時代や状況によってさまざまな読み方がなされてきたのです。こうした『徒然草』の多様な側面それぞれに光を当てながら、兼好の生きた時代状況・思想的背景などを踏まえることで、兼好の求めた本</p> | | | | | | |
| 授業の進行予定及び進め方 | <p>【進行予定と進め方】 1. 古典・テキストという概念について〔概説〕 2. 中世的価値観の誕生と現代 3. 『徒然草』前後 兼好の生きた時代とその前後 4. 『徒然草』の構成 5～7. 若き兼好と『徒然草』 序～三十段前後 貴族的価値観・無常の肯定・隠棲への志向 8. 詠嘆的無常観から積極的無常観へ 9～10. 無常との対峙【課題1】 「無常迅速」の認識・「寸陰愛惜」・「諸縁放下」 11. 兼好の無常観のまとめ・兼好の眼差しとは〔課題1レポート提出〕 12～13. 兼好の眼差しと現実感覚【課題2】 処世訓としての『徒然草』・『徒然草』の笑話 14. 王朝への憧憬【課題2レポート提出】 15. まとめ</p> | | | | | | |
| 授業に関連するキーワード | 中世(鎌倉末～南北朝) | 無常観 | | 人間観 | | | |
| | 自然観 | 隠遁 | | 伝統的美意識 | | | |
| | 帰属的価値観 | | | | | | |
| 成績評価の方法 | <p>1) レポート2回(各30%) 2) 課題に対する発言(20%) 3) リフレクション・ノート(毎回授業終了時に記入・提出、20%) 上記の総合で100点満点中、60点以上を合格とする。出席時数の取り扱いは、「単位認定の決まり」による。</p> | | | | | | |
| 教科書・参考書等 | 【教/参の別】 | 【書籍名】 | | 【著者】 | 【出版社】 | 【出版年】 | |
| | テキスト | 『ピギナーズ・クラシック日本の古典 徒然草』 | | | 角川文庫 | | |
| | 参考書 | 『徒然草を読む』 | | 永積安明 | 岩波新書 | | |
| | 参考書 | 『無常観の文学』 | | 小林智昭 | 弘文堂 | | |
| | 参考書 | 『徒然草抜書』 | | 小松英雄 | 講談社学術文庫 | | |
| 教科書・参考書等に関する記述欄 | *テキストは、各自、書店・生協などで用意すること。 | | | | | | |
| 自由記述欄 | レポートでネットからのコピー等が発覚した場合には、即座に不可とします。 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|---|--|-----------|-----------------|--|---------------|------------|--------|
| 科目コード | 5110120 | | 単位 | 2 | 時間数 | 30 | |
| 授業科目名 | 東洋思想史 | | 開講学期等 | 前期 | 時間割 | 木1・2 | |
| 授業科目名英字 | Cultures in Japan and Asia V:History of Oriental Thought | | | | | | |
| 備考 | | | 授業の形式 | 講義 | 必修・選択 | 選択 | |
| | | | 受講対象学生 | 全学部 1～4年 | | | |
| 内容的に密接に関係する授業科目 | 中国文化基礎論、中国文化論、日中比較文化論、中国史基礎論、アジア歴史文化論 | | 履修する際に前提とする授業科目 | | | | |
| 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 | 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 |
| 吉永慎二郎 | 日本・アジア文化 | 2609 | 2609 | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| オフィスアワー | 【曜日及び時間】 | 木曜日 7・8時限 | | 【場所】 | 3-130 (吉永研究室) | | |
| 授業の目的 | | | | 授業の到達目標 | | | |
| 学習者がユーラシア的及び世界的視野からの中国文明や日本文明の展開に関する思想的テーマや文明のシステムについての理解を深め、今日のアジア、世界を見るための知見や方法的諸概念を習得することを目的とする。 | | | | 学習者は、1.ユーラシアの世界史的な文明の伝播、2.中国文明の成立と思想的展開、3.中国文明の持続のシステム、4.日本文明の成立と持続のシステム、5.日中両文明の近代化、6.文明の集積としての国家論についての知見や方法的諸概念を身につける。 | | | |
| カリキュラム上の位置付け | 総合基礎教育の教養科目として、「学問の体系・知識の伝授を通じて、学問の古典的な体系やその視点に触れる」を主とする。また専門の中国文化論(思想史)、日中比較文化論への導入としての位置づけを持つ。 | | | | | | |
| 授業の概要 | 【授業の概要】今日の世界を形成するさまざまな文明の一つとしての中国文明も他の影響と無関係に自足的に展開してきたわけではない。古代の麦の生産・彩陶・青銅器・鉄器・馬車(戦車)などの技術や知識はいずれも、西方メソポタミアから伝播し、また文字の伝播についても同様である。インドからの仏教の伝播は中国仏教を展開させ、やがてその空観を摂取した新儒学としての朱子学が登場する。近代では西欧・ソ連からの社会主義思想が現代中国を生み出した。日本文明はこれらの文明伝播の波を受けつつも中国とは対照的な独自のシステムを形成し、西欧近代文明を受容しての近代化過程ではアジアをはじめ世界的に大きな影響を与えつつ今日に至る。本講義ではユーラシア世界即ち東洋の世界において展開した文明の伝播を基軸に、中国文明、日本文明を世界史的観点から俯瞰しかつ比較しつつ、いくつかのテーマを設けて思想史的方法により概説する。 | | | | | | |
| 授業の進行予定及び進め方 | 【授業の進行予定と進め方】 1.近代文明の展開とさまざまな文明から成る世界 2.ユーラシアにおける文字の伝播と漢字(漢字のルーツはどこか) 3.ユーラシアにおける文明の伝播と中国文明及び日本文明の形成 4.地下型他界観と殷の帝の思想とアニミズム 5.天上型他界観と周の天の思想と一神教 6.天の思想と孔子 7.孔子の思想と墨家 8.墨家の思想と孟子 9.孟子から董仲舒そして朱子学へ 10.国家論の類型(1)-易姓革命の論理と王権神授説 11.国家論の類型(2)-社会契約論と近代国民国家 12.中国文明の持続のシステム(儒教国教化と政教一体構造) 13.日本文明の持続のシステム(仏教国教化と政教分立構造) 14.日本文明の近代化とそのメカニズム 15.中国文明の近代化とその課題 16.テスト | | | | | | |
| 授業に関連するキーワード | 文化と文明 | | 文明の伝播 | | 文明持続のシステム | | |
| | 地下型他界観と天上型他界観 | | 政教一体と政教分立 | | 易姓革命と万世一系 | | |
| | 近代化と現代化と民主化 | | 立憲君主制と大統領制 | | 三権分立と一党独裁 | | |
| 成績評価の方法 | テスト1回(80%)及び学習態度(20%)を総計して100点満点とし、60点以上を合格とする。テストは記述式とし、授業の知識・知見の基本的理解と習得が示されているかどうか、また論理的に見解が記述されているかどうか等を評価基準とする。欠席5回の時点で評価はDとする。 | | | | | | |
| 教科書・参考書等 | 【教/参の別】 | 【書籍名】 | | 【著者】 | 【出版社】 | 【出版年】 | |
| | 参考書 | 『中国史上・下』 | | 宮崎市定 | 岩波全書 | 昭和52(1977) | |
| | 参考書 | 『中国文明史』 | | W.エーバーハルト | 筑摩 | 平成3(1991) | |
| | 参考書 | 『儒教とは何か』 | | 加地伸行 | 中公文庫 | 平成2(1990) | |
| | 参考書 | 『パウツグ・仏教』 | | 中村元 | 小学館 | 昭和62(1987) | |
| 参考書 | 『戦国思想史研究』 | | 吉永慎二郎 | 朋友書店 | 平成16(2004) | | |
| 教科書・参考書等に関する記述欄 | 教科書は特になし、授業にて配布するプリントと講義内容が教科書に相当します。 | | | | | | |
| 自由記述欄 | | | | | | | |

| | | | | | | | |
|--|---|---------------|--------------|---|-----------|---------|--------|
| 科目コード | 5110140 | | | 単位 | 2 | 時間数 | 30 |
| 授業科目名 | 教育学 - 現代社会と教育 - | | | 開講学期等 | 前期 | 時間割 | 火7・8 |
| 授業科目名英字 | Pedagogy :Modern Society and Education | | | | | | |
| 備考 | | | | 授業の形式 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| | | | | 受講対象学生 | 全学部 1～4年 | | |
| 内容的に密接に関係する授業科目 | | | | 履修する際に前提とする授業科目 | | | |
| 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 | 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 |
| 佐藤修司 | 学校教育課程 | 教文5号館503室 | 018-889-2541 | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| オフィスアワー | 【曜日及び時間】 | 金曜16:00-17:00 | | 【場所】 | 教文5号館509室 | | |
| 授業の目的 | | | | 授業の到達目標 | | | |
| 学校教育にとどまることなく、生涯にわたる人間の発達をトータルに捉え、現代社会における教育のありようをさまざまな角度から分析する。 | | | | 教育の側面から人間存在の現代社会における位置と課題・展望についての認識を獲得し、それを通して自らの成長過程・学校体験を相対化し、自己の存在を未来に向けて開いていく契機とする。 | | | |
| カリキュラム上の位置付け | 教育学関連科目の導入的位置にある。 | | | | | | |
| 授業の概要 | 【授業の概要】 現代社会と教育のありようについて、さまざまな映像資料を基本にしながらかえる。教育や学校、教師、そして、学校が抱えるさまざまな課題について考察を深める。 | | | | | | |
| 授業の進行予定及び進め方 | 【進行予定と進め方】 オリエンテーション：教育について考える 学校について考える(1)：映画『学校』を素材に 学校について考える(2)：" 教師について考える(1)：プロフェッションとしての教師 教師について考える(2)：" 子どもについて考える(1)：夜回り先生を素材に 子どもについて考える(2)：" 体罰・懲戒について考える 校則・子どもの人権について考える 受験競争について考える いじめについて考える 不登校について考える 引きこもりについて考える 戦争・平和と教育について考える グループ別検討会 授業内でレポートを作成し、発表するなどのことを行う。 | | | | | | |
| 授業に関連するキーワード | 学校 | 教師 | 子ども | | | | |
| | 人権 | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 履修カード・授業内レポート(30%)、レポート(30%)、最終試験(40%) | | | | | | |
| 教科書・参考書等 | 【教/参の別】 | 【書籍名】 | 【著者】 | 【出版社】 | 【出版年】 | | |
| | 参考書 | 『よくわかる教育原理』 | 汐見稔幸他 | ミネルヴァ書房 | 2011 | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| 教科書・参考書等に関する記述欄 | 授業内で適宜指示する。 | | | | | | |
| 自由記述欄 | | | | | | | |

| | | | | | | | |
|---|---|-----------------------------------|-----------------|--|-------------|---------|--------|
| 科目コード | 5110150 | | 単位 | 1 | 時間数 | 15時間 | |
| 授業科目名 | 教育学 A - 現代社会と子育て支援 - | | 開講学期等 | 前期前半 | 時間割 | 木3・4 | |
| 授業科目名英字 | Pedagogy A : Modern Society and Child care support | | | | | | |
| 備考 | | | 授業の形式 | 講義および演習 | 必修・選択 | 選択 | |
| | | | 受講対象学生 | 全学部 1～4年 | | | |
| 内容的に密接に関係する授業科目 | | | 履修する際に前提とする授業科目 | | | | |
| 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 | 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 |
| 奥山順子 | 発達教育 | 教育文化学部5-308 | 018-889-2677 | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| オフィスアワー | 【曜日及び時間】 | 水曜日16:00-18:00 | | 【場所】 | 教育文化学部5-308 | | |
| 授業の目的 | | | | 授業の到達目標 | | | |
| 現代社会における家族、特に乳幼児を育てる家族と地域社会とのかかわりの課題を考える。 これからの学校や幼児教育・保育施設の役割について考える。 | | | | 子育てにかかわる親や保育者等の様々な人々の意識や、専門機関の役割が、現代社会の中でどのような変化を求められているのかについて問題意識を持つ。 現代の子育て・保育と地域社会・家庭とのかかわりについて自らの課題をとらえて考察する。 | | | |
| カリキュラム上の位置付け | | | | | | | |
| 授業の概要 | 【授業の概要】 現代社会における子育てや教育、各種データや資料をもとに考察し、現代的な課題を通して子どもの発達や教育の本質を問う。 | | | | | | |
| 授業の進行予定及び進め方 | 【進行予定と進め方】 1. 子育てと地域社会 子育てと地域社会のかかわりを歴史的視点から考察する。地域社会の教育機能 2. 家庭の変化と子どもの価値 家族関係や家庭の機能の変化は、子どもの発達にどのような影響を及ぼしたか。家庭と学校（幼稚園・保育所）との関係 3. 子どもが育つ環境 子どもは誰が育てるのか 4. 子どもが育つ環境 大人にとっての子どもとは 5. 「子育て支援」とは？ 「子育て支援」の目的、実践の現状と課題 誰が誰を支援するか？ 6. 地域の実情と子育て事情 多様な課題と可能性 7. サービスと保育 企業による保育、保育サービス事業、子育ての外注化などについて、「ニーズに応じる保育」を、「ニーズを育てる」観点から検討し、これからの社会における子育てのあり方、親の役割を考える。 8. まとめ | | | | | | |
| 授業に関連するキーワード | 教育 | 育児 | | 社会 | | | |
| | 子育て支援 | | | | | | |
| 成績評価の方法 | レポート70% 授業中の課題30% | | | | | | |
| 教科書・参考書等 | 【教/参の別】 | 【書籍名】 | | 【著者】 | 【出版社】 | 【出版年】 | |
| | 参考書 | 『子育て支援とNPO』 | | 原田正文 | 朱鷺書房 | 2002年 | |
| | 参考書 | 『<育てられる者>から<育てる者>へ 関係発達 の視点から』 | | 鯨岡峻 | NHKブックス | 2002年 | |
| | 参考書 | 『子ども学序説』 | | 浜田寿美男 | 岩波書店 | 2009年 | |
| 教科書・参考書等に関する記述欄 | | | | | | | |
| 自由記述欄 | | | | | | | |

| | | | | | | | |
|---|---|-----------------------------------|-----------------|--|-------------|---------|--------|
| 科目コード | 5110151 | | 単位 | 1 | 時間数 | 15時間 | |
| 授業科目名 | 教育学 B - 現代社会と子育て支援 - | | 開講学期等 | 前期後半 | 時間割 | 木3・4 | |
| 授業科目名英字 | Pedagogy B : Modern Society and Child care support | | | | | | |
| 備考 | | | 授業の形式 | 講義および演習 | 必修・選択 | 選択 | |
| | | | 受講対象学生 | 全学部 1～4年 | | | |
| 内容的に密接に関係する授業科目 | | | 履修する際に前提とする授業科目 | | | | |
| 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 | 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 |
| 奥山順子 | 発達教育 | 教育文化学部5-308 | 018-889-2677 | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| オフィスアワー | 【曜日及び時間】 | 水曜日16:00-18:00 | | 【場所】 | 教育文化学部5-506 | | |
| 授業の目的 | | | | 授業の到達目標 | | | |
| 現代社会における家族、特に乳幼児を育てる家族と地域社会とのかかわりの課題を考える。 これからの学校や幼児教育・保育施設の役割について考える。 | | | | 子育てにかかわる親や保育者等の様々な人々の意識や、専門機関の役割が、現代社会の中でどのような変化を求められているのかについて問題意識を持つ。 現代の子育て・保育と地域社会・家庭とのかかわりについて自らの課題をとらえて考察する。 | | | |
| カリキュラム上の位置付け | | | | | | | |
| 授業の概要 | 【授業の概要】 現代社会における子育てや教育、各種データや資料をもとに考察し、現代的な課題を通して子どもの発達や教育の本質を問う。 | | | | | | |
| 授業の進行予定及び進め方 | 【進行予定と進め方】 1. 子育てと地域社会 子育てと地域社会のかかわりを歴史的視点から考察する。地域社会の教育機能 2. 家庭の変化と子どもの価値 家族関係や家庭の機能の変化は、子どもの発達にどのような影響を及ぼしたか。家庭と学校（幼稚園・保育所）との関係 3. 子どもが育つ環境 子どもは誰が育てるのか 4. 子どもが育つ環境 大人にとっての子どもとは 5. 「子育て支援」とは？ 「子育て支援」の目的、実践の現状と課題 誰が誰を支援するか？ 6. 地域の実情と子育て事情 多様な課題と可能性 7. サービスと保育 企業による保育、保育サービス事業、子育ての外注化などについて、「ニーズに応じる保育」を、「ニーズを育てる」観点から検討し、これからの社会における子育てのあり方、親の役割を考える。 8. まとめ | | | | | | |
| 授業に関連するキーワード | 教育 | 育児 | | 社会 | | | |
| | 子育て支援 | | | | | | |
| 成績評価の方法 | レポート70% 授業中の課題30% | | | | | | |
| 教科書・参考書等 | 【教/参の別】 | 【書籍名】 | | 【著者】 | 【出版社】 | 【出版年】 | |
| | 参考書 | 『子育て支援とNPO』 | | 原田正文 | 朱鷺書房 | 2002年 | |
| | 参考書 | 『<育てられる者>から<育てる者>へ 関係発達 の視点から』 | | 鯨岡峻 | NHKブックス | 2002年 | |
| | 参考書 | 『子どもという価値』 | | 柏木恵子 | 中公新書 | 2001年 | |
| 教科書・参考書等に関する記述欄 | | | | | | | |
| 自由記述欄 | | | | | | | |

| | | | | | | | |
|--|---|-----------------|--|---------|-----------------|---------|--------|
| 科目コード | 5110160 | 単位 | 2 | 時間数 | 16 | | |
| 授業科目名 | 芸術と文化 - 日本の音楽文化 - | 開講学期等 | 前期 | 時間割 | 水9・10 | | |
| 授業科目名英字 | Art and Culture I : Japanese Music | | | | | | |
| 備考 | 授業の形式 | | 講義 | 必修・選択 | 選択 | | |
| | 受講対象学生 | | 全学部 1～4年 | | | | |
| 内容的に密接に関係する授業科目 | 芸術と文化 II 世界の音楽 | | 履修する際に前提とする授業科目 | | | | |
| 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 | 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 |
| 武内 恵美子 | 音楽教育講座 | 2565 | 018-889-2565 | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| オフィスアワー | 【曜日及び時間】 | 水曜日 14：30～16:00 | | 【場所】 | 教育文化学部2号館 206号室 | | |
| 授業の目的 | | | 授業の到達目標 | | | | |
| 日本の音楽の歴史を理解し、他国の音楽との相違を認識する。また音楽文化が社会に与える影響、果たす役割について理解する。 | | | 日本人としてのアイデンティティを持ち、日本の音楽について他者に説明し、議論できるようになる。留学生の場合は日本のことをより深く理解する。 | | | | |
| カリキュラム上の位置付け | 幅広い教養としての日本文化ならびに音楽の知識を身に付け、音楽文化に対し偏りのない柔軟な姿勢と判断力を培う。 | | | | | | |
| 授業の概要 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の参考となる資料を配付し、それに沿って説明する。 2. 該当する音楽文化について、AV資料で確認する。 3. 該当する音楽文化の楽器等を回覧し、形態および音の出し方等を確認する。音楽視聴の関係で、終了時刻が数分程度延長する場合があります。 | | | | | | |
| 授業の進行予定及び進め方 | <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、古代の音楽1 縄文～古墳時代の音楽文化 2. 古代の音楽2 神楽、シルクロードの音楽 3. 古代の音楽3 雅楽・伎楽等 4. 古代の音楽3 声明 5. 中世の音楽1 舞の系譜 白拍子、曲舞、幸若舞 6. 中世の音楽2 能楽(猿楽) 7. 中世の音楽3 狂言 8. 中世の音楽4 田楽、平曲、風流、オラシヨ等 9. 近世の音楽1 歌舞伎 10. 近世の音楽2 文楽 11. 近世の音楽3 三味線音楽 12. 近世の音楽4 地歌箏曲、尺八等 13. 近代の音楽1 浪曲、唱歌、童謡 14. 近代の音楽2 浅草オペラ、宝塚歌劇団等 15. 現代の音楽 歌謡曲 16. 試験 <p>音楽視聴の関係で、終了時刻が数分程度延長する場合があります。</p> | | | | | | |
| 授業に関連するキーワード | 日本音楽史 | 音楽 | 文化 | | | | |
| | 日本文化 | | | | | | |
| 成績評価の方法 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 試験70%、受講姿勢30%により評価。 2. 全体の1/3(5回)以上欠席した場合は試験を受けても単位は認定しません。 3. 授業中の私語、携帯電話・MP3プレーヤー・ワンセグ等の操作は厳禁です。 4. 注意をしても受講態度を改めない場合は退室してもらいます。その場合その回の出席はカウントしません。 5. 30分以上遅刻の場合は欠席とみなします。実験等での遅刻も同様とみなします。 6. 事前に報告のない早退は認めません。 7. 出席が足りていても試験を受けない場合は単位は認定しません。 | | | | | | |
| 教科書・参考書等 | 【教/参の別】 | 【書籍名】 | 【著者】 | 【出版社】 | 【出版年】 | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| 教科書・参考書等に関する記述欄 | なし 授業でプリントを配布。 | | | | | | |
| 自由記述欄 | 受講登録が150名を越える場合は抽選の上、150名に限定します。 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|--------------------|--|-----------|--------------|--|----------|---------|--------|
| 科目コード | 5110190 | | | 単位 | 2 | 時間数 | 30 |
| 授業科目名 | 倫理と人間 - 人間とは何か - | | | 開講学期等 | 前期 | 時間割 | 木5・6 |
| 授業科目名英字 | Human Ethics: What is Human Being? | | | | | | |
| 備考 | | | | 授業の形式 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| | | | | 受講対象学生 | 全学部 1～4年 | | |
| 内容的に密接に関係する授業科目 | 倫理学概論、西洋倫理思想史、比較倫理思想史、比較思想論 | | | 履修する際に前提とする授業科目 | 特になし | | |
| 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 | 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 |
| 立花希一 | 教育文化学部 | 教文3-127 | 018-889-2608 | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| オフィスアワー | 【曜日及び時間】 | 火曜日 7 8 限 | | 【場所】 | 研究室 | | |
| 授業の目的 | | | | 授業の到達目標 | | | |
| 人間と人間社会に対する理解をめざす。 | | | | 人間や人間社会に対するアプローチや見解の多様性を知り、自己の人間観、社会観を形成する足掛かりをもてるようになること。 | | | |
| カリキュラム上の位置付け | 民主主義社会においては個々人が自分なりの見識をもつことが求められるが、そうした市民たるに必要な教養教育科目である。 | | | | | | |
| 授業の概要 | 【授業の概要】 「人間とは何か」を、いろいろな視点からアプローチする講義を行う。正解を提示するのではなく、受講生ひとりひとりが考えるきっかけを与えられるような講義にする予定である。 | | | | | | |
| 授業の進行予定及び進め方 | 【進行予定と進め方】 授業の内容は概ね以下の通りである。 1. ガイダンス（教養教育と専門教育） 2. 3. 4. 定義（分類）、存在について 5. 6. 人間とは（1）機械としての人間 7. 8. 人間とは（2）生物としての人間 9. 10. 心の出現（創発） 11. 人間とは（3）理性的存在者としての人間 12. 人間とは（4）自然と人為 13. 人間とは（5）個人と社会 14. 人間とは（6）人間と教育 15. テスト 16. テスト返却（解説） | | | | | | |
| 授業に関連するキーワード | 人間 | 動物 | | 自律 | | | |
| | 理性 | 自然と人為 | | 社会 | | | |
| | 自己 | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 10回以上の出席で、期末試験を受ける資格が生じる。10回未満は自動的に単位取得ができないので注意すること。成績評価は、不定期に行う5回の筆記（20点）と期末テストによる。期末テストは首尾一貫した思想を自分の言葉でどの位表現できるかが基準となる。 | | | | | | |
| 教科書・参考書等 | 【教/参の別】 | 【書籍名】 | | 【著者】 | 【出版社】 | 【出版年】 | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| 教科書・参考書等に関する記述欄 | 教科書なし。プリントを用意する。参考文献は多数あるので、講義でプリントを渡す。 | | | | | | |
| 自由記述欄 | | | | | | | |

| | | | | | |
|--|--|---------------|---|---------|--------------|
| 科目コード | 5110200 | 単位 | 2 | 時間数 | 30 |
| 授業科目名 | 欧米の歴史 | 開講学期等 | 前期 | 時間割 | 木5・6 |
| 授業科目名英字 | Introduction to European and American History | | | | |
| 備考 | 授業の形式 | | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| | 受講対象学生 | | 全学部 1～4年 | | |
| 内容的に密接に関係する授業科目 | 履修する際に前提とする授業科目 | | | | |
| 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 | 【担当教員名】 | 【所属】 |
| 佐藤 猛 | 教育文化学部・欧米文化 | 教3 - 236 | 2666 | | |
| オフィスアワー | 【曜日及び時間】 | 水曜14：30～16：00 | | 【場所】 | 研究室（3 - 236） |
| 授業の目的 | | | 授業の到達目標 | | |
| グローバル化のなかで揺れ動く「国家」と「国民」という現代社会の枠組みを、ヨーロッパの歴史という視点から、いま一度みつめ直すことを目的とする。 | | | その具体的な題材として、中世ヨーロッパとくにフランス王国における国家の誕生、成り立ち、発展の歴史を検討することを通じて、その特徴といわれる封建制、王権、戦争、国民意識などの具体的な論点について説明することができる。 | | |
| カリキュラム上の位置付け | 目的主題別科目「人間発達と文化」の授業として、欧米社会が人類とその文化の発達に欠くことのできない役割を果たしてきたことをふまえ、その歴史の一側面を学ぶ。 | | | | |
| 授業の概要 | <p><【概要～中世ヨーロッパにおける国家の成り立ちと発展～】> 現代世界においては、グローバル化のなか、国境がなくなりつつあるといわれている。ここでは、ヒトやモノそして情報が国境を越えて行き来する反面、いま現在存在する「国家」や「国民」という枠組が、世界や地域の一体化に反発するような現象も起きている。ヨーロッパに限っていうならば、昨今のユーロ危機に対する各国の思惑の違いがさまざまなメディアを通じて知らされ、私たちはいま、ヨーロッパで近代とともに生まれた国民国家がいかに大きな生命力をもっているかを、そして地域統合が国家や国民というまとまりを逆に強めている事態を目の当たりにしている。したがって、国家形成の歴史的背景を理解することは、現代を生きるわたしたちの実践的な課題でもある。 そこで本授業では、わたしたちもよく知るヨーロッパの国くにはいつ頃から生まれ、その国境や住民であるという国民意識はどのような過程で形成</p> | | | | |
| 授業の進行予定及び進め方 | <p><【進行予定】> 第1回 授業テーマの意義および到達目標の解説 第2回 中世諸王国の原型：民族移動 第3回 " "：カペー王朝の誕生 第4回 " "：王、諸侯、城主 第5回 封建制と王権：主従契約の仕組み 第6回 " "：主従契約を結ぶための儀式 第7回 " "：王政への影響 第8回 王領土の明確化：王権を成り立たせた要素 第9回 " "：王領土の拡大の背景 第10回 " "：イングランドとの戦争 第11回 " "：フランス王と王子たち 第12回 王国のまとまり：ヴァロワ朝の誕生 第13回 " "：百年戦争のはじまり 第14回 " "：断続的な戦争と国家 第15回 " "：国民としての意識 学期末試験</p> <p><【進め方】> 講義形式で進め、各回の問題提起と内容の解説は板書で行う。しかし、フランスを中心に現地で撮影した画像を示すため、毎回、プリントの配布と画像の提示を心がける。またテーマの区切りごとに、授業の内容に関わる事柄について回答をもとめ、受講者は課題あるいは宿題として提出す</p> | | | | |
| 授業に関連するキーワード | 中世ヨーロッパ | 国民国家 | ゲルマンの大移動 | | |
| | 領土 | 封建制度 | キリスト教会 | | |
| | 祖国愛 | 百年戦争 | | | |
| 成績評価の方法 | 1 試験期間に行う試験：60％ 2 テーマごとに行うアンケートた授業外の学習を含めた通常点：40％ 1 + 2 を点数化して、60％に満たない者を不可とする | | | | |
| 教科書・参考書等 | 【教/参の別】 | 【書籍名】 | 【著者】 | 【出版社】 | 【出版年】 |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 教科書・参考書等に関する記述欄 | 特になし（毎回プリントを配布し、そのなかで参考図書にふれる） | | | | |
| 自由記述欄 | 授業以外の学習について、受講者は予習あるいは復習として、関連の人物や事件、歴史学上の概念について各自文献で調べ提出するとともに、取り上げる歴史資料については、授業外で予習としてその内容を解読したうえで授業にのぞむ。 | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------|--|------------------|--------------|---|----------|---------|--------|
| 科目コード | 5110220 | | | 単位 | 2 | 時間数 | 30 |
| 授業科目名 | 哲学の世界 - 科学史・科学哲学 - | | | 開講学期等 | 前期 | 時間割 | 月1・2 |
| 授業科目名英字 | Philosophy II: History and Philosophy of Science | | | | | | |
| 備考 | | | | 授業の形式 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| | | | | 受講対象学生 | 全学部 1～4年 | | |
| 内容的に密接に関係する授業科目 | | | | 履修する際に前提とする授業科目 | | | |
| 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 | 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 |
| 勝守 真 | 国際コミュニケーション | 教育文化学部3号棟228号室 | 018-889-2648 | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| オフィスアワー | 【曜日及び時間】 | 水曜日14:30-16:00 | | 【場所】 | 研究室 | | |
| 授業の目的 | | | | 授業の到達目標 | | | |
| | | | | "One travels not for the sake of arriving, but for the sake of travel itself" (Goethe). | | | |
| カリキュラム上の位置付け | | | | | | | |
| 授業の概要 | <p>Why does it rain? "Because steam in the air condenses into water or ice drops, which are subjected to the earth's gravity . . ." -- such an explanation is considered scientifically correct. But is it wrong to answer, for example, "It rains in order that the earth is moistened and plants grow"? Many people before modern times, say, in ancient Greece, might have answered this way. Then, when and how was the modern scientific approach to nature established? And what roles is it playing in the world today?</p> <p>In this course, we will compare the premodern and the modern views of nature, and focus on the way modern science conceives nature mechanically and mathematically. Further, we will trace the history of modern science up to the present, discussing, in particular,</p> | | | | | | |
| 授業の進行予定及び進め方 | <p>For the sake of our health and the environment, the use of air-conditioning will be avoided as far as possible. For this purpose, we will probably finish the course well before the end of the semester (before it becomes very hot) after having some make-up sessions in advance.</p> | | | | | | |
| 授業に関連するキーワード | | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 試験（論述式、主として英語で解答） | | | | | | |
| 教科書・参考書等 | 【教/参の別】 | 【書籍名】 | | 【著者】 | 【出版社】 | 【出版年】 | |
| | 参考書 | 『図解雑学哲学』 | | 貫成人 | ナツメ社 | | |
| | 参考書 | 『Sophie's World』 | | Gaarder | FSG | | |
| | 参考書 | 『思想史のなかの科学』 | | 伊東俊太郎他 | 平凡社 | | |
| 教科書・参考書等に関する記述欄 | | | | | | | |
| 自由記述欄 | | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------|--|----------------|--------------|---------------------------------------|-------|---------|--------|
| 科目コード | 5110240 | | | 単位 | 2 | 時間数 | 30 |
| 授業科目名 | 哲学の世界 - 論理学入門 - | | | 開講学期等 | 前期 | 時間割 | 火1・2 |
| 授業科目名英字 | Philosophy IV: Introduction to Logic | | | | | | |
| 備考 | 授業の形式 | | | 講義・演習 | 必修・選択 | 選択 | |
| | 受講対象学生 | | | 全学部 1～4年 | | | |
| 内容的に密接に関係する授業科目 | 履修する際に前提とする授業科目 | | | | | | |
| 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 | 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 |
| 勝守 真 | 国際コミュニケーション | 教育文化学部3号棟228号室 | 018-889-2648 | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| オフィスアワー | 【曜日及び時間】 | 水曜日14:30-16:00 | | 【場所】 | 研究室 | | |
| 授業の目的 | | | | 授業の到達目標 | | | |
| | | | | 「人が旅をするのは、到達するためではなく、旅をするためである」(ゲーテ)。 | | | |
| カリキュラム上の位置付け | | | | | | | |
| 授業の概要 | <p>「きょうは寒い」というのと「きょうは寒くないことはない」というのは、ふつう必ずしも同じ意味ではない。ところが、両者(肯定と二重否定)を同一視する奇妙(?)な世界がある。数理科学の大部分がそうだし、言語学などの一部もその発想にもとづいている。</p> <p>この授業ではまず、そのような発想を体系化した論理学という分野、とくに現代の記号論理学の基礎を学ぶ。また、そのような論理の枠に収まりにくいパラドクス(逆説)の問題、たとえば「私がいま言っていることはウソだ」という「うそつきのパラドクス」なども取り上げる。さらに、二律背反や弁証法など、広義の論理をめぐる哲学的諸問題にもふれる予定である。</p> | | | | | | |
| 授業の進行予定及び進め方 | 健康と環境のため、冷房の使用をできるかぎり控えます。そのため、できれば数回の補講を行ったうえで、学期の終了以前(とても暑くなる前)に授業を終え、試験を行う予定です。 | | | | | | |
| 授業に関連するキーワード | | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 試験(論述を含む) | | | | | | |
| 教科書・参考書等 | 【教/参の別】 | 【書籍名】 | | 【著者】 | 【出版社】 | 【出版年】 | |
| | 教科書 | 『論理学の基礎』 | | 飯田賢一他 | 昭和堂 | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| 教科書・参考書等に関する記述欄 | | | | | | | |
| 自由記述欄 | | | | | | | |

| | | | | | | | |
|---|---|-------------|--------|---|----------|---------|--------|
| 科目コード | 5110260 | | | 単位 | 2 | 時間数 | 30時間 |
| 授業科目名 | 障害と共生 - 福祉と人権 - | | | 開講学期等 | 前期 | 時間割 | 月7・8 |
| 授業科目名英字 | Meinstreaming of People with Disabilities Disabilities and co-existence | | | | | | |
| 備考 | | | | 授業の形式 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| | | | | 受講対象学生 | 全学部 1～4年 | | |
| 内容的に密接に関係する授業科目 | | | | 履修する際に前提とする授業科目 | | | |
| 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 | 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 |
| 内海 淳 | 障害児教育講座 | 4-511 | 2548 | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| オフィスアワー | 【曜日及び時間】 | 12:00～13:00 | | 【場所】 | | | |
| 授業の目的 | | | | 授業の到達目標 | | | |
| 1) 障害者及び障害者福祉の基礎的理解をする。 2) 障害者の権利擁護の意義を理解する。 | | | | 1) 障害者問題は身近な問題であることを説明できる。 2) ノーマライゼーションの意味を説明できる。 3) 障害者福祉の特質と仕組みを説明できる。 4) 人権侵害の背景と権利擁護の在り方を説明できる。 5) 当事者活動の意義を説明できる。 | | | |
| カリキュラム上の位置付け | | | | | | | |
| 授業の概要 | 【授業の概要】 障害者の福祉に関して基礎的理解をするとともに、権利擁護の観点からその在り方を学びます。 | | | | | | |
| 授業の進行予定及び進め方 | 【進行予定と進め方】 1. 福祉の概念と障害者の実態 2. 「障害」の捉え方 3. 福祉の理念 4. 障害者施策に関する動向 5. 障害福祉の枠組み 6. 障害者の地域生活 7. 障害者の地域生活 8. 障害者の就労 9. 障害者の就労 10. 障害者の人権 11. 障害者の人権 12. 障害福祉の課題 13. 障害福祉の課題 14. 障害福祉の課題 15. まとめ | | | | | | |
| 授業に関連するキーワード | 福祉 | 障害者 | | 障害概念 | | | |
| | 福祉理念 | 人権 | | | | | |
| 成績評価の方法 | 出席状況及びレポート | | | | | | |
| 教科書・参考書等 | 【教/参の別】 | 【書籍名】 | | 【著者】 | 【出版社】 | 【出版年】 | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| 教科書・参考書等に関する記述欄 | | | | | | | |
| 自由記述欄 | | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------|---|--------------|-----------------|--|--------|---------|--------|
| 科目コード | 5110270 | | 単位 | 2 | 時間数 | 30 | |
| 授業科目名 | 障害と共生 - 自立と社会参加 - | | 開講学期等 | 前期 | 時間割 | 火3・4 | |
| 授業科目名英字 | Mainstreaming of People with Disabilities II: Disability and Coexistence - Independent Living - | | | | | | |
| 備考 | | | 授業の形式 | 「講義」 | 必修・選択 | 「選択」 | |
| | | | 受講対象学生 | 全学部 1～3学年 | | | |
| 内容的に密接に関係する授業科目 | 「障害と共生I」と関連する授業である。 | | 履修する際に前提とする授業科目 | | | | |
| 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 | 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 |
| 大城英名 | 教育文化学部 | 教文4-510 | 018-889-2534 | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| オフィスアワー | 【曜日及び時間】 | 講義時間以外随時 | | 【場所】 | 大城研究室 | | |
| | 授業の目的 | | | 授業の到達目標 | | | |
| | 障害があってもなくても、みんなと共に暮らし、働き、生きていくことのできる「共生の社会」の大切さを理解する。 | | | 1) 障害のある人びとにとっての「自立」とは何か理解することができる。 2) 障害のある人もない人も「共に生きる社会」がノーマルであることを理解することができる。 3) 障害の「医学モデル」のみならず「社会モデル」の重要性について説明することができる。 | | | |
| カリキュラム上の位置付け | 教養教育科目「人間と人権」の「障害と共生」の1つとして設定。 | | | | | | |
| 授業の概要 | 授業では、障害のある人々が社会で自立的に生きていくドキュメンタリーを取り上げながら、障害がある人々もない人々も「共に生きる社会」が大切であることの理解を深める。 | | | | | | |
| 授業の進行予定及び進め方 | 第1回 障害とは何か、自立とは何か 第2回 ヘレン・ケラーの輝き 第3回 あたりあえの暮らしを求めて：全盲の夫婦の子育て 第4回 家屋の絆を見つめて：共生への問いかけ 第5回 共生への道：町に出て町を変える 第6回 地域で自分らしく生きる：グループホームで暮らす 第7回 重度障害者の自立生活：自分らしく暮らしたい 第8回 働く場を求めて：就労と自立 第9回 見えにくい障害の理解：高機能自閉症・アスペルガー症候群 第10回 見えにくい障害の理解：ADHD（注意欠陥多動性障害） 第11回 見えにくい障害の理解：LD（学習障害） 第12回 10年継続すれば！ 第13回 アヴェロのや野生児から学ぶ 第14回 中途障害とリハビリテーション 第15回 人間の最大の務め：しっかり生きつづける（高橋竹山と小林ハル） * 授業の実施順序および内容は若干変更するときがある。 | | | | | | |
| 授業に関連するキーワード | 障害 | 共生 | | ノーマライゼーション | | | |
| | 自立生活 | 地域生活 | | 就労 | | | |
| | リハビリテーション | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 出席状況40%、毎回の小レポート60%、総合的に評価し60点以上を合格とする。 | | | | | | |
| 教科書・参考書等 | 【教/参の別】 | 【書籍名】 | | 【著者】 | 【出版社】 | 【出版年】 | |
| | | 『母よ嘆くなかれ』 | | パール・バック | 法政大学出版 | | |
| | | 『奇跡の人』 | | ヘレン・ケラー | 新潮文庫 | | |
| | | 『ダウン症の子をもって』 | | 松村公宏 | 新潮文庫 | | |
| | | 『津軽三味線ひとり旅』 | | 高橋竹山 | 中央文庫 | | |
| 教科書・参考書等に関する記述欄 | | | | | | | |
| 自由記述欄 | | | | | | | |

| | | | | | | | |
|--|---|-----------------|---|--|--|---------|--------|
| 科目コード | 5110310 | | 単位 | 2 | 時間数 | 30 | |
| 授業科目名 | 多文化コミュニケーション入門 - 他者の文化を発見 | | 開講学期等 | 前期 | 時間割 | 木7・8 | |
| 授業科目名英字 | Invitation to Multicultural Communication I | | | | | | |
| 備考 | 40名以内。人数が多い場合、課題により選考する。受講希望者は一回目の授業に必ず出席すること。 | | 授業の形式 | 講義・学生参加型 | 必修・選択 | 選択 | |
| | | | 受講対象学生 | 全学部 1・2(3・4)年 | | | |
| 内容的に密接に 関係する授業科目 | 「多文化コミュニケーション入門I」「日本文化入門I/II」「多文化間交流論I/II」「日本教育学入門I/II」 | | 履修する際に前提とする授業科目 | なし | | | |
| 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 | 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 |
| 牲川波都季 | 国際交流センター | 般1-2階 | 018-889-2865 | | | | |
| オフィスアワー | 【曜日及び時間】 | 水曜日 16:30-18:00 | | 【場所】 | 研究室(般1-2階) | | |
| 授業の目的 | | | | 授業の到達目標 | | | |
| この授業ではごく身近な、他者という「文化」について考察することで、「文化」の多様性・変容性・曖昧さについて認識する。その認識に至る鍵は、多様な背景を持つ他者(留学生や他の学部・学年の学生)との、さらには自分自身とのことばによるコミュニケーションであり、自他に対し自分の思考を積極的に表現することが求められる。その結果、他者との質の高い関係づくりが達成されよう。 | | | | 1) 他者という「文化」について、深い理解を得る。 2) 「多文化コミュニケーション」の方法を体得する。 3) コミュニケーションすること、言語化することの意義を知る。 | | | |
| カリキュラム上の 位置付け | ここでは、多様な背景を持つ留学生や日本人学生が相互にコミュニケーションし合う。その過程で、自他とのコミュニケーションに基づき、いかに思考を明確化していくか、その方法が体得できる(学問の方法)。また、各受講生はそれぞれの「文化」定義と、他者という「文化」の中身を、新たに発見していくことができる(学問の進展)。 | | | | | | |
| 授業の概要 | 基本的には、留学生や日本人学生によるグループ・ディスカッションと、それに基づく課題の提出や発表からなるクラス。自らの思考の表現化が繰り返し課される授業であり、意欲的な受講生を望む。また今年度より、学期開始当初に教科書を読み感想文を書くという活動を新たに加える。これによりこのクラスの考え方や進め方を共有したい。ディスカッションとレポートの内容は、グループメンバーそれぞれを知ることを目指すものとなる予定だが、詳細な内容は、受講生の顔触れが決まったあと決定する。 | | | | | | |
| 授業の進行予定 及び進め方 | 1) オリエンテーション(受講希望者は必ず出席すること) 2) 文化とは何か 3) グループ作り 4) 今学期のトピックの決定 5) グループディスカッション 1-1 6) グループディスカッション 1-2 7) 下書き1の読み合わせ 8) 下書き1の読み合わせ 9) グループディスカッション 2-1 10) グループディスカッション 2-2 11) グループディスカッション 2-3 12) 下書き2の読み合わせ 13) 下書き2の読み合わせ 14) 最終レポートの提出 15) 相互自己評価会 | | | | | | |
| 授業に関連する キーワード | 多文化コミュニケーション | | グループ・ディスカッション | | 他者 | | |
| | 相互自己評価 | | 表現化 | | | | |
| 成績評価の方法 | 成績評価(合計100ポイント) | | 1) 積極的な授業参加 30ポイント(目標1・2・3) 2) 提出物(締切・分量厳守で満点、遅れ・不足に応じて減点) 70ポイント(目標1・3) | | 合否判定基準 1) 上記の合計60ポイント以上で合格とする。 2) 欠席が6回に達した時点で評価はDとする。 | | |
| 教科書 ・ 参考書等 | 【教/参の別】 | 【書籍名】 | | 【著者】 | 【出版社】 | 【出版年】 | |
| | 参考書 | 『わたしを語ることを求めて』 | | 牲川波都季・細川英雄 | 三省堂 | 2004 | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| 教科書・参考書等 に関する記述欄 | | | | | | | |
| 自由記述欄 | 受講希望者は一回目の授業に必ず出席すること。希望者が多すぎる場合、第一回目の授業で課題を出し選抜する。英語による文化交流・日本文化論・日本社会論に興味がある者には、本授業ではなく、多文化間交流論I/II、日本文化入門I/II・日本社会入門I/IIの受講を強く勧める。また留学生とともに外国人に対する日本語教育を考えることのできる授業に、日本語教育学入門I/IIがある。 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|--|---|--|---|-------------------------------|-------------------------------|---------|--------|
| 科目コード | 5110351 | | 単位 | 2 | 時間数 | 30 | |
| 授業科目名 | 多文化間交流論 - 異文化コミュニケーションの実 | | 開講学期等 | 前期 | 時間割 | 月3・4 | |
| 授業科目名英字 | Improving Cross-Cultural Communication Skills | | | | | | |
| 備考 | 授業はすべて英語でおこなう。受講人数は交換留学生もあわせて30名程度 The entire course will be conducted in English. | | 授業の形式 | 講義・学生参加型 | 必修・選択 | 選択 | |
| | | | 受講対象学生 | 全学部学生および交換留学生 | | | |
| 内容的に密接に関係する授業科目 | 多文化間交流論 (旧「多文化間交流論」)、多文化コミュニケーション入門 | | 履修する際に前提とする授業科目 | | | | |
| 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 | 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 |
| R. Miyamoto | 教育文化・国際コミュニ | 教育3-229 | 018-889-2688 | | | | |
| オフィスアワー | 【曜日及び時間】 | Wed. 14:30-16:00 | | 【場所】 | Miyamoto Office (教文3-229) | | |
| 授業の目的 | | | 授業の到達目標 | | | | |
| 異なる文化背景を持つ相手とのコミュニケーションの方法について考え、実践する。 The object of the course is to improve cross-cultural communication skills through multi-task group work. Focus will be on comparison between Japanese and other communication styles. | | | By the end of this course, students should be able to: -learn cultural and social implications of Japanese communication. -compare and contrast the Japanese way of communicating with their own way. -understand their own ways of communications. -find ways to cope with communication conflicts. (1) 言語、出身地、学部、性別など、様々な文化的背景を持つ学生同士で交流を行う (2) 自分の文化や考えを客観的にみることができ、英語で説明できるようになる (3) 英語で討論できるようになる | | | | |
| カリキュラム上の位置付け | | | | | | | |
| 授業の概要 | 【授業の概要】 この授業は、異文化コミュニケーションの理論に関する講義と演習の授業および、講義時間外での合宿(5コマ分)からなる。 | | | | | | |
| 授業の進行予定及び進め方 | 【進行予定及び進め方】 <講義と演習> 第1回授業~第10回授業 異文化コミュニケーションの理論とスキルに関する講義と、コミュニケーションゲームや討論などのグループ活動を通して、受講生間の交流を深め、必要なスキルを考え、実践してみる。 <講義外実習> 5コマ分 7月中旬に合宿を行う(1泊2日または2泊3日)。 合宿および発表会については、第1回目の授業で詳細を説明する Class 1-10: Getting to know one another through various communication games and learn some basic knowledge of Japanese communication styles. Students will produce a video clip about topics such as experience of international students, communication gaps in Japan etc. Students will exercise communication skills in the group work. Camp: Mid-July, there is a camp outside of campus in which students will learn traditional Japanese culture including dancing and drumming. Details will be announced in the first class. | | | | | | |
| 授業に関連するキーワード | 異文化コミュニケーション | | コミュニケーションスキル | | ピアラーニング | | |
| | 異文化衝突 | | 多文化共生 | | | | |
| 成績評価の方法 | 授業参加度30%、発表3回(授業中2回と発表会1回)30%、最終個人レポート40% Grading Percentages of course components that comprise your grade -(A) Class Participation 30% -(B) Mid-term Reports (2 Case studies and 1 presentation) 30% -(C) Final Report 40% | | | | | | |
| 教科書・参考書等 | 【教/参の別】 | 【書籍名】 | | 【著者】 | 【出版社】 | 【出版年】 | |
| | 参 | 『Communication Between Cultures (6 Ed).』 | | Samovar, Porter, and McDaniel | Wadsworth Publishing Co. Inc. | 2006 | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| 教科書・参考書等に関する記述欄 | There is no need to buy any textbooks. Necessary materials will be given in class. Reference books will be introduced in class for your further studies. If you wish to read a good book on intercultural communication, the above book is recommended. | | | | | | |
| 自由記述欄 | *All lectures and activities will be conducted in English. If there are too many students who wish to enroll in this course, there may be selection by English proficiency. **You MUST participate both in lectures and the camp in July. | | | | | | |

| | | | | | | | |
|--|--|----------------|---------------------|--|------------------|---------|--------|
| 科目コード | 5110400 | | 単位 | 2 | 時間数 | | |
| 授業科目名 | 日本語教育学入門 | | 開講学期等 | 前期 | 時間割 | 火7・8 | |
| 授業科目名英字 | Introduction to Japanese Language Education | | | | | | |
| 備考 | 授業の形式 | | 講義・学生参加型 | 必修・選択 | 選択 | | |
| | 受講対象学生 | | 交換留学生，全学部 1・2(3・4)年 | | | | |
| 内容的に密接に関係する授業科目 | 履修する際に前提とする授業科目 | | | | | | |
| 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 | 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 |
| 市嶋典子 | 国際交流センター | 204号室 | 018-889-29382938 | | | | |
| オフィスアワー | 【曜日及び時間】 | 火曜日16:30-18:00 | | 【場所】 | 一般教育一号館 2階 市嶋研究室 | | |
| 授業の目的 | | | | 授業の到達目標 | | | |
| 日本語教育学の歴史の変遷を踏まえ、日本語を教えること、日本語教育を研究する意味とは何かを考察し、自らの言語観、言語教育観を明らかにする。 | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・日本語教育学について深い理解を得る ・日本語教育学関連の先行文献を読み、日本語教育学を批判的に捉え直す。 ・自身の学習観を振り返り、言語観、言語教育観を構築する。 | | | |
| カリキュラム上の位置付け | 日本語教育学についての概論的授業 | | | | | | |
| 授業の概要 | 日本語教育学の歴史的背景、日本語教育実践研究の意義と課題、言語観、言語教育観を考察する。基本的には、留学生、日本人学生の協働的な言語活動とそれに基づく課題提出、発表によって授業を進める。 | | | | | | |
| 授業の進行予定及び進め方 | 【進行予定と進め方】 第1週 オリエンテーション 第2週 日本語教育学とは何か 第3週 先行文献の考察 第4週 先行文献の考察 第5週 自身の目指す日本語教育とは何かを考察する 第6週 問題設定・調査の方法 第7週 調査のまとめ 第8週 調査のまとめ 第9週 調査のまとめ 第10週 発表・ディスカッション 第11週 発表・ディスカッション 第12週 自身の目指す日本語教育とは何かを再考する 第13週 クラスメンバーでレポートを読み、ディスカッションする 第14週 クラスメンバーでレポートを読み、ディスカッションする 第15週 相互・自己評価活動，ふりかえり | | | | | | |
| 授業に関連するキーワード | 日本語教育学 | 言語教育観 | | 学習観 | | | |
| | 実践研究 | 協働 | | | | | |
| 成績評価の方法 | 成績評価は100点を満点とし、以下のように配分する。 レポート50点，課題30点，相互評価10点，自己評価10% 総合60%を合格とする | | | | | | |
| 教科書・参考書等 | 【教/参の別】 | 【書籍名】 | | 【著者】 | 【出版社】 | 【出版年】 | |
| | 教科書 | 『日本語教育学序説』 | | 蒲谷宏・細川英雄 | 朝倉書店 | 2012 | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| 教科書・参考書等に関する記述欄 | | | | | | | |
| 自由記述欄 | 授業では、録音機材（ICレコーダー等）を使用します。 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-------------------------------------|--|-------------------|-----------------|--|---------|---------|--------|
| 科目コード | 5120030 | | 単位 | 2 | 時間数 | 30 | |
| 授業科目名 | 自然環境と資源 A - 地球環境と化学元素 - | | 開講学期等 | 前期 | 時間割 | 月1・2 | |
| 授業科目名英字 | Natural Environment and Resources : Global Environment and Chemical Elements | | | | | | |
| 備考 | | | 授業の形式 | 講義 | 必修・選択 | 選択 | |
| | | | 受講対象学生 | 全学部 1~4年 | | | |
| 内容的に密接に関係する授業科目 | | | 履修する際に前提とする授業科目 | 特にありません。高校で理科総合Aを履修していれば、化学I, IIを履修していなくても、学習によって理解できる内容です。 | | | |
| 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 | 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 |
| 岩田吉弘 | 教育文化学部自然環境講 | 教文3-218 | 2622 | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| オフィスアワー | 【曜日及び時間】 | 木曜日、13時から14時30分まで | | 【場所】 | 教文3-218 | | |
| 授業の目的 | | | | 授業の到達目標 | | | |
| 地球環境における化学物質の分布と生体内での機能、環境影響についての理解 | | | | 1, 元素の生成と地球環境での分布について理解し説明できる。 2, 生体内での化学元素の存在量と機能について理解し説明できる。 3, 人間活動により生成した化学物質の環境への影響について理解し説明できる。 | | | |
| カリキュラム上の位置付け | 環境、化学、生命科学を専門とする学生には、地球化学、無機化学、生物無機化学の入門的な内容。それらを専門としない学生には、地球環境と化学の関わりについて教養を高める内容。 | | | | | | |
| 授業の概要 | 【授業の概要】 地球環境における化学物質の分布と生体内での機能、環境影響について、具体例をしめしながら講義します。 | | | | | | |
| 授業の進行予定及び進め方 | 【進行予定と進め方】 1, 化学元素の定義と単位、記号 2, 地球の構造 3, 宇宙における元素の生成と存在量 4, 地圏での元素の存在量 5, 大気圏での元素の存在量 6, 水圏、特に海洋における元素の存在量と移動 7, 化学物質の毒性と必須性 8, 生体における元素存在量と機能 9, 微量化学成分の化学分析 10, 水質および大気モニタリング 11, 光と物質の相互作用 12, 大気の化学組成とその変遷 13, 地球環境での炭素の存在量とその循環 14, 地球規模での大気環境問題、(1)地球温暖化と二酸化炭素 15, 同、(2)酸性雨と硫黄化合物 16, 同、(3)フロン等の難分解性化学物質による環境汚染とまとめ | | | | | | |
| 授業に関連するキーワード | 地球環境 | 大気圏 | | 海洋 | | | |
| | 生体 | 化学元素 | | 必須元素 | | | |
| | 有毒元素 | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 授業3回目以降、毎回10分程度のマークシート形式の小試験を行います。 合否：小試験の成績が60%以上を合格とします。 履修放棄：出席日数が2/3に満たない者 成績不振者、無断欠席者に対するレポート提出や再試験等による救済措置は一切行いません。 | | | | | | |
| 教科書・参考書等 | 【教/参の別】 | 【書籍名】 | | 【著者】 | 【出版社】 | 【出版年】 | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| 教科書・参考書等に関する記述欄 | 参考書・教科書は用いません。プリント、OHP、プロジェクターを利用します。 | | | | | | |
| 自由記述欄 | | | | | | | |

| | | | | | | | |
|--|--|-----------|------------|--|--------------|---------|--------|
| 科目コード | 5120050 | | 単位 | 1 | 時間数 | 1 | |
| 授業科目名 | 天体観測入門 - 太陽・月・惑星 - | | 開講学期等 | 前期前半 | 時間割 | 水7・8 | |
| 授業科目名英字 | Introduction to Astronomical Observation: | | | | | | |
| 備考 | 受講可能人数は上限25名です。それより受講希望者が多い場合は、初回の授業で抽選の上受講者を決定します。 | | | 授業の形式 | 演習・実習 | 必修・選択 | 選択 |
| | | | | 受講対象学生 | 全学部 1～4年 | | |
| 内容的に密接に関係する授業科目 | なし | | | 履修する際に前提とする授業科目 | なし | | |
| 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 | 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 |
| 林 信太郎 | 教文 | 3号館311 | 0188892651 | | | | |
| オフィスアワー | 【曜日及び時間】 | 木曜日 8-10時 | | 【場所】 | 教育文化学部3号館311 | | |
| 授業の目的 | | | | 授業の到達目標 | | | |
| 天体に親しみ、惑星科学・宇宙科学の教養レベルの知識を身につける。宇宙空間のスケールの大きさを、理解するとともに実感する。 | | | | 天体望遠鏡の仕組みについて理解し、天体望遠鏡を操作でき、惑星や月を観察できる。主な惑星の特徴を理解し、説明できる。月の形成史を理解し説明することができる。宇宙の大きさを実感し説明することができる。 | | | |
| カリキュラム上の位置付け | 学問の進展：学生との討議を通じて、人類が未解決の問題について考える。 【解説】実習中、教員－学生あるいは学生－学生間で、宇宙や星、人類に未来について語り合います。人類の宇宙における位置づけについて大局的に考察するのがこの授業の究極の目的です。 | | | | | | |
| 授業の概要 | 【授業の概要】 定時に行なう演習・観察が4回、定時以外の観察が4回（予定；天候次第） | | | | | | |
| 授業の進行予定及び進め方 | 【進行予定と進め方】 天体の状況、天候の状況によって異なってくる。 以下の内容と日程（暫定版）を予定している。 #水曜日7・8に行なう授業 ・ガイダンス（4月10日；2回（2時30分と3時30分）ガイダンスを行なう；受講希望者多数の場合は抽選で決定） ・天体望遠鏡の使い方（4月17日） ・木星の衛星に関する演習（4月24日、5月1日） ・太陽面観察（4月24日、5月1日） ・太陽の自転に関する演習（5月8日） #夜間あるいは早朝に行なう授業 ・月の観察1と木星の観察（午後6時集合午後11時頃解散；4月15日から4月19日の最初に晴れた夜；晴れなかった場合は翌月の同時期） ・月の観察2（午後6時集合午後9時頃解散；4月24日から4月26日の最初に晴れた夜） ・土星の観察（午後6時集合午後9時頃解散；5月15日から17日の最初に晴れた日） ・このほかに彗星などの観察を行います。 天体の運行状況や天候によって左右されるので、実習が予定通りに進むとは限りません。夜間や早朝の実験が多く、場合によってはアルバイト等に支障を生じる場合もある。天体及び天候の都合を優先し、学生のアルバイトの時間帯は考慮しない（できない）こととする。詳しい日程表は第1回の授業で資料を配布し説明する。 なお、授業の正規の時間帯で行う実習は4時間程度で時間のほとんどは夜間の観測とする。 受講上の注意：望遠鏡で太陽を見ないこと、また、屋上フェンスを越えないこと。 新天体望遠鏡（45cmリッチー・クレチアン式望遠鏡）を活用して実習を行なう。 | | | | | | |
| 授業に関連するキーワード | 天体望遠鏡 | 月 | 太陽 | | | | |
| | 惑星 | | | | | | |
| 成績評価の方法 | レポートによる。出席数が2/3に満たない場合あるいは平常点が6割に見たない場合は不合格とする。 | | | | | | |
| 教科書・参考書等 | 【教/参の別】 | 【書籍名】 | 【著者】 | 【出版社】 | 【出版年】 | | |
| | 授業の中で紹介する | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| 教科書・参考書等に関する記述欄 | | | | | | | |
| 自由記述欄 | 時間帯がきわめて不規則です。観測ができるかどうかは天気次第ですので、夜間のアルバイトとの両立はかなり難しいものがあります。アルバイト等を優先する方の受講はおこたわりします。 | | | | | | |

| | | | | | | | | |
|---|---|----------------|----------|--|----------|----------|----------|--|
| 科目コード | 5120060 | | | 単位 | 2 | 時間数 | 30 | |
| 授業科目名 | 地球の環境と資源 A - 地層の話 - | | | 開講学期等 | 前期 | 時間割 | 水9・10 | |
| 授業科目名英字 | Global Environment and Resources IV B: Introduction to Geological Sciences | | | | | | | |
| 備考 | なし | | | 授業の形式 | 講義 | 必修・選択 | 選択 | |
| | | | | 受講対象学生 | 全学部 1～4年 | | | |
| 内容的に密接に関係する授業科目 | とくになし | | | 履修する際に前提とする授業科目 | とくになし | | | |
| 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 | 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 | |
| (責)内田 隆 | 工学資源学部 | 工資2 B304 | 889-2652 | 佐藤時幸 | 工学資源学部 | 工資2 G214 | 889-2371 | |
| 大場 司 | 工学資源学部 | 工資2 G307 | 889-2374 | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| オフィスアワー | 【曜日及び時間】 | 火曜日12:00～12:30 | | | 【場所】 | 工資2 B304 | | |
| 授業の目的 | | | | 授業の到達目標 | | | | |
| 地層記録を素材として、地球科学的自然認識方法および地球上に発生する諸現象を学ぶとともに、地球誕生以来の地球史に関する認識を深めることを目的とする。 | | | | 1) 地層が地球史のデータバンクであることを具体例にもとづいて説明できる。 2) 地質学的自然現象認識方法を解説できる。 3) 地球史が単なる漸進的变化ではなく、さまざまなイベントで構成されていることを理解できる。 4) 地震や火山噴火などの地質学的事象の発生を支配している統一的過程について説明できる。 5) 日本列島に自然災害が多発する原因を理解するとともに、日常生活のあり方について考察できる。 | | | | |
| カリキュラム上の位置付け | 本講義は目的・主題別科目のうち、「自然環境と地球」を構成する。受講するにあたって高校までの理科に関する平均的知識を必要とするが、特別な予備知識を前提しない。 | | | | | | | |
| 授業の概要 | 【授業の概要】 基礎編 1. ガイダンス 2. 地球の誕生：地球科学の基礎 3. 地層は時計である：地質学的認識の基礎 4. 古生物の進化の記録と地質時代区分：地質時代区分は何を根拠にしているか 5. 年代を測る：地質時代はどのように測定されているか | | | | | | | |
| 授業の進行予定及び進め方 | 【進行予定と進め方】 詳細については、初回のガイダンスで説明する。 | | | | | | | |
| 授業に関連するキーワード | 地質学 | 古生物（化石） | | | 進化 | | | |
| | マグマ | 火山噴火 | | | 地球環境変遷 | | | |
| | プレートテクトニクス | ハイドレート | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 出席の状況および期末の試験結果で判定する。60点以上を合格とする。 | | | | | | | |
| 教科書・参考書等 | 【教/参の別】 | 【書籍名】 | | | 【著者】 | 【出版社】 | 【出版年】 | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| 教科書・参考書等に関する記述欄 | 教科書は使用しないが、毎回の講義に資料を配付する。必要に応じて参考書を紹介する。 | | | | | | | |
| 自由記述欄 | | | | | | | | |

| | | | | | | | |
|---|---|----------------|----------|--|-------------|-----------|----------|
| 科目コード | 5120070 | | | 単位 | 1 | 時間数 | 15 |
| 授業科目名 | 地球の環境と資源 - 資源問題と地球環境 - | | | 開講学期等 | 前期前半 | 時間割 | 月3・4 |
| 授業科目名英字 | Global Environment and Resources V:Problems of Resources and Environment | | | | | | |
| 備考 | | | | 授業の形式 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| | | | | 受講対象学生 | 全学部 1～4年 | | |
| 内容的に密接に関係する授業科目 | | | | 履修する際に前提とする授業科目 | | | |
| 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 | 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 |
| 佐藤 博 | 地球資源 | 工資 2-B214 | 889-2391 | 杉本文男 | 地球資源 | 工資 2-B215 | 889-2394 |
| 大友崇徳 | 地球資源 | 工資 2-B207 | 889-3054 | 今井忠男 | 地球資源 | 工資 2-B214 | 889-2388 |
| 網田和宏 | 地球資源 | 工資 2-B212 | 889-2372 | 尾西恭亮 | 地球資源 | 工資 2-B208 | 889-2751 |
| 村上英樹 | 環境資源学研究センター | 工資 研-207 | 889-2446 | | | | |
| オフィスアワー | 【曜日及び時間】 | 月曜 16:00～17:00 | | 【場所】 | 上記教員室 | | |
| 授業の目的 | | | | 授業の到達目標 | | | |
| <p>私たちが資源を入手し、それを利用するとき何が問題となるか、また資源の開発・消費が地球環境にどのような影響を与えるかを学習する。この問題は、私たちが社会の様々な分野で様々な形で活動するとき、常に何らかの形で関係してくるものであり、そのようなときにどう考えたらよいかを、この授業を通じて理解することを目標とする。</p> | | | | <p>1) 資源と地球環境についての社会的な関心を持つことができる。 2) 資源と地球環境について様々な要因と異なる考え方があることを理解し、その解決手法について自らの意見を説明できる。 3) 社会的な問題である資源と地球環境についての教養とそれに対する自身の意見を持つことができる。</p> | | | |
| カリキュラム上の位置付け | 教養基礎教育の目標2の「現代の諸課題の認識につながる特色のある科目」に相当する。 | | | | | | |
| 授業の概要 | 【授業の概要】 資源・エネルギー開発に関わる環境問題を種々の工学的観点から取り上げ、これを分析、整理する。 | | | | | | |
| 授業の進行予定及び進め方 | <p>【進行予定と進め方】</p> <p>第1回 担当：佐藤 最近の資源・エネルギー、環境問題に関するトピックスを、新聞記事等（和文、英文）に基づいて解説する。 第2回 担当：網田 水資源の現状と水質汚染の問題について説明する。 第3回 担当：村上 原子力エネルギーの可能性と問題点について解説する。特にエネルギー政策としての利点、環境への影響、廃棄物処理問題等を中心に説明する。 第4回 担当：尾西 石油エネルギーの現状と地球温暖化対策について説明する。 第5回 担当：大友 金属資源から素材を得るまでの製錬プロセスについて解説する。 第6回 担当：杉本 金属鉱物資源の開発とそれらに関連する問題について説明する。 第7回 担当：今井 人はこれまで「どのようにして鉱物を道具として利用してきたか」、「どのようにして有用な鉱物を発見し開発してきたか」、「それらに伴う環境問題とは何であったのか」について、身近な材料や道具を例にとりて考え、説明する。 また、総括レポートの課題について説明する。 第8回 担当：杉本 課題レポート提出日 なお、都合により上記の講義の順番を入れ替えることもある。</p> | | | | | | |
| 授業に関連するキーワード | 資源の将来 | | 資源リサイクル | | 資源開発の歴史 | | |
| | 環境・経済倫理 | | エネルギー資源 | | 大気CO2と地球温暖化 | | |
| | 資源開発技術 | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 各時間での課題レポートおよび総括レポートを総合して評価し、総合60%以上を合格とする。 | | | | | | |
| 教科書・参考書等 | 【教/参の別】 | 【書籍名】 | | | 【著者】 | 【出版社】 | 【出版年】 |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| 教科書・参考書等に関する記述欄 | | | | | | | |
| 自由記述欄 | | | | | | | |

| | | | | | | | |
|---|--|------------------|--------------|---|----------|------------|--------------|
| 科目コード | 5120080 | | | 単位 | 1 | 時間数 | 15 |
| 授業科目名 | 環境と社会 A - 地域環境とインフラストラクチャー - | | | 開講学期等 | 前期前半 | 時間割 | 木7・8 |
| 授業科目名英字 | Environment and Society A:Regional Environment and Infrastructure | | | | | | |
| 備考 | | | | 授業の形式 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| | | | | 受講対象学生 | 全学部 1～4年 | | |
| 内容的に密接に関係する授業科目 | | | | 履修する際に前提とする授業科目 | | | |
| 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 | 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 |
| 日野 智 | 工学資源学部 | 総合研究棟7F教員室 | 018-889-2359 | 浜岡 秀勝 | 工学資源学部 | 総合研究棟7F教員室 | 018-889-2974 |
| 徳重 英信 | 工学資源学部 | 工資1-412 | 018-889-2367 | 及川 洋 | 工学資源学部 | 工資1-415 | 018-889-2360 |
| 松富 英夫 | 工学資源学部 | 工資1-416 | 018-889-2363 | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| オフィスアワー | 【曜日及び時間】 | 講義終了時にアポイントを取って下 | | 【場所】 | 各教員室 | | |
| 授業の目的 | | | | 授業の到達目標 | | | |
| われわれが日常生活を営んでいる都市や地域社会では、誰もが安全、安心、快適に生活でき、そして美しい空間の創出が望まれる。そのために必要な諸施設を社会資本という。まず、はじめに社会資本について学び、ついでその整備理念と手法について学ぶ。その後具体的な整備例について履修する。 | | | | 1.社会資本（インフラストラクチャー）とはどのように分類されるのか理解し、他に説明できるようにする。 2.地域環境に及ぼす社会資本整備について理解し、他に説明できるようにする。 3.社会資本整備理念を学び、ついで具体例として、鋼、コンクリート、木材による橋梁、地盤災害、水環境を取り上げ、理解できるようにし、他に説明できるようにする。 | | | |
| カリキュラム上の位置付け | 日常生活に不可欠な社会資本整備について履修し、その整備手法について習得することを目的とする講義である。 | | | | | | |
| 授業の概要 | 社会資本の整備理念と手法について学び、具体的な整備例を履修する。また、安全・安心な社会環境とするため、諸種の自然災害の基本についても学ぶ。 | | | | | | |
| 授業の進行予定及び進め方 | 【進行予定と進め方】 第1回：社会基盤施設とは何か、その分類と整備理念について 第2回：持続可能な都市・地域について 第3回：環境に配慮した交通について 第4～6回：社会基盤整備の中の鋼・木・コンクリート材料について 第7～8回：地盤災害と水環境 | | | | | | |
| 授業に関連するキーワード | 社会基盤 | | 社会資本整備の理念 | | 都市と交通 | | |
| | 建設構造物 | | 建設材料 | | 地盤災害 | | |
| | 水環境 | | | | | | |
| 成績評価の方法 | レポート（80％）、出席状況等（20％）を考慮して総合的に評価する。 | | | | | | |
| 教科書・参考書等 | 【教/参の別】 | 【書籍名】 | | 【著者】 | 【出版社】 | 【出版年】 | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| 教科書・参考書等に関する記述欄 | | | | | | | |
| 自由記述欄 | | | | | | | |

| | | | | | | | |
|---|--|--------------|--------------|---|--------------|---------|--------|
| 科目コード | 5120100 | | | 単位 | 1 | 時間数 | 15 |
| 授業科目名 | ライフサイエンス A | | | 開講学期等 | 前期後半 | 時間割 | 火5・6 |
| 授業科目名英字 | Life Science IIIA | | | | | | |
| 備考 | 授業の形式 | | | 講義 | 必修・選択 | 選択 | |
| | 受講対象学生 | | | 全学部 1～4年 | | | |
| 内容的に密接に関係する授業科目 | 履修する際に前提とする授業科目 | | | | | | |
| 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 | 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 |
| 河又邦彦 | 教育文化学部 | 教育文化4号館312号室 | 018-889-2590 | | | | |
| オフィスアワー | 【曜日及び時間】 | 随時 | | 【場所】 | 教育文化4号館312号室 | | |
| 授業の目的 | | | | 授業の到達目標 | | | |
| <p>遺伝学の知識が必要な事象が増えてきています。食品には遺伝子組換え作物があふれ、犯罪捜査にはDNAが欠かせません。このような事象を理解するための基礎として、メンデル遺伝を理解することを目的にします。内容は高校生物Iの範囲です。遺伝学へ興味をもってもらうことが第2の目的です。</p> | | | | <p>1) 遺伝子および形質とタンパク質の関係を理解する。 2) 染色体の挙動を説明できる。 3) 簡単な入試問題を解くことができる。</p> | | | |
| カリキュラム上の位置付け | 教養教育 | | | | | | |
| 授業の概要 | メンデル遺伝の問題を解くことで、遺伝学の初歩を理解していきます。学生の理解度を把握するため、すべての人の顔と名前を覚えて授業を行いますので、1回目の授業で顔写真の撮影を行います。必ず出席してください。 | | | | | | |
| 授業の進行予定及び進め方 | <p>講義は以下の6項目にそって進めます。この理解を深めるため、- の演習問題を用意しています。</p> <p>1) 身の回りの遺伝現象 2) 形質とは 3) 遺伝子とタンパク質 4) メンデル遺伝の法則 5) 染色体の挙動 6) 性染色体と遺伝子</p> <p>演習： 一遺伝子雑種を理解するいろいろな問題 二遺伝子雑種を理解するいろいろな問題 伴性遺伝を理解するいろいろな問題</p> | | | | | | |
| 授業に関連するキーワード | メンデル遺伝 | | 染色体 | | タンパク質 | | |
| | 減数分裂 | | 伴性遺伝 | | DNA | | |
| | 形質 | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 課題，試験により判定する。3回以上休んだ場合は再履修となる。 | | | | | | |
| 教科書・参考書等 | 【教/参の別】 | 【書籍名】 | | 【著者】 | 【出版社】 | 【出版年】 | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| 教科書・参考書等に関する記述欄 | 高校生物のメンデル遺伝を習っていない人，習ったけれどほとんど理解できなかった人を対象にしています。 | | | | | | |
| 自由記述欄 | | | | | | | |

| | | | | | | | |
|--|--|-----------------|----------|---|----------|---------|--------|
| 科目コード | 5120110 | | | 単位 | 2 | 時間数 | 30 |
| 授業科目名 | 生活の科学 - 衣生活の科学 - | | | 開講学期等 | 前期 | 時間割 | 火7・8 |
| 授業科目名英字 | Family and Consumer Science I:Clothing for Qualitlital Life | | | | | | |
| 備考 | | | | 授業の形式 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| | | | | 受講対象学生 | 全学部 1～4年 | | |
| 内容的に密接に関係する授業科目 | | | | 履修する際に前提とする授業科目 | | | |
| 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 | 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 |
| 石黒純一 | 教育文化 | 教文1-304 | 889-2551 | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| オフィスアワー | 【曜日及び時間】 | 金曜日、15:00～17:00 | | 【場所】 | 教文1-304 | | |
| 授業の目的 | | | | 授業の到達目標 | | | |
| 衣服の性能と着衣の目的を理解し、生活の場において適切な衣服の選択と着用ができるようになる | | | | 衣服の材料としての繊維・糸・布の関係を説明できる。 表現として衣服を着る場合のポイントを説明できる。 防御のために衣服を着る場合のポイントを説明できる。 現在の自分の着衣状態について説明と評価ができる。 他人の着衣状態について説明と評価ができる。 | | | |
| カリキュラム上の位置付け | 「着る人」を前提にして我々の感性に密着した現代課題としての科学・技術を考えたい。 | | | | | | |
| 授業の概要 | 【授業の概要】 衣服に対する消費者の要求を次の8点にまとめ、それぞれについて、本講義の到達目標に則し、その要求内容、要求を満たすための衣服の性能とその実現状況について、それぞれ解説する。 | | | | | | |
| 授業の進行予定及び進め方 | 【進行予定と進め方】 (0) ガイダンス 我々の衣生活システム(一回) (1) 衣服の外観 - 衣服が表現するもの - (三回) (2) 衣服の着心地 - 我々が衣服に求めるもの - (二回) (3) 取扱易さ - 繰り返し着用できる衣服 - (二回) (4) 形態安定性 - 古くなる衣服 - (二回) (5) 環境形成 - 衣服は我々の体の回りに微小環境を作る(二回) (6) 安全性 - 製造物の安全性 - (一回) (7) 経済性 - 格安品から高級ブランド品まで - (一回) (8) 環境保全性 - 循環型社会における衣服の使用 - (一回) | | | | | | |
| 授業に関連するキーワード | 衣生活 | アパレル | | 快適性 | | | |
| | 絹織物 | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 評価方法：定期試験70%，講義に際し適宜行う小テスト(30%)。判定基準：指定する内容が回答されているか。 | | | | | | |
| 教科書・参考書等 | 【教/参の別】 | 【書籍名】 | | 【著者】 | 【出版社】 | 【出版年】 | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| 教科書・参考書等に関する記述欄 | | | | | | | |
| 自由記述欄 | | | | | | | |

| | | | | | | | |
|--|--|-------------------|----------------------|--|----------------------|---------------|--------------|
| 科目コード | 5120130 | | | 単位 | 1 | 時間数 | 15 |
| 授業科目名 | 化学の世界 - 最新の化学 - | | | 開講学期等 | 前期後半 | 時間割 | 火5・6 |
| 授業科目名英字 | The Chemical World A | | | | | | |
| 備考 | | | | 授業の形式 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| | | | | 受講対象学生 | 全学部 1～4年 | | |
| 内容的に密接に関係する授業科目 | 入門化学 | | | 履修する際に前提とする授業科目 | | | |
| 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 | 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 |
| 中田真一 | 環境応用化学科 | 工資4-210 | 2437 (090-3008-7565) | 小笠原正剛 | 環境応用化学科 | 工資4-214 | 018-889-2445 |
| 松本和也 | 環境応用化学科 | 工資4-323 | 018-889-2745 | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| オフィスアワー | 【曜日及び時間】 | 水曜日 11:00～13:00 | | 【場所】 | 工資4-210 (中田) | | |
| 授業の目的 | | | | 授業の到達目標 | | | |
| 現代社会で話題になっている科学技術や身のまわりの物質について、「化学」が身近なところであり、「ものづくり」において「環境に配慮した化学」(グリーンケミストリー)が基本になっていること、また環境問題を解決していくのも「化学の力」であることを学ぶ。 | | | | [1]有機・高分子化学, 無機化学, プロセス化学, 環境化学の身近な話題を取り上げることができる。 [2]化学的な考え方で身のまわりの物質やプロセス, システムについて説明できる。 [3]「化学物質」の正しい管理や使用方法について, いくつか例示して説明できる。 | | | |
| カリキュラム上の位置付け | 化学という学問への導入教育の一つであり, 化学への興味を喚起するために開講する。 | | | | | | |
| 授業の概要 | 【授業の概要】 化学への興味を喚起することを狙って, 身近な事柄についての化学的な考え方(思考)や社会と「化学という学問」の繋がりを紹介する。 | | | | | | |
| 授業の進行予定及び進め方 | 【進行予定と進め方】 以下の内容に関して3名の教員が分担して講義する。なお下記は予定であり, 講師や順番の変更がある場合は適時連絡する。 [1]化学の眼で見る石油とその代替燃料(化学的視点で見た身近なエネルギーについて) [2]「分子」を見よう, 扱おう, つくろう!!(化学概論) [3]結晶性無機化合物の合成と構造解析(無機プロセス化学) [4]無機系多孔質材料の現状とこれから(無機化学の応用) < [1]～[4]の内容についてのレポート課題 > [5]有機・高分子化学概論 [6]身の周りの有機化合物 [7]現代社会を支える高分子化合物 [8]環境問題と高分子材料, 化学物質の安全管理, 講義のまとめ < [5]～[8]の内容についてのレポート課題 > | | | | | | |
| 授業に関連するキーワード | 分子・原子 | | 分析化学 | | 有機化学 | | |
| | 高分子化学 | | 無機化学 | | 生化学 | | |
| | 化学プロセス | | グリーンケミストリー (GC) | | エネルギー | | |
| 成績評価の方法 | 2回の課題レポートにより評価する。(詳しくは最初の授業で説明する。) | | | | | | |
| 教科書・参考書等 | 【教/参の別】 | 【書籍名】 | | | 【著者】 | 【出版社】 | 【出版年】 |
| | 参考書 | 『材料化学の最前線』 | | | 首都大学東京都市環境学部分子応用化学研究 | 講談社 | 2010年 |
| | 参考書 | 『知っておきたい有機化合物の働き』 | | | 齋藤勝裕著 | ソフトバンククリエイティブ | 2011年 |
| | 参考書 | 『チャレンジ化学』 | | | 水谷広著 | 三共出版 | 2010年 |
| | 参考書 | 『世界で一番美しい元素図鑑』 | | | T.Gray著, 若林文高監修 | 創元社 | 2010年 |
| 参考書 | 『化学環境学』 | | | 御園生誠著 | 裳華房 | 2007年 | |
| 教科書・参考書等に関する記述欄 | 教科書は使用しない。プリント配布。PC、DVD、ビデオなども使用する。参考書として、上記のほかに『商品から学ぶ化学の基礎』, 松田勝彦著, 化学同人(2011年); 『元素検定』, 桜井弘他著, 化学同人(2011); 『ビジュアル化学』 Newton 別冊(改訂新版), ニュートンプレス(2013)など | | | | | | |
| 自由記述欄 | 分子や原子を操るのが「化学」である。楽しみながら一緒に「化学」を学ぼう! | | | | | | |

| | | | | | | | |
|--|---|---------------|--------------|---|---------|---------|--------------|
| 科目コード | 5120140 | | 単位 | 1 | 時間数 | 15 | |
| 授業科目名 | 材料の世界 - 暮らしと材料 - | | 開講学期等 | 前期後半 | 時間割 | 火5・6 | |
| 授業科目名英字 | Materials Science: The World of Materials; Human Life and Materials | | | | | | |
| 備考 | 授業の形式 | | 講義 | 必修・選択 | 選択 | | |
| | 受講対象学生 | | 全学部 1～4年 | | | | |
| 内容的に密接に関係する授業科目 | 履修する際に前提とする授業科目 | | | | | | |
| 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 | 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 |
| 小玉展宏 | 工学資源学部 | 教文3-204 | 018-889-2650 | 原 基 | 工学資源学部 | 工資3-413 | 018-889-2414 |
| 麻生節夫 | 工学資源学部 | 工資3-311 | 018-889-2413 | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| オフィスアワー | 【曜日及び時間】 | 火曜 7, 8 時限 | | 【場所】 | 各教員室 | | |
| 授業の目的 | | | | 授業の到達目標 | | | |
| 今日の生活と暮らしの中に、深く入り込んでいる種々の材料と資源・環境・エネルギー問題との関連を取り上げる。特に、エネルギー変換材料、光学材料などの機能材料および鉄鋼材料などの構造材料に焦点を当て、それらの働きと応用例を講義する。 1) 資源・環境・エネルギー問題に対する材料と材料技術の役割を理解する。 2) 金属・半導体・セラミックスの一般的な性質を理解する。 3) 金属・半導体・セラミックスの応用例を理解する。 | | | | 1) 資源・環境・エネルギー問題に対する材料と材料技術の役割を説明できる。 2) 金属・半導体・セラミックスの一般的な性質を説明できる。 3) 金属・半導体・セラミックスの合成・加工法と応用例を説明できる。 | | | |
| カリキュラム上の位置付け | 材料工学・材料科学を理解するための導入科目である。 | | | | | | |
| 授業の概要 | 3分野の材料の基礎から応用までについて、オムニバス式で講義する。 | | | | | | |
| 授業の進行予定及び進め方 | 工学資源学部材料工学科3人の教員が各自の専門に近い内容を交代で講義する。 1. 光学材料(小玉展宏) 携帯電話や薄型テレビ(プラズマおよび液晶ディスプレイ、有機EL)、また次世代照明などに使われる発光ダイオード、蛍光体、液晶などの光学材料の機能と役割を理解する。併せて、エネルギー・環境・元素資源の問題と光学材料との関連を理解する。 1) 光学機能(発光・吸収現象)の基礎と発光ダイオードと蛍光体による発光のデモ。 2) 発光材料の役割とディスプレイへの応用、エネルギー問題との関連を説明する。 2. エネルギー変換材料(原 基) 化学、原子力、光などの各種エネルギーは最も使いやすいエネルギー形態である電気エネルギーに変換されて使用されている。本講義では、いろいろなエネルギー変換において重要な役割をする材料についてその概要を講義する。 1) 我が国で最も電力供給量の多い熱機関で使用される熱エネルギー/機械エネルギー変換材料について講義する。 2) 将来のクリーンエネルギー源として注目される太陽電池、燃料電池において重要な役割を果たしている材料について講義する。 3. 鉄鋼材料(麻生節夫) 我々の日常を支えている鉄鋼材料の基礎と応用について講義する。 1) 種々の鉄鋼材料の特徴と用途について説明する。 2) 鉄鋼材料に不可欠な熱処理について、日本刀を例に説明する。 | | | | | | |
| 授業に関連するキーワード | エネルギー | 金属材料 | 耐熱材料 | | | | |
| | 光学材料 | 鉄鋼材料 | 環境 | | | | |
| | 元素資源 | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 達成目標についてレポート提出を求め、各達成目標の達成率を評価する。具体的には、3つの講義分野から出された各々の課題について指定された期日までにレポートを提出する。成績はレポートにより評価し、全ての達成目標で60%以上の評価を得た者を合格とする。なお、欠席がいずれかの講義について2回もしくは合計3回に達したものはD評価とする。 | | | | | | |
| 教科書・参考書等 | 【教/参の別】 | 【書籍名】 | | 【著者】 | 【出版社】 | 【出版年】 | |
| | 参考書 | 『発光・照明材料』 | | 日本セラミックス協会 | 日刊工業新聞社 | 2010年 | |
| | 参考書 | 『鉄と鉄鋼材料がわかる本』 | | 新日本製鉄(株) | 日本実用出版社 | 2004年 | |
| | | | | | | | |
| 教科書・参考書等に関する記述欄 | プリント配布あるいはプロジェクターを使用する。機能材料を使った実際の製品を一部紹介する。 | | | | | | |
| 自由記述欄 | | | | | | | |

| | | | | | | | |
|---|--|---------------------|---------------------|--|----------------|----------------|--------|
| 科目コード | 5120150 | | 単位 | 1 | 時間数 | 15 | |
| 授業科目名 | 情報工学の世界 A - 現代情報技術の実際 - | | 開講学期等 | 前期前半 | 時間割 | 木7・8 | |
| 授業科目名英字 | Information Technology A:Current Topics of Information Technology | | | | | | |
| 備考 | | | 授業の形式 | 講義 | 必修・選択 | 選択 | |
| | | | 受講対象学生 | 全学部 1～4年 | | | |
| 内容的に密接に 関係する授業科目 | 特になし | | 履修する際に前提 とする授業科目 | 特になし | | | |
| 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 | 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 |
| 責:五十嵐隆治 | 情報工学科 | 総合研究棟3F教員 室・2963 | 018-889-2963 | 水戸部一孝 | 情報工学科 | 工資V - 504・2339 | |
| 横山 洋之 | 情報工学科 | 工資V - 507・2776 | | 景山陽一 | 情報工学科 | 工資V - 406・2786 | |
| 橋本仁 | 情報工学科 | 総合研究棟3F教員 室・2780 | | 高谷真弓 | 情報工学科 | 工資V - 309・2784 | |
| 山村明弘 | 情報工学科 | 工資V - 310・2799 | | | | | |
| オフィスアワー | 【曜日及び時間】 | 授業時に通知する | | 【場所】 | 各教員室 | | |
| 授業の目的 | | | | 授業の到達目標 | | | |
| 現在、情報通信技術（ICT）は日常的にあらゆる分野で利用されている。その中の幾つかの課題に関する技術的な背景と活用状況を具体的に知ることによって、ICTの実際を理解する。 | | | | 1) 情報通信技術について説明できる。 2) 情報通信技術が、社会においてどのように活用されているのかを説明できる。 3) 情報通信技術と私達の身近な生活との関わりを列挙できる。 4) 情報通信技術の具体的な長所と短所をそれぞれ列挙できる。 5) 現状と比較し、情報通信技術の将来について自分なりの考えを説明できる。 | | | |
| カリキュラム上 の位置付け | 教養基礎教育の目標「6．本学に所属する教員の固有の専門的力量を、教養教育にも十分に発揮できるカリキュラム体制を目指し、それによる特色と効果を創出する」と深く関わる科目。また、目的・主題別としては、「学問の方法」を重視する。 | | | | | | |
| 授業の概要 | 本講義では、ICTを活用した伝承技術、XML、コンピュータの高信頼化技術、トラヒックエンジニアリング技術、デジタル信号と情報通信技術、クラウドコンピューティング、リモートセンシングなどの情報通信技術（ICT）に関するトピックスを取り上げ、ICTがどのように活用されているのかを理解する。 | | | | | | |
| 授業の進行予定 及び進め方 | 1. リモートセンシングの世界 ・リモートセンシングとは何か・宇宙から見た地球の現状・見えるもの、見えないもの・過去から現在、未来へ：得られる情報の活用 2. ICTを活用した伝承技術 ・モーションキャプチャ・バーチャルリアリティ・人の動作の記録・保存と再現技術・動作学習支援システム 3. XML：電子社会を構築する技術 ・XMLとは・XML関連技術・XML適用事例 4. コンピュータの高信頼化技術 ・高信頼コンピュータの基本的考え方・フォールトトレラントシステム・LSIの高信頼化、テスト 5. トラヒックエンジニアリング技術 ・トラヒックとその特徴・トラヒックと通信品質・経路制御：最短経路とトラヒック平滑化 6. デジタル信号と情報通信技術 ・デジタルとアナログ・信号伝送（情報の伝送）・信号の変調と復調 7. クラウドコンピューティング ・クラウドの実際・仮想化技術・スマートグリッド 8. まとめ・試験 | | | | | | |
| 授業に関連する キーワード | ICTを活用した伝承技術 | | 電子社会 | | フォールトトレラントシステム | | |
| | トラヒックエンジニアリング | | デジタル信号 | | クラウドコンピューティング | | |
| 成績評価の方法 | 授業最終回の試験により評価する。7回の授業のうち5回以上授業に出席しない場合は単位を認めない。 | | | | | | |
| 教科書 ・ 参考書等 | 【教/参の別】 | 【書籍名】 | | 【著者】 | 【出版社】 | 【出版年】 | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| 教科書・参考書等 に関する記述欄 | 適宜、資料を配布する。 | | | | | | |
| 自由記述欄 | | | | | | | |

| | | | | | | | |
|--|--|-------------------------|---|-----------|-----------|---------|--------|
| 科目コード | 5120160 | 単位 | 2 | 時間数 | 30 | | |
| 授業科目名 | コンピュータの科学 A - コンピュータ科学の基礎 - | 開講学期等 | 前期 | 時間割 | 火3・4 | | |
| 授業科目名英字 | Computer Science IA:Fundamentals on Computer Science | | | | | | |
| 備考 | 授業の形式 | | 講義 | 必修・選択 | 選択 | | |
| | 受講対象学生 | | 全学部 1～4年 | | | | |
| 内容的に密接に関係する授業科目 | コンピュータの科学II | | 履修する際に前提とする授業科目 | 特になし | | | |
| 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 | 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 |
| 林 良雄 | 教育文化学部 | 教文4 - 414 | 018-889-2761 | | | | |
| オフィスアワー | 【曜日及び時間】 | 火 14:30～16:00 | | 【場所】 | 教文4 - 414 | | |
| 授業の目的 | | | 授業の到達目標 | | | | |
| コンピュータ科学の入門として、コンピュータ内部でのデータ表現および動作原理について理解する。 | | | データのデジタル化について説明できる。 コンピュータ内部でのデータ表現が説明できる。 ブール代数の操作ができる 組み合わせ・順序論理回路について説明ができる。 | | | | |
| カリキュラム上の位置付け | 本講義は情報処理技術を習得する基礎教育として、重要なコンピュータの動作に関する基礎的知識を習得させるものである。 | | | | | | |
| 授業の概要 | コンピュータの動作を理解するためにはコンピュータ内部での情報の表現の理解を必要とする。本講義では特に数値のコンピュータの内部表現について説明を行う。そのあと、内部で表現されたデータを処理する回路を理解するには論理回路が必須となる。本講義ではその数学的基礎であるブール代数を習得し、それをを用いた初歩的な論理回路を紹介する。 | | | | | | |
| 授業の進行予定及び進め方 | <p>授業概要は以下のとおりに進める。</p> <p>第1回 ガイダンス 第2回 基礎知識 第3回 デジタル化について 第4～8回 データ表現について 第8～12回 ブール代数と組み合わせ論理回路について 第13～15回 順序論理回路について</p> <p>全て講義で行い、板書を中心とするが、補助的にeラーニング教材も利用する。 授業の初めには前回の内容の復習テストを行う。また「データ表現について」、「ブール代数と組み合わせ論理回路について」、「順序論理回路について」の最後には小テストを行う。 基本的には教科書に従って行う。教科書巻末の演習問題は全ておこなっておくこと。また、授業外では下記の参考書や教科書で紹介されている文献を読んでおくとう理解が進む。</p> | | | | | | |
| 授業に関連するキーワード | デジタル | ブール代数 | | 論理回路 | | | |
| | アーキテクチャ | データ表現 | | | | | |
| 成績評価の方法 | <p>成績評価は復習問題の提出状況と3回の小テスト及びデジタル教材による学習を合計した点数で行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎回授業の最初に前回の授業の内容の復習テストを行い、その場で回収する。合計30点 ・ 小テストは2回以上受けるものとし、2回未満のものはDとみなす。なおテスト時に欠席したものの再試験は行わないものとする。合計60点 ・ デジタル教材による学習をどの程度行ったかにより10点 | | | | | | |
| 教科書・参考書等 | 【教/参の別】 | 【書籍名】 | | 【著者】 | 【出版社】 | 【出版年】 | |
| | 教科書 | 『計算機科学の基礎』 | | 八村広三郎 | 近代科学社 | 1989 | |
| | 参考書 | 『コンピュータのしくみを理解するための10章』 | | 馬場敬信 | 技術評論社 | 2005 | |
| | 参考書 | 『コンピュータ解体新書』 | | 清水忠昭・菅田一博 | サイエンス社 | | |
| 教科書・参考書等に関する記述欄 | | | | | | | |
| 自由記述欄 | | | | | | | |

| | | | | | | | |
|--|--|------------------|--------|--|----------|---------|--------|
| 科目コード | 5120170 | | 単位 | 2 | 時間数 | 30 | |
| 授業科目名 | コンピュータの科学 A - グラフとアルゴリズム - | | 開講学期等 | 前期 | 時間割 | 水5・6 | |
| 授業科目名英字 | Computer Science IIA:Graph and Algorithm | | | | | | |
| 備考 | | | | 授業の形式 | 必修・選択 | | |
| | | | | 受講対象学生 | 全学部 1～4年 | | |
| 内容的に密接に関係する授業科目 | コンピュータの科学 | | | 履修する際に前提とする授業科目 | | | |
| 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 | 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 |
| 上田晴彦 | 教育文化学部 | 4-412・2765 | 2765 | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| オフィスアワー | 【曜日及び時間】 | 水曜日 午後2時30分～午後5時 | | 【場所】 | 4-412 | | |
| 授業の目的 | | | | 授業の到達目標 | | | |
| <p>グラフ理論は、コンピュータ科学・自然科学・純粋数学・社会科学等の様々な分野での基礎的理論となっている。今後専門課程においてより高度な学問を理解する上でも、またコンピュータ科学への興味を喚起する上でも欠かすことの出来ないものである。本授業では、この魅力的なグラフ理論についての基礎事項を論述する。さらにグラフに関するアルゴリズムを学習することで、コンピュータ科学に対する理解を深める。</p> | | | | <p>以下の2点を到達目標とする。 1) グラフ理論の基礎事項を理解する。 2) アルゴリズムへの応用が出来るようになる</p> | | | |
| カリキュラム上の位置付け | <p>グラフおよびアルゴリズムは、コンピュータ科学を専門とする学生だけでなく、他の分野に興味をもつ学生にも十分に役立つ重要な基礎的理論である。本講義では、今後自然科学・社会科学の専門課程に進む学生に対して、将来要求される基礎的概念を身に付けることをカリキュラム上の位置づけとする。</p> | | | | | | |
| 授業の概要 | <p>【授業の概要】 グラフ理論とそれに関連するアルゴリズムについて、系統立てて論述する。</p> | | | | | | |
| 授業の進行予定及び進め方 | <p>【進行予定と進め方】 具体的には以下の順に講義を進める。 1) グラフ理論の基礎 1. グラフとはなにか 2. 木・連結性・分割 3. 周遊・線グラフ 4. 被覆・平面グラフ・4色定理 5. 色分け可能性・グラフと行列 6. グラフと群・有向グラフ 2) アルゴリズムへの応用 7. アルゴリズムの基礎 8. アルゴリズムとデータ構造 9. アルゴリズムと木 10. アルゴリズムと有向グラフ 11. アルゴリズムと無向グラフ 12. アルゴリズムとオイラー・ハミルトングラフ 3) まとめ 13. まとめと試験対策</p> | | | | | | |
| 授業に関連するキーワード | コンピュータ科学 | | グラフ理論 | | アルゴリズム | | |
| 成績評価の方法 | レポート(20%)、試験(80%) 総合60%を合格とする。 | | | | | | |
| 教科書・参考書等 | 【教/参の別】 | 【書籍名】 | | 【著者】 | 【出版社】 | 【出版年】 | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| 教科書・参考書等に関する記述欄 | オリジナルの講義冊子のファイルをa・netの「キャビネット」に置いておくので、受講希望者はあらかじめダウンロードして印刷した状態で持参すること。(「学生」フォルダ内の「授業関係資料」フォルダ内の「上田晴彦」フォルダで、対応するファイルをダウンロードしてください。) | | | | | | |
| 自由記述欄 | 講義冊子がないと、授業を受講する際に大きな支障となります。必ず事前にプリントアウトして持参してください。 | | | | | | |

| | | | | | | | | |
|-----------------|--|---------------------|-----------------|--|----------|--------------------|--------|--|
| 科目コード | 5120190 | | 単位 | 1 | | 時間数 | | |
| 授業科目名 | 資源循環と科学 - 希少元素に注目して - | | 開講学期等 | 前期後半 | | 時間割 | 金5・6 | |
| 授業科目名英字 | Resource circulation Society and Science-The case of rare metals | | | | | | | |
| 備考 | | | 授業の形式 | 講義 | | 必修・選択 | 選択 | |
| | | | 受講対象学生 | 全学部 1～4年 | | | | |
| 内容的に密接に関係する授業科目 | | | 履修する際に前提とする授業科目 | | | | | |
| 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 | 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 | |
| 柴山 敦 | 工学資源学研究所 | VBL棟3F教員室2・3051 | | 杉山 俊博 | 医学系研究所 | 医学部・6075 | | |
| 菅原 勝康 | 工学資源学研究所 | 工学資源学部4号館222室・2750 | | 石山 大三 | 工学資源学研究所 | 附属環境資源学研究所センター218室 | | |
| 齊藤 準 | 工学資源学研究所 | 附属環境資源学研究所センター204室 | | 吉村 哲 | 工学資源学研究所 | 附属環境資源学研究所センター203室 | | |
| 大川浩一 | 工学資源学研究所 | 工学資源学部2号館B209室・2385 | | 林 滋生 | 工学資源学研究所 | 附属環境資源学研究所センター307室 | | |
| | | | | | | | | |
| オフィスアワー | 【曜日及び時間】 | | | 【場所】 | | | | |
| | 授業の目的 | | | 授業の到達目標 | | | | |
| | 希少元素を中心として、資源開発、産業技術、リサイクル、環境、医療等の資源循環型社会の構築に関わる諸要素を、各科学分野の先端的研究を通して理解する。 | | | ・希少元素の科学のおよび経済的・産業的側面からの重要性を理解する。 ・希少元素の資源リサイクルと素材としての機能、役割、特徴および環境保全を理解する。 | | | | |
| カリキュラム上の位置付け | 初年度ゼミ相当の科学技術概論であり、基礎化学・基礎物理程度の内容を基本とした技術紹介等を行う。 | | | | | | | |
| 授業の概要 | 【授業の概要】 希少元素(レアメタル)に注目した資源循環や素材利用などの科学技術を各講師が概論として説明する。主な講義内容は希少元素の特徴と資源リサイクル、探査、エネルギー、物理的性質、先端材料、生体影響、代替技術等に関する動向や最新技術であり、これらの項目を科学的な観点から解説する。 | | | | | | | |
| 授業の進行予定及び進め方 | 【進行予定と進め方】 (1)ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー(VBL)の概要と見学(工学資源学研究所環境物質工学専攻、柴山 教授) VBLの見学を行い、VBLで進めている「希少元素の資源リサイクルと高度素材設計」プロジェクトを説明する。 (2)希少元素資源と経済(工学資源学研究所地球資源学専攻、大川 助教) 希少元素資源の世界的埋蔵量や分布、世界経済における重要性について講義する。 (3)希少元素と探査(工学資源学研究所附属環境資源学研究所センター、石山 教授) 希少元素を含む鉱物資源の存在状態と探査について講義する。附属鉱業博物館の見学も行う。 (4)希少元素の分離精製技術(工学資源学研究所環境物質工学専攻、菅原 教授) 低エネルギー、低環境負荷型の希少元素分離精製技術について概説する。 (5)希少元素の物理的性質とその応用(工学資源学研究所附属環境資源学研究所センター、齊藤 教授) 希少元素の物理的性質の発現機構とその工学応用を講義する。 (6)先端材料と希少元素(工学資源学研究所附属環境資源学研究所センター、吉村 准教授) 希少元素の微量添加によって得られる各種先端工業材料を概観する。 (7)希少元素の生体影響(医学系研究所、杉山 教授) 希少元素の生体影響の研究の現状を講義する。 (8)希少元素の代替技術(工学資源学研究所附属環境資源学研究所センター、林 教授) 希少元素を、他のありふれた元素で置き換える技術について解説する。 なお、授業の詳細については初回授業時に説明する。 | | | | | | | |
| 授業に関連するキーワード | 希少元素 | 資源探査 | 分離精製 | | | | | |
| | 資源リサイクル | 先端材料 | 生体影響 | | | | | |
| 成績評価の方法 | 毎回の講義時に課題を課し、総合点(100%)のうち60%以上を合格とする。 | | | | | | | |
| 教科書・参考書等 | 【教/参の別】 | 【書籍名】 | | 【著者】 | 【出版社】 | 【出版年】 | | |
| | 特になし | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| 教科書・参考書等に関する記述欄 | | | | | | | | |
| 自由記述欄 | | | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-------------------------|---|---------------------|--------|---|--------------------|---------|--------|
| 科目コード | 5130040 | | | 単位 | 1 | 時間数 | 15 |
| 授業科目名 | 医学と健康 A - 健康と疾患の基礎知識 - | | | 開講学期等 | 前期前半 | 時間割 | 火7・8 |
| 授業科目名英字 | Medical Science and Health IA:Health and Disease | | | | | | |
| 備考 | | | | 授業の形式 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| | | | | 受講対象学生 | 全学部 1～4年 | | |
| 内容的に密接に関係する授業科目 | なし | | | 履修する際に前提とする授業科目 | なし | | |
| 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 | 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 |
| 後藤明輝 | 医学部 | | 6062 | 美作宗太郎 | 医学部 | | 6092 |
| 南條 博 | 医学部 | | 6182 | 大森 泰文 | 医学部 | | 6060 |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| オフィスアワー | 【曜日及び時間】 | 月曜 7・8 時限 | | 【場所】 | 医学部基礎棟2階器官病態学講座研究室 | | |
| 授業の目的 | | | | 授業の到達目標 | | | |
| 健康と医学についての基礎的なメカニズムを学ぶ。 | | | | 肉眼、顕微鏡での人体の観察を通じ(目で見て)、人体の正常、異常(病気)、そして死について理解する。 | | | |
| カリキュラム上の位置付け | 教養基礎教育の目標「(6) 本学に所属する教官の固有の専門的力量を、教養教育にも十分に発揮できるカリキュラム体制を目指し、それによる特色と効果を創出する」と深くかかわる科目、また、目的・主題別としては「学問の進展」を重視する。 | | | | | | |
| 授業の概要 | 【授業の概要】 病理学、法医学に関する基礎知識・用語の解説などを講義し、専門誌の内容が理解できるようにする。 いずれの学問領域も肉眼的観察、顕微鏡を用いた観察など”目で見て理解する”ことが基本となる。これらの知識は分子レベルでの理解と組み合わせることにより、健康と疾患に関するより深い理解へと受講者を導くであろう。 | | | | | | |
| 授業の進行予定及び進め方 | 4月9日：病気を目で見る(病理学入門)担当：後藤明輝 4月16日：呼吸器疾患を目で見る 担当：後藤明輝 4月23日：担当：美作宗太郎 4月30日：担当：美作宗太郎 5月7日：外科病理学入門(病理学と医療)担当：南條 博 5月14日：腫瘍・癌とは？ 担当：大森泰文 5月21日：さまざまな疾患の病理学 担当：南條 博 5月28日：消化器疾患を目で見る 担当：大森泰文 | | | | | | |
| 授業に関連するキーワード | 病理学 | 法医学 | | 腫瘍 | | | |
| | 健康 | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 出席状況(2/3以上)とレポート(提出必須)による評価。 | | | | | | |
| 教科書・参考書等 | 【教/参の別】 | 【書籍名】 | | 【著者】 | 【出版社】 | 【出版年】 | |
| | 参考書 | 『はじめの一步のイラスト病理学』 | | 深山正久ら | 羊土社 | 2012 | |
| | 参考書 | 『入門病理学(病気の形態となりたち)』 | | 町並陸生 | 丸善出版 | 2011 | |
| | | | | | | | |
| 教科書・参考書等に関する記述欄 | 講義内容をさらに学ぶためには、ここに挙げた参考書が役立つ。 | | | | | | |
| 自由記述欄 | | | | | | | |

| | | | | | | | | |
|---|---|-------------------|--------------|--|-----------|---------|--------------|--|
| 科目コード | 5130050 | | 単位 | 1 | | 時間数 | 8 | |
| 授業科目名 | 医学と健康 A - 女性の一生 精子・卵子から婦人病 | | 開講学期等 | 前期後半 | | 時間割 | 火9・10 | |
| 授業科目名英字 | Medical Science and Health II A - Woman's Life - | | | | | | | |
| 備考 | 授業の形式 | | 講義 | | 必修・選択 | | 選択 | |
| | 受講対象学生 | | 全学部 1～4年 | | | | | |
| 内容的に密接に関係する授業科目 | 履修する際に前提とする授業科目 | | | | | | | |
| 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 | 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 | |
| 寺田幸弘 | 医学部・産婦人科 | | 018-884-6160 | 熊谷 仁 | 医学部・産婦人科 | | 018-884-6163 | |
| 佐藤 朗 | 医学部・産婦人科 | | 018-884-6163 | 佐藤直樹 | 医学部・産婦人科 | | 018-884-6163 | |
| 清水 大 | 医学部・産婦人科 | | 018-884-6163 | 佐藤敏治 | 医学部・産婦人科 | | 018-884-6163 | |
| 三浦広志 | 医学部・産婦人科 | | 018-884-6163 | | | | | |
| オフィスアワー | 【曜日及び時間】 | 月曜～金曜 13:00～17:00 | | 【場所】 | 医学部産婦人科医局 | | | |
| 授業の目的 | | | | 授業の到達目標 | | | | |
| 精子卵子から胎児、分娩、思春期そして婦人の病気まで女性の一生すべてを取り扱う産婦人科の仕事を通して、なくならない生命の流れを理解する。 | | | | 精子卵子の形成からヒトの誕生までの基本的な知識を説明できるようになる。婦人科臓器に発症する疾患に関しての基本的な知識を説明できるようになる。 | | | | |
| カリキュラム上の位置付け | 女性の一生に関して、その営みを理解し「いのち」について考察する。 | | | | | | | |
| 授業の概要 | 【授業の概要】 以下の講義を通して女性の一生を俯瞰し、「いのち」を再認識していただきます。 | | | | | | | |
| 授業の進行予定及び進め方 | 【進行予定と進め方】 第1回 精子、卵子の形成、受精と胚の発育 寺田幸弘 第2回 性の分化 寺田幸弘 第3回 生殖補助医療 熊谷仁 第4回 胎児の発育 三浦広志 第5回 分娩 佐藤朗 第6回 思春期、性行為感染症 佐藤敏治 第7回 婦人の病気 良性疾患 清水大 第8回 婦人の病気 悪性疾患 佐藤直樹 | | | | | | | |
| 授業に関連するキーワード | 配偶子 | | 受精 | | 胎児 | | | |
| | 分娩 | | 性分化 | | 思春期 | | | |
| 成績評価の方法 | 婦人科疾患 ・欠席3回の時点で評価はDとする。 ・8回の講義終了に800字以上のレポートを提出。 1) 題名は「いのちに関して本講義を受講して考えたこと」 2) 一般のA4レポート用紙で提出。学籍番号、氏名を書いた上で、上記内容について記載してください。タイトルのみ別紙にする必要なし。 3) 〆切は、第8回講義の翌週火曜まで、教育推進課(教務担当)まで提出。 | | | | | | | |
| 教科書・参考書等 | 【教/参の別】 | 【書籍名】 | | 【著者】 | 【出版社】 | 【出版年】 | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| 教科書・参考書等に関する記述欄 | ・第1回の講義時に、この講義のシラバスを配布予定 | | | | | | | |
| 自由記述欄 | | | | | | | | |

| | | | | | | | |
|--|--|------------|--------|--|-----------|---------|--------|
| 科目コード | 5130060 | | | 単位 | 2 | 時間数 | 30 |
| 授業科目名 | 医学と健康 A - 加齢と保健医療 - | | | 開講学期等 | 前期 | 時間割 | 木3・4 |
| 授業科目名英字 | Medical Science and Health IIIA:aging and health care | | | | | | |
| 備考 | 授業の形式 | | | 講義 | 必修・選択 | 選択 | |
| | 受講対象学生 | | | 全学部 1～4年 | | | |
| 内容的に密接に関係する授業科目 | 履修する際に前提とする授業科目 | | | | | | |
| 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 | 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 |
| 浅沼 義博 | 医学系研究科保健学専攻 | C-112・6524 | 6524 | ほか看護学専攻教員 | | | |
| オフィスアワー | 【曜日及び時間】 | 適宜担当教員と連絡 | | 【場所】 | 適宜担当教員と連絡 | | |
| 授業の目的 | | | | 授業の到達目標 | | | |
| 1) 加齢に伴う身体的精神的变化を理解する。 2) 高齢期における個人の生活の質的向上と保健医療との関わりを理解する。 | | | | 1) 加齢に応じた健康保持法, 医療への関わり, 医療側の対応が理解できる。 2) 加齢と保健医療の現状を理解し, 高齢者へのいたわりの心をもてる。 3) 加齢と保健医療について, 具体的に問題提起し考察することができる。 | | | |
| カリキュラム上の位置付け | 加齢と保健医療を理解するための基礎科目である。 | | | | | | |
| 授業の概要 | 【授業の概要】 加齢に伴う身体的精神的变化を理解し, 高齢者の生活の質的向上と保健医療との関わりを探究する。 | | | | | | |
| 授業の進行予定及び進め方 | 【進行予定と進め方】 担当 1. 中村 順子 : 地域・老年看護学講座 4/11/13 講義の内容 2. 中村 順子 : 地域・老年看護学講座 4/18 高齢社会における保健医療福祉の課題(1) 3. 百田 芳春 : 基礎看護学講座 4/25 高齢社会における保健医療福祉の課題(2) 4. 百田 芳春 : 基礎看護学講座 5/9 加齢と身体機能変化(1) 5. 百田 芳春 : 基礎看護学講座 5/16 加齢と身体機能変化(2) 6. 鈴木 圭子 : 地域・老年看護学講座 5/23 加齢と身体機能変化(3) 7. 鈴木 圭子 : 地域・老年看護学講座 5/30 高齢者の心のケア(1) 8. 中村 順子 : 地域・老年看護学講座 6/6 高齢者の心のケア(2) 9. 中村 順子 : 地域・老年看護学講座 6/13 加齢と在宅ケア(1) 10. 山口 典子 : 基礎看護学講座 6/20 加齢と在宅ケア(2) 11. 山口 典子 : 基礎看護学講座 6/27 加齢と栄養(1) 12. 山口 典子 : 基礎看護学講座 7/4 加齢と栄養(2) 13. 永田美奈加 : 地域・老年看護学講座 7/11 加齢と栄養(3) 14. 浅沼 義博 : 臨床看護学講座 7/18 高齢者のケア 15. テスト 7/25 加齢と手術(1) 16. 浅沼 義博 : 臨床看護学講座 8/1 加齢と手術(2) | | | | | | |
| 授業に関連するキーワード | 加齢 | 保健医療 | | 健康 | | | |
| | ケア | 栄養 | | 家族 | | | |
| | 身体機能変化 | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 講義出席状況(2/3以上)を満した上で, 学習意欲・態度(10%), テスト(90%) | | | | | | |
| 教科書・参考書等 | 【教/参の別】 | 【書籍名】 | | 【著者】 | 【出版社】 | 【出版年】 | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| 教科書・参考書等に関する記述欄 | 特に指定しない。 | | | | | | |
| 自由記述欄 | | | | | | | |

| | | | | | | | |
|--|--|-----------|--------|---|-----------|---------|--------|
| 科目コード | 5130070 | | | 単位 | 2 | 時間数 | 30 |
| 授業科目名 | 医学と健康 - 障害と保健医療 - | | | 開講学期等 | 前期 | 時間割 | 月7・8 |
| 授業科目名英字 | Medical Science and Health V : disability and health care | | | | | | |
| 備考 | 授業の形式 | | | 講義 | 必修・選択 | 選択 | |
| | 受講対象学生 | | | 全学部 1～4年 | | | |
| 内容的に密接に関係する授業科目 | 履修する際に前提とする授業科目 | | | | | | |
| 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 | 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 |
| 石川隆志 | 保健学科 | B-408 | 6537 | ほか保健学科教員 | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| オフィスアワー | 【曜日及び時間】 | 月曜9・10時限 | | 【場所】 | 保健学科B-408 | | |
| 授業の目的 | | | | 授業の到達目標 | | | |
| 1)人間の生活機能と障害について理解する。 2)身体的・精神的障害のある人への援助のあり方を理解する。 | | | | 1)人の生活機能とその障害について説明できる。 2)人を取り巻く環境因子(制度・用具・態度など)について説明できる。 3)人を援助するための対人技能や環境整備について説明できる。 | | | |
| カリキュラム上の位置付け | この科目は障害を理解しようとする学生一般に向けた基礎科目である。 | | | | | | |
| 授業の概要 | 授業は講義形式を中心に進める。障害とそれにかかわる諸テーマについて、保健、医療、教育などさまざまな観点から講義する。 | | | | | | |
| 授業の進行予定及び進め方 | 第1回 4/ 8(月) 担当: 進藤伸一 「障害とは何か - 国際生活機能分類の考え方」 第2回 4/15(月) 担当: 石川隆志 「障害と作業活動」 第3回 4/22(月) 担当: 工藤俊輔 「障がい者の自立支援と環境整備 - バリアフリーと住宅改造 -」 第4回 5/13(月) 担当: 佐竹将宏 「障害と医療技術」 第5回 5/20(月) 担当: 工藤俊輔 「障がい者の自立支援と国際協力」 第6回 5/27(月) 担当: 上村佐知子 「障害者に対するコミュニケーション技術」 第7回 6/ 3(月) 担当: 塩谷隆信 「病気と障害」 第8回 6/10(月) 担当: 岡田泰司 「骨粗鬆症と転倒予防」 第9回 6/17(月) 担当: 若狭正彦 「スポーツとショウガイ」 第10回 6/24(月) 担当: 新山喜嗣 「こころの障害と保健医療」 第11回 7/ 1(月) 担当: 久米 裕 「こころの障害とリハビリテーション」 第12回 7/ 8(月) 担当: 高橋恵一 「発達障害に対するリハビリテーション」 第13回 7/22(月) 担当: 津軽谷 恵 「障害と日常生活活動」 第14回 7/29(月) 担当: 湯浅孝男 「コミュニケーション障害」 第15回 8/ 1(木) 担当: 大友和夫 「神経系と障害」 第16回 8/ 5(月) 担当: 石川隆志 試験 | | | | | | |
| 授業に関連するキーワード | 障害 | リハビリテーション | | | 保健医療 | | |
| 成績評価の方法 | 試験(90%)、学習態度(10%)。総合60%以上を合格とする。 欠席6回の時点で評価はDとする。 | | | | | | |
| 教科書・参考書等 | 【教/参の別】 | 【書籍名】 | | 【著者】 | 【出版社】 | 【出版年】 | |
| | 特に使用しない。資料を随時配付する。 | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| 教科書・参考書等に関する記述欄 | | | | | | | |
| 自由記述欄 | | | | | | | |

| | | | | | | | |
|---|---|-----------------|------------|--|------------|---------|--------|
| 科目コード | 5130100 | | | 単位 | 2 | 時間数 | 30 |
| 授業科目名 | 大学生と健康 A - 上手に生きる為の基礎知識 - | | | 開講学期等 | 前期 | 時間割 | 木7・8 |
| 授業科目名英字 | Students and Health A:A primer of mental and physical health for college students | | | | | | |
| 備考 | | | | 授業の形式 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| | | | | 受講対象学生 | 全学部 1～4年 | | |
| 内容的に密接に関係する授業科目 | | | | 履修する際に前提とする授業科目 | | | |
| 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 | 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 |
| 苗村育郎 | 保健管理センター | 2287 | 2287 | 小林政雄 | 保健管理センター | 2285 | |
| 円山啓司 | 非常勤講師 | 2286 | | 佐藤 敏治 | 非常勤講師 | 2286 | |
| 草薙宏明 | 非常勤講師 | 2286 | | 後藤優子 | 非常勤講師 | 2286 | |
| 武村尊生 | 非常勤講師 | 2286 | | | | | |
| オフィスアワー | 【曜日及び時間】 | 毎日 9:00 - 17:00 | | 【場所】 | 保健管理センター | | |
| 授業の目的 | | | | 授業の到達目標 | | | |
| 複雑な現代社会の生活では心身共に成長期である青年にとっては、社会環境から多くのストレスに晒され日常生活で健康に生き抜く知恵が必要である。増加している成人病（癌、心臓病、脳卒中）の予防は青年期から徹底化する必要がある。この科目は青年が直面している心とからだの健康状況を認識し、将来の生活の支えとなることを目的として行う。 | | | | 健康で創造的な生活を送るためのもっとも基本的な知識を心と体の両面において身につけることを目指す。身体面では各種の生活習慣病や、感染症、不眠症などの予防法を学び、心理面では性格、人間関係、神経症や鬱病から信仰の問題に至るまで幅広く取り上げる。 | | | |
| カリキュラム上の位置付け | 心身の健康と社会生活のもっとも基礎的な部分を学ぶ。 | | | | | | |
| 授業の概要 | 【授業の概要】 1) 人類はこれまでに経験したことのない未曾有の高齢化社会を経験している。これはたんに成人病の増加ということに留まらず、社会の各部署で個人がどう対処していくかという視点を明確にしておかないと、将来の人類の生存をも脅かしかねない。成人病や癌や痴呆の予防方法、エイズをはじめとする感染症などの基礎知識などについては青年期までに十分な理解を持っておくことが重要であり、日常生活の中での対処の仕方を学んでおく必要がある。 2) また、高度情報化社会への移行に伴い、経済・社会情勢が急速に変貌している。このストレスにたえて、人生を健康に生き抜くためには、ますます多くの知恵や知識が必要となってきている。この講義では、深層心理や人格・性格・鬱病や自殺、宗教やカルトの問題なども取り上げて解説する。 | | | | | | |
| 授業の進行予定及び進め方 | 【進行予定と進め方】 スライドとレジメのプリントはほぼ毎回使用する。授業に入りきらない課題も多いため、ほぼ1.5ヶ月に1本の割合でレポート提出を課する。（興味を持って調べて勉強することの楽しさを感じる学生は多い。）レポートは1本ずつ評価して、テスト成績に加点する。 | | | | | | |
| 授業に関連するキーワード | 心と体の健康保健 | | 成人病・鬱病・痴呆 | | 睡眠障害と心身の調子 | | |
| | 生活構造と人生・宗教 | | 飲酒地喫煙の害と発癌 | | エイズ・妊娠・出産 | | |
| | 救急措置・海外渡航 | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 期末試験の結果と出席状況（毎回の質疑応答）、及びレポートを統合して行う。 | | | | | | |
| 教科書・参考書等 | 【教/参の別】 | 【書籍名】 | | 【著者】 | 【出版社】 | 【出版年】 | |
| | | 『学生と健康』 | | 国立大学法人保健管理施設協議会 | 南江堂 | 2011年 | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| 教科書・参考書等に関する記述欄 | | | | | | | |
| 自由記述欄 | | | | | | | |

| | | | | | | | |
|--|--|---------------------|-----------------|---|--------------|---------|----------|
| 科目コード | 5130110 | | 単位 | 1 | 時間数 | 15 | |
| 授業科目名 | 生命と健康 A - 現代日本に見られる生活習慣病 - | | 開講学期等 | 前期前半 | 時間割 | 火9・10 | |
| 授業科目名英字 | Life and Health IA:Lifestyle-related diseases in | | | | | | |
| 備考 | | | 授業の形式 | 講義 | 必修・選択 | 選択 | |
| | | | 受講対象学生 | 全学部 1~4年 | | | |
| 内容的に密接に関係する授業科目 | 特になし | | 履修する際に前提とする授業科目 | 特になし | | | |
| 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 | 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 |
| 清水徹男 | 医学部精神科学講座 | 本道キャンパス | 884-6122 | 齊藤英知 | 医学部整形外科講座 | 本道キャンパス | 884-6148 |
| 吉富健志 | 医学部眼科学講座 | 本道キャンパス | 884-6167 | 橋本 学 | 医学部放射線医学講座 | 本道キャンパス | 884-6302 |
| 柴田浩行 | 医学部臨床腫瘍学講座 | 本道キャンパス | 884-6262 | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| オフィスアワー | 【曜日及び時間】 | 月曜日、水曜日の17:00-19:00 | | 【場所】 | 医学部放射線医学講座教室 | | |
| 授業の目的 | | | | 授業の到達目標 | | | |
| この講義の目的は、健康の保持・増進を図るために重要なライフスタイルと健康についての基礎的な知識を習得し、自らが健康的な生活習慣を身につけるとともに、その知識を卒業後の社会生活のなかで活用できるようにする。また、現在、国民の死亡原因の第一位を占めるがんの診断、治療の方法を知り、がんを理解し、予防に努める。 | | | | 1)生活習慣病やがんの概念を理解する。 2)食事、睡眠、スポーツ、嗜好品、ストレスなどが健康に与える影響について説明できる。 3)視力維持の重要性を説明できる。 4)健康な社会生活を送るためのライフスタイルの問題点を考察できる。 | | | |
| カリキュラム上の位置付け | 現代社会のあり方と健康との関係に興味を持つすべての学生を対象とする。予備知識は必要としない。秋田高校の生徒にも公開される。 | | | | | | |
| 授業の概要 | 【授業の概要】 高校、大学と成人への過程を進む中で自身の健康だけでなく、他者の健康や生命にも心を配ることができるように「生命と健康」について学ぶ。 | | | | | | |
| 授業の進行予定及び進め方 | 【進行予定と進め方】 4月9日(火) 副題:日本人のがん 1 担当 柴田浩行(臨床腫瘍学) 日本人に多いがんの成り立ちと治療方法 4月16日(火) 副題:日本人のがん 2 担当 柴田浩行(臨床腫瘍学) 日本人に多いがんの成り立ちと治療方法 4月23日(火) 糖尿病性網膜症 担当 吉富健志(眼科学) 重大な失明原因、生活習慣病対策を若いときから考えよう 5月7日(火) 副題:放射線診断 担当 橋本 学(放射線医学) 役に立つ放射線診療の話 5月14日(火) 副題:放射線治療 担当 橋本 学(放射線医学) 放射線とノーベル賞 5月21日(火) 副題:現代社会と睡眠 担当 清水徹男(精神医学) 現代人は睡眠を切りつめて生活している。その健康に与える影響は?諸君の睡眠・覚醒習慣について問いながら解説する。 5月28日(火) 副題:スポーツ傷害 担当 齊藤英知(整形外科学) 近年のスポーツ熱に伴い、スポーツに関連した傷害の頻度も増加している。スポーツとの関連、頻度について概説し、予防に役立てたい。 | | | | | | |
| 授業に関連するキーワード | 生活習慣 | ライフスタイル | | 食事・睡眠・スポーツ | | | |
| | ストレス | がん | | 視力 | | | |
| | 放射線 | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 毎回のレポート提出、または出席状況を元に評価する。 | | | | | | |
| 教科書・参考書等 | 【教/参の別】 | 【書籍名】 | | 【著者】 | 【出版社】 | 【出版年】 | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| 教科書・参考書等に関する記述欄 | 必要に応じて授業の際に関連図書を紹介する。 | | | | | | |
| 自由記述欄 | | | | | | | |

| | | | | | | | |
|---|--|-------------|-----------------|--|----------|-------------|--------|
| 科目コード | 5130120 | | 単位 | 1 | 時間数 | 15 | |
| 授業科目名 | 生命と健康 - 環境安全学 - | | 開講学期等 | 前期前半 | 時間割 | 水1・2 | |
| 授業科目名英字 | Life and Health II: Environmental Safety | | | | | | |
| 備考 | | | 授業の形式 | 講義 | 必修・選択 | 選択 | |
| | | | 受講対象学生 | 全学部 1～4年 | | | |
| 内容的に密接に関係する授業科目 | 環境関連専門科目 | | 履修する際に前提とする授業科目 | 特になし | | | |
| 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 | 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 |
| 村田勝敬 | 医学部 | 基医 3F・6085 | 6085 | 中田真一 | 工学資源学部 | 工4-210・2437 | |
| 林 滋生 | 工学資源学部 | 研究センター・2758 | | 岩田吉弘 | 教育文化学部 | 教3-218・2622 | |
| 石井範子 | 医学部 | 医B-205・6515 | | 武藤 一 | 環境安全センター | 医学部・6192 | 6192 |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| オフィスアワー | 【曜日及び時間】 | 各教員のオフィスアワー | | 【場所】 | 各教員室 | | |
| 授業の目的 | | | | 授業の到達目標 | | | |
| <p>科学技術の発達は人類に多大な利益をもたらすが、一方で様々な環境問題の発生や開発された製品や技術を使用する際の安全性のリスクが生じる。今日、環境や安全に関わる問題を無視して健全で快適な社会生活・学園生活を営むことはできない。この講義では、環境と安全性に関する基礎的な知識を習得するとともに、勉学や研究過程でその知識を実践できる能力を養うことを目的とする。</p> | | | | <ol style="list-style-type: none"> 1. 環境安全学とは何か概説できる 2. 環境中のリスクおよびハザードとは何か説明できる 3. 環境評価、リスクコミュニケーション、環境マネジメントシステムについて説明できる 4. 実験室における化学物質の安全取扱いについて説明できる 5. 非化学系実験室における事故防止に関わる環境管理について概説できる 6. 医療事象（抗癌剤、感染症）に関わる安全取扱いについて説明できる 7. 環境に由来する疾病について概説できる | | | |
| カリキュラム上の位置付け | 専門課程での環境関係の講義を聴講するに必要な基本的知識および環境安全の基本的視点を提示する。 | | | | | | |
| 授業の概要 | 【授業の概要】 環境リスクとは何か、その所在を説明するとともに、環境リスクから身を守るために必要な知識、技能、制度を解説する。 | | | | | | |
| 授業の進行予定及び進め方 | 【進行予定と進め方】 第1回（4月10日）「環境安全学と環境安全センターの役割」（村田勝敬・武藤 一） 環境安全の意義、および人と環境の関係を概説するとともに、環境安全センターの役割について講義する 第2回（4月17日）「環境安全の考え方と環境マネジメント」（中田真一） リスク、ハザード、環境評価、リスクコミュニケーション、環境マネジメントシステムなどについて身の回りの例を挙げて解説する 第3回（4月24日）「非化学系の実験室における環境・安全管理」（林 滋生） 電気機器、工作機械を用いる実験室における事故防止のための環境管理を講義する 第4回（5月1日）「環境汚染と健康影響」（村田勝敬） 環境有害因子による健康障害について講義する 第5回（5月8日）「実験室での化学物質の安全取扱い」（岩田吉弘） 実験室の安全確保の概要と、化学物質の性質に対応した安全取扱いについて講義する 第6回（5月15日）「医療の職場における危険因子と安全管理」（石井範子） 医療職場における抗癌剤などの危険因子の取扱いを含む安全管理について講義する 第7回（5月22日）「環境安全センターの見学」（武藤 一・村田勝敬） 第8回（5月29日）「環境安全センターの見学」（武藤 一・村田勝敬） 第7ないし8回のいずれかの見学会に参加してもらい、環境安全センターの実態を観察してもらおう | | | | | | |
| 授業に関連するキーワード | 環境安全センター | | 環境マネジメント | | 環境汚染 | | |
| | リスクコミュニケーション | | リスクとハザード | | 医薬品安全取扱い | | |
| | 化学物質と安全 | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 各回に課した演習またはレポートの平均点で60点以上を合格とする。 なお、「環境安全センターの見学」をしなかった者は自動的に不合格となる。 | | | | | | |
| 教科書・参考書等 | 【教/参の別】 | 【書籍名】 | | 【著者】 | 【出版社】 | 【出版年】 | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| 教科書・参考書等に関する記述欄 | 特に指定はない。各教員が推薦する参考書。 もし可能であれば、宇井純著（合本）「公害原論」垂紀書房（2006年新装版）を読んでおくことが望ましい。 | | | | | | |
| 自由記述欄 | | | | | | | |

| | | | | | | | |
|--|--|----------------|-----------------|--|--------------|-------------------------|--------|
| 科目コード | 5140030 | | 単位 | 2 | 時間数 | 30 | |
| 授業科目名 | 社会と地域A - 都市社会学の基礎 - | | 開講学期等 | 前期 | 時間割 | 火3・4 | |
| 授業科目名英字 | Society and Community A: Introduction to the Urban Sociology | | | | | | |
| 備考 | 授業内容に関心のない人(単位取得のみが目的の人)は受講しないでください。 | | 授業の形式 | 講義 | 必修・選択 | 選択 | |
| | | | 受講対象学生 | 全学部 1~4年 | | | |
| 内容的に密接に関係する授業科目 | (「教養基礎教育」では特になし) | | 履修する際に前提とする授業科目 | (特になし) | | | |
| 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 | 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 |
| 和泉 浩 | 教育文化学部 | 教育文化学部3号館322 | 018-889-2649 | | | e-mail: izumi@ed.akita- | |
| オフィスアワー | 【曜日及び時間】 | 火曜昼休みおよび研究室在室時 | | 【場所】 | 教育文化学部3号館322 | | |
| 授業の目的 | | | | 授業の到達目標 | | | |
| 現代における地域と社会の諸問題・諸現象を社会的視点からとらえるために、社会学の考え方、特に都市社会学の基本的な理論と今日の理論展開について学ぶ。 | | | | 1.社会学とは、どのような学問なのか理解する。 2.社会学の基本的な考え方を理解する。 2.都市社会学のこれまでの基礎的な理論と理論潮流および「空間論的転回」以降の社会学と地理学の理論状況を理解する。 | | | |
| カリキュラム上の位置付け | 都市社会学、社会学一般の基礎となる授業で、特に他の授業の履修を前提にするものではありません。ただし、さまざまな理論を取りあげるので、抽象的で難しい内容も含まれます。 | | | | | | |
| 授業の概要 | 【授業の概要】 授業の前半では社会学の基本的な考え方、社会学が誕生した社会的背景について説明し、後半に都市社会学の基本的な考え方、こんにちの都市研究について説明していきます。 | | | | | | |
| 授業の進行予定及び進め方 | 【進行予定と進め方】 授業予定(以下の各講での内容は、授業の進み具合などにより変更します)。 第1講 授業についての説明 第2講 現代社会と社会学 第3講 啓蒙主義、近代科学と社会学 第4講 国民国家の形成と社会科学 第5講 産業革命と都市化 第6講 消費社会と都市 第7講 都市衛生と近代都市、都市と交通 第8講 国際化、グローバル化と都市 第9講 都市とモダニズムとポストモダニズム 第10講 都市とユニバーサルデザイン 第11講 都市社会学の主要な理論の潮流 第12講 ジンメルの都市論 第13講 シカゴ学派の都市社会学 第14講 「空間論的転回」以降の社会学と地理学1 第15講 「空間論的転回」以降の社会学と地理学2 | | | | | | |
| 授業に関連するキーワード | 社会学 | 都市 | 社会理論 | | | | |
| | 空間論的転回 | 国家 | グローバル化 | | | | |
| | 地域 | 消費社会 | | | | | |
| 成績評価の方法 | 授業に関連する内容についての小テスト(複数回の場合あり)とレポートで成績を評価します。 ・小テスト(40点):授業内容について理解しているかの確認 ・レポート(60点):授業の内容をふまえ、社会学の視点を理解し、自分の議論を展開できるかをみる課題を出します。 小テストおよびレポートの課題については授業内でのみ説明を行い、それ以外、掲示や、欠席した場合の個人的な問い合わせに対する説明などは行いません。授業を欠席する場合は、欠席届けを提出してください。レポートは締め切り厳守で、締め切り日「時」をすぎたレポートは評価の対象外にします。またほぼ同一内容のレポートがあった場合、またネットや本の内容をそのまま写したと判明したレポートは、そのすべてのものをDにします。きちんとした引用の書き方をせずに、部分的であっても無断で著作、ネットの内容を引用したことがわかった場合もDにしますので注意し | | | | | | |
| 教科書・参考書等 | 【教/参の別】 | 【書籍名】 | | 【著者】 | 【出版社】 | 【出版年】 | |
| | 参考書 | 『都市空間の地理学』 | | 加藤政洋・大城直樹編著 | ミネルヴァ書房 | 2006 | |
| | 参考書 | 『地図の想像力』 | | 若林幹夫 | 講談社選書メチエ | 1995 | |
| | 参考書 | 『鉄道旅行の歴史』 | | シヴェルブシュ | 法政大学出版局 | 1982 | |
| | 参考書 | 『ジンメル・エッセー集』 | | ジンメル | 平凡社ライブラリー | 1999 | |
| 参考書 | 『Sociology, 6th edition』 | | Anthony Giddens | Polity Press | 2009 | | |
| 教科書・参考書等に関する記述欄 | 教科書と参考文献(和書および英語の文献)は、授業の内容に関連するものを、そのつど各回の授業のなかで指示します。教科書、参考書を、あらかじめ購入する必要はありません。 | | | | | | |
| 自由記述欄 | 講義形式の授業ですが、教科書を使用せず、また資料も配布せず、基本的に黒板に書きながら説明していくため、板書の量はかなり多いです。 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|---|---|-----------------|-----------------|---|---------------|---------|--------|
| 科目コード | 5140040 | | 単位 | 2 | 時間数 | | |
| 授業科目名 | 地理と地誌 - 地誌学入門 - | | 開講学期等 | 前期 | 時間割 | 金3・4 | |
| 授業科目名英字 | Introduction to Regional Geography | | | | | | |
| 備考 | 小テスト3回以上適宜。教室と教育効果の関係で受講学生を150名以内に制限する。 | | 授業の形式 | 講義・実習 | 必修・選択 | 選択 | |
| | | | 受講対象学生 | 全学部 1～4年 | | | |
| 内容的に密接に関係する授業科目 | 自然地理学入門、自然地理学概論、人文地理学概論、地誌学概論 | | 履修する際に前提とする授業科目 | | | | |
| 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 | 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 |
| 篠原 秀一 | 教育文化・文化環境 | 教育文化3-335 | 018-889-2663 | | | | |
| オフィスアワー | 【曜日及び時間】 | 平日午後随時 | | 【場所】 | 教育文化3号館335研究室 | | |
| 授業の目的 | | | | 授業の到達目標 | | | |
| 1) 地図、とくに地形図に親しむ。 2) 地理写真あるいは地誌に親しむ。 3) 地誌および地誌学の基本を学ぶ。 | | | | 1) 地誌の意味と役割を簡単ながら説明できる。 2) 様々な地図、特に地形図から地誌の基本情報を解読できる。 3) 様々な地理写真の地誌の内容を簡単ながら説明できる。 | | | |
| カリキュラム上の位置付け | 地誌学・人文地理学・自然地理学の地理学全般にかかわる導入授業の一つでもあり、「自然地理学概論」「人文地理学概論」「地誌学概論」へと続くものである。 | | | | | | |
| 授業の概要 | 【授業の概要】 様々な地図と地理写真を題材として、地誌学の基本的な知識、地域のとらえ方を習得する。配布プリントと板書を中心とし、地図・地理写真・地誌の現物も回覧して講義する。作業学習および質疑応答の時間も含む。12色鉛筆が必要となる。2万5千分の1地形図1枚(270円)の購入を求めることもある。 | | | | | | |
| 授業の進行予定及び進め方 | 【進行予定と進め方】 講義内容は以下の通りだが、3回目以降の授業から、地形図の読解に関する作業実習を毎回最後の30分ほどで実施する。 1. 多種多様な地図 1) 地誌と地図のある生活 2. 多種多様な地図 2) 地図の定義と種類・分類 (1) 地図の定義 3. 多種多様な地図 2) 地図の定義と種類・分類 (2) 地図の種類と分類 4. 多種多様な地図 3) 地図の構成と作成 5. 地図の整備・図式・活用 1) 地図の整備 (1) 地図の歴史 6. 地図の整備・図式・活用 1) 地図の整備 (2) 近代的な地形図の整備 7. 地図の整備・図式・活用 2) 地形図の図式 (1) 地形図の整飾 8. 地図の整備・図式・活用 2) 地形図の図式 (2) 地形図の点・線記号 9. 地図の整備・図式・活用 2) 地形図の図式 (3) 地形図の点・面表現 10. 地図の整備・図式・活用 3) 地図の活用 (1) 地図の利用選択 11. 地図の整備・図式・活用 3) 地図の活用 (2) 地形図の基本的読図 12. 地図の整備・図式・活用 3) 地図の活用 (3) 地形図の総合的読図 13. 地理写真と写真地誌 1) 地理写真とは 14. 地理写真と写真地誌 2) 地理写真を読む 15. 地理写真と写真地誌 3) 写真地誌 16. 期末試験・レポート提出 | | | | | | |
| 授業に関連するキーワード | 地図 | 地形図 | 読図 | | | | |
| | 地理写真 | 地誌 | | | | | |
| 成績評価の方法 | 授業中の質疑応答と出席状況をふまえ、筆記試験(60%)、レポート(40%)により総合的に評価する。原則として3回以上の欠席を認めない。総合的に評価して100点満点で60点以上を合格(「C」以上の評価)とする。 | | | | | | |
| 教科書・参考書等 | 【教/参の別】 | 【書籍名】 | | 【著者】 | 【出版社】 | 【出版年】 | |
| | 教科書 | 『地形図 図式画報(第4版)』 | | 日本地図センター | 日本地図センター | 2005年 | |
| | 参考書等 | | | | | | |
| | | | | | | | |
| 教科書・参考書等に関する記述欄 | 参考書は授業時に随時紹介する。 | | | | | | |
| 自由記述欄 | 地図(地形図)に慣れ親しむと、比較的安価に楽しいまち歩きができます。地図と地理と風景写真と旅行のいずれにも興味を持ってない人は履修しないでください、時間の無駄です。 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|---|--|----------|-----------------|--|---------------|---------|--------|
| 科目コード | 5140060 | | 単位 | 2 | 時間数 | 30 | |
| 授業科目名 | 地理と地誌 - 自然地理学入門 - | | 開講学期等 | 前期 | 時間割 | 火3・4 | |
| 授業科目名英字 | Regional Geography II: Introducing Physical Geography | | | | | | |
| 備考 | | | 授業の形式 | 講義 | 必修・選択 | 選択 | |
| | | | 受講対象学生 | 全学部 1～4年 | | | |
| 内容的に密接に関係する授業科目 | 地理と地誌I - 地誌学入門 - | | 履修する際に前提とする授業科目 | | | | |
| 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 | 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 |
| 林 武司 | 教育文化・文化環境講座 | 教文3-333 | 018-889-2664 | | | | |
| オフィスアワー | 【曜日及び時間】 | 火曜日5・6時限 | | 【場所】 | 教育文化学部3号館333室 | | |
| 授業の目的 | | | | 授業の到達目標 | | | |
| <p>自然地理学は、人間の主たる活動の場である地球表層を対象として、空間（ローカル～グローバルスケール）を構成する様々な自然・人為要素の特性や関係性を明らかにしていく総合的・学際的な学問領域である。本授業では、地球表層の自然環境の成り立ちや相互関係、人間活動との関わり（災害や環境問題、資源・エネルギー問題など）について基礎的な知識を習得することで、地域社会とグローバル社会の関係性を理解することを目的とする。</p> | | | | <p>自然環境のしくみと現状に関する基礎的な知識を学ぶことで、 ・様々な環境問題や資源・エネルギー問題の本質（何が問題なのか）を考えられるようになる。 ・環境リテラシーの基礎を身につけ、科学的・社会的な根拠に基づいた判断基準を持てる。 ・環境倫理・環境正義に関する自分の意見を持てるようになる。</p> | | | |
| カリキュラム上の位置付け | 地域社会とグローバル社会の関連性を自然地理学の観点から学習する。 | | | | | | |
| 授業の概要 | 本授業では、地球表層を地圏、気圏、水圏の3つの領域に分け、それぞれの領域について、自然環境の成り立ちや仕組み、人間活動に伴う変化について学習する。 | | | | | | |
| 授業の進行予定及び進め方 | 1. 導入：大学で自然地理学を学ぶことの意味を確認する（第1回） 2. 地球の大きさと形状（第2回） 人間の活動基盤であり最大の資源である地球の大きさと形状について理解する。 3. 地圏の環境：人間の生活の基盤である地圏の特性について理解する（第3～6回） 地球の構造と活動の仕組み、地球の活動と地形の成り立ち。 人間活動との関わり：災害、資源・エネルギー問題。 4. 気圏の環境：地球を覆っている気圏の特性について理解する（第7～10回） 気圏の階層構造と大気循環、テレコミュニケーション、気候変動。 人間活動との関わり：大気汚染、酸性雨、地球温暖化。 5. 水圏の環境：地球の自然環境を特徴づけている水圏の特性について理解する（第11～14回） 水の物理的・化学的特性、地球上の水の存在量と循環速度。 人間活動との関わり：資源としての水、パーチャルウォーター、ウォーターフットプリント。 6. まとめ（第15回） 自然地理学から見た地域社会とグローバル社会。 環境リテラシー、環境倫理、環境正義。 期末試験（第16回） | | | | | | |
| 授業に関連するキーワード | 自然環境 | | 環境問題 | | 環境 | | |
| | 環境倫理 | | 環境正義 | | | | |
| 成績評価の方法 | 小テスト：単元ごとに実施（4×15=60%）、期末試験（40%） | | | | | | |
| 教科書・参考書等 | 【教/参の別】 | 【書籍名】 | | 【著者】 | 【出版社】 | 【出版年】 | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| 教科書・参考書等に関する記述欄 | 授業中に適宜紹介する。 | | | | | | |
| 自由記述欄 | | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------|---|---------------|--------|--|----------|---------|--------|
| 科目コード | 5140080 | | 単位 | 1 | 時間数 | 15 | |
| 授業科目名 | 秋田の歴史A - 城下町を歩く - | | 開講学期等 | 前期前半 | 時間割 | 金7・8 | |
| 授業科目名英字 | Regional History of Akita in Edo Period | | | | | | |
| 備考 | 原則として学籍番号が奇数の者に限ります。偶数の人はBを受講してください。同一内容です。 | | | 授業の形式 | 講義・実習・学生 | 必修・選択 | 選択 |
| | | | | 受講対象学生 | 全学部 1～4年 | | |
| 内容的に密接に関係する授業科目 | | | | 履修する際に前提とする授業科目 | | | |
| 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 | 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 |
| 渡辺英夫 | 教育文化学部 | 教文3-336 | 2667 | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| オフィスアワー | 【曜日及び時間】 | 金 16:10-17:30 | | 【場所】 | 研究室 | | |
| 授業の目的 | | | | 授業の到達目標 | | | |
| 土地に刻まれた歴史を読み取る。 | | | | 城下町久保田(秋田)でのフィールドワークに基づき、他の近世都市・城下町の成り立ちについても考察できるように、その能力を獲得する。 | | | |
| カリキュラム上の位置付け | 日本近世史を専門的に研究していくための導入ではない。日本の歴史に関心を持つ一般の学生を対象にして、いま目の前に現存している街の姿から、その都市の歴史を考察していく能力を養い、地域の歴史により一層の関心を深めて貰いたい。 | | | | | | |
| 授業の概要 | 【授業の概要】 秋田市は江戸時代の初め常陸から移った佐竹氏によって造られた計画都市で、そこには秋田に限らない江戸時代共通の基本計画があります。この点を講義しつつ実際に街を歩いて見て回ります。危険防止のため原則として学籍番号奇数の者に人数を制限します。 | | | | | | |
| 授業の進行予定及び進め方 | 【進行予定と進め方】 1. 4月12日 ガイダンス 近世都市を考えることの意味 2. 4月19日 近世城下町の必然性 兵農分離制 3. 4月26日 山城から平山城へ 4. 5月10日 都市と水運 5. 5月17日 都市と街道 両側町の基本 レポート提出No.1 6. 5月24日 街歩き実習 フィールドワーク 14:30～17:30(2講義時間相当) 7. 5月31日 格式 塵芥 水書 レポート提出No.2 | | | | | | |
| 授業に関連するキーワード | 城下町 | 近世都市 | | 地域の歴史 | | | |
| | 歴史の視点 | フィールドワーク | | | | | |
| 成績評価の方法 | フィールドワークへの出席が絶対の前提条件です。その上で、学習態度・意欲(10%)、フィールドワーク(40%)、レポート(25%)、出席状況(25%)の割合で判定します。 | | | | | | |
| 教科書・参考書等 | 【教/参の別】 | 【書籍名】 | | 【著者】 | 【出版社】 | 【出版年】 | |
| | 教科書 | 『塩谷順耳他』 | | 秋田県の歴史 | 山川出版社 | 2001年 | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| 教科書・参考書等に関する記述欄 | | | | | | | |
| 自由記述欄 | 原則として学籍番号が奇数の者に限ります。偶数の人はBを受講してください。同一内容です。 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------|--|---------------|--------|---|----------|---------|--------|
| 科目コード | 5140081 | | | 単位 | 1 | 時間数 | 15 |
| 授業科目名 | 秋田の歴史B - 城下町を歩く - | | | 開講学期等 | 前期後半 | 時間割 | 金7・8 |
| 授業科目名英字 | Regional History of Akita in Edo Period | | | | | | |
| 備考 | 原則として学籍番号が偶数の者に限ります。奇数の人はAを受講してください。同一内容です。 | | | 授業の形式 | 講義・実習・学生 | 必修・選択 | 選択 |
| | | | | 受講対象学生 | 全学部 1～4年 | | |
| 内容的に密接に関係する授業科目 | | | | 履修する際に前提とする授業科目 | | | |
| 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 | 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 |
| 渡辺英夫 | 教育文化学部 | 教文3-336 | 2667 | | | | |
| オフィスアワー | 【曜日及び時間】 | 金 16:10-17:30 | | 【場所】 | 研究室 | | |
| 授業の目的 | | | | 授業の到達目標 | | | |
| 土地に刻まれた歴史を読み取る。 | | | | 城下町久保田(秋田)でのフィールドワークに基づき、他の近世都市・城下町の成り立ちについても考察できるよう、その能力を獲得する。 | | | |
| カリキュラム上の位置付け | 日本近世史を専門的に研究していくための導入ではない。日本の歴史に関心を持つ一般の学生を対象にして、いま目の前に現存している街の姿から、その都市の歴史を考察していく能力を養い、地域の歴史により一層の関心を深めて貰いたい。 | | | | | | |
| 授業の概要 | 【授業の概要】 秋田市は江戸時代の初め常陸から移った佐竹氏によって造られた計画都市で、そこには秋田に限らない江戸時代共通の基本計画があります。この点を講義しつつ実際に街を歩いて見て回ります。危険防止のため原則として学籍番号偶数の者に人数を制限します。 | | | | | | |
| 授業の進行予定及び進め方 | 【進行予定と進め方】 1. 6月14日 ガイダンス 近世都市を考えることの意味 2. 6月21日 近世城下町の必然性 兵農分離制 3. 6月28日 山城から平山城へ 7月5日 <休講> 4. 7月12日 都市と水運 5. 7月19日 都市と街道 両側町の基本 レポート提出No.1 6. 7月26日 街歩き実習フィールドワーク 14:30～17:30(2講義時間相当) 7. 8月2日 格式 塵芥 水害 レポート提出No.2 | | | | | | |
| 授業に関連するキーワード | 城下町 | 近世都市 | | | 地域の歴史 | | |
| | 歴史の視点 | フィールドワーク | | | | | |
| 成績評価の方法 | フィールドワークへの出席が絶対の前提条件です。その上で、学習態度・意欲(10%)、フィールドワーク(40%)、レポート(25%)、出席状況(25%)の割合で判定します。 | | | | | | |
| 教科書・参考書等 | 【教/参の別】 | 【書籍名】 | | | 【著者】 | 【出版社】 | 【出版年】 |
| | 教科書 | 『秋田県の歴史』 | | | 塩谷順耳他 | 山川出版社 | 2001年 |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| 教科書・参考書等に関する記述欄 | 原則として学籍番号が偶数の者に限ります。奇数の人はAを受講してください。同一内容です。 | | | | | | |
| 自由記述欄 | | | | | | | |

| | | | | | | | |
|--|---|-----------------|----------|--|-----------------|---------|----------|
| 科目コード | 5140090 | | 単位 | 1 | 時間数 | 15 | |
| 授業科目名 | 秋田の自然と文化 A - 秋田の自然・資源・社会・文 | | 開講学期等 | 前期後半 | 時間割 | 木7・8 | |
| 授業科目名英字 | Nature and Culture in Akita IVA:Nature, Mineral Resources, Society and Culture in Akita | | | | | | |
| 備考 | 授業の形式 | | 講義 | | 必修・選択 | 選択 | |
| | 受講対象学生 | | 全学部 1～4年 | | | | |
| 内容的に密接に関係する授業科目 | 履修する際に前提とする授業科目 | | | | | | |
| 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 | 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 |
| 今井 亮 | 地球資源 | 工資G309 | 889-2370 | 石山 大三 | 環境資源センター | 工資セ218 | 889-2447 |
| 内田 隆 | 地球資源 | 工資B304 | 889-2652 | 井上 正鉄 | 人間環境 | 教文4-412 | 889-2588 |
| 石沢 真貴 | 政策科学 | 教文3-331 | 889-2616 | 妹尾 春樹 | 解剖学 | 医 | 884-6056 |
| 清水 徹男 | 精神科学 | 医 | 884-6119 | | | | |
| オフィスアワー | 【曜日及び時間】 | 木曜, 16:00-17:00 | | 【場所】 | 工資G309・889-2370 | | |
| 授業の目的 | | | | 授業の到達目標 | | | |
| 秋田大学で学ぶ大学生として、秋田の自然社会、文化等の背景と環境を知り、秋田の特色を学び、専門教育との位置づけと係わり、地域と連携について考えることを目的とする。 | | | | 1) 限りある地下資源の基礎的知識を学び、世界有数の秋田県の黒鉱鉱床資源を認識し、資源の生成機構を理解できる。 2) 世界自然遺産地域に指定された白神山地及び秋田県内の主な山岳の生態系を理解し、人間との共存の道を探ることができる。 3) 秋田の地域社会の特徴を種々の統計資料から読み取ることができる。 4) シロクマと秋田に棲むクマとの比較し、生態学からの問題点を考えることができる。 5) シロクマと秋田に棲むクマとの比較し、生態学からの問題点を考えることができる。 6) 飲酒と文化、健康、法律との係わりについて学び、危険な飲酒習慣について認識を深めることができる。 | | | |
| カリキュラム上の位置付け | 人間生活に深く関連する事柄の中で、秋田の資源や文化に密接に係わる問題を取り上げ、3学部の教員がそれぞれの専門分野を生かした講義を行う（本年度の担当責任者は今井亮）。 | | | | | | |
| 授業の概要 | 1) 世界有数の秋田県の黒鉱鉱床資源、資源の生成機構についての講義と鉱業博物館の展示物（鉱物、鉱石等）を見学。 2) エネルギー資源の賦存状況、秋田県に分布する石油・天然ガス資源について紹介し、資源問題を考える。 3) 世界自然遺産地域に指定された白神山地及び秋田県内の主な山岳の生態系、人間との共存についての講義。 4) 秋田の地域社会の特徴を種々の統計資料から明らかにする。 5) シロクマと秋田に棲むクマとの比較、生態学からの問題点についての講義。 6) 飲酒と文化、健康、法律との係わり、危険な飲酒習慣についての講義。 | | | | | | |
| 授業の進行予定及び進め方 | 第1回（今井亮）：秋田県は日本有数の地下資源の宝庫として知られている。県周辺の地下資源を概説し、秋田県北東部の北鹿地域に分布する世界有数の黒鉱鉱床の地質と火山活動、鉱床探査技術について紹介し、資源問題を考える。 第2回（石山・今井）：地学や地質の自然物を対象とする学習は、実際に野外における観察や実物に触れることが大切である。資源に関する講義の理解度をより高めるために、本学が世界に誇る鉱業博物館の展示物（鉱物、鉱石等）を見学・観察する（学生ボランティアも参加）。＜鉱業博物館玄関に集合＞ 第3回（内田）：限りある地下資源としてのエネルギー資源の賦存状況を概説し、その基礎的知識を学習する。秋田県に分布する石油・天然ガス資源について紹介し、資源問題を考える。 第4回（井上）：世界遺産地域に指定された白神山地を紹介し、白神山地の保護・管理の在り方を探る。 第5回（井上）：秋田県内には十和田湖・八幡平国立公園をはじめとする多くの自然公園や世界自然遺産地域に指定された白神山地がある。これらはブナ自然林に広く覆われて多様な生物を育てている。秋田が誇る豊かな生態系を紹介して、人間との共存の道を探る。 第6回（石沢）：秋田の地域社会の特徴を種々の統計資料から明らかにする。 第7回（妹尾）：生態学からみた、シロクマと秋田に棲むクマとの比較。 第8回（清水）：「飲酒による光と影」秋田県は日本有数の米どころ酒どころであると共に、県民1人当たりのアルコール消費量においても全国のトップクラスにある。この講義では飲酒と文化、健康、法律との係わりについて解説すると共に、危険な飲酒習慣について学生諸君の認識を深めることを目的とする。 | | | | | | |
| 授業に関連するキーワード | 秋田の地質とエネルギー資源 | | 黒鉱鉱床 | | 世界遺産と白神山地 | | |
| | 秋田の自然 | | 秋田の地域社会 | | 自殺 | | |
| | 酒の功罪 | | 鉱業博物館 | | | | |
| 成績評価の方法 | 授業内容に関するレポート（50%）、簡単な小テスト（50%）で評価する。 | | | | | | |
| 教科書・参考書等 | 【教/参の別】 | 【書籍名】 | | 【著者】 | 【出版社】 | 【出版年】 | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| 教科書・参考書等に関する記述欄 | 特に使用しない | | | | | | |
| 自由記述欄 | | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-----------------|--|-----------------|-----------------|--|---------------|---------|--------|
| 科目コード | 5140160 | | 単位 | 1 | 時間数 | 15 | |
| 授業科目名 | 防災学基礎 - 防災のための地球科学入門 - | | 開講学期等 | 前期前半 | 時間割 | 水3・4 | |
| 授業科目名英字 | Foundation fo Disaster Prevention Engineering -Introduction to Earth Sciences- | | | | | | |
| 備考 | | | 授業の形式 | 講義 | 必修・選択 | 選択 | |
| | | | 受講対象学生 | 全学部1～4年 | | | |
| 内容的に密接に関係する授業科目 | 防災学基礎 - 地域防災学入門 - | | 履修する際に前提とする授業科目 | 特になし | | | |
| 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 | 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 |
| 鎌滝 孝信 | 地域創生センター | 教育文化学部3号館111 | 2892 | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| オフィスアワー | 【曜日及び時間】 | 水曜日 15:00～18:00 | | 【場所】 | 教育文化学部3号館 111 | | |
| | 授業の目的 | | | 授業の到達目標 | | | |
| | 地球科学という学問は、地球上で生じている自然現象および自然災害の大部分がその範疇に含まれる現象であるため、我々が地球上で生活して行く上で基礎知識として学んでおくことが望ましい分野である。本授業では、防災学を学ぶ上での基礎知識として、自然災害の発生メカニズムおよび防災との関連について学び、防災意識を身につけていくことを目的とする。 | | | 1)地球上で生じている自然現象および自然災害について系統立てて説明できるようになる。 2)地震発生予測や地震被害想定の手法をその流れを示して説明できるようになる。 | | | |
| カリキュラム上の位置付け | 防災学を学ぶ上で必要となる地球上で発生している自然現象を理解し、防災意識を身につけていくための科目である。 | | | | | | |
| 授業の概要 | 防災を学ぶ上で必要となる地球科学の基礎や災害の歴史について、スライドやプリントを使って解説する。授業は、高校地学を未履修であることを前提にわかりやすく行う。 | | | | | | |
| 授業の進行予定及び進め方 | <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・イントロダクション 2. 防災に関連した地球科学の基礎(1) 3. 防災に関連した地球科学の基礎(2) 4. 防災に関連した地球科学の基礎(3) 5. 地震・津波災害について 6. 地盤災害について 7. 国や自治体の地震被害想定について 8. まとめ | | | | | | |
| 授業に関連するキーワード | 地球科学 | 地震・津波災害 | | 災害予測 | | | |
| | 防災教育 | 防災意識 | | | | | |
| 成績評価の方法 | 小テスト(20%)、レポート(30%)、テスト(50%)の結果をもって判定する。総合60%をもって合格とする。 | | | | | | |
| 教科書・参考書等 | 【教/参の別】 | 【書籍名】 | | 【著者】 | 【出版社】 | 【出版年】 | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| 教科書・参考書等に関する記述欄 | 教科書は指定しない。授業内容に合わせて適宜資料を配付する。参考書は授業中に適宜紹介する。 | | | | | | |
| 自由記述欄 | | | | | | | |

| | | | | | | | |
|---|--|---------------------------|--------------|---|----------------|---------|--------|
| 科目コード | 5140170 | | | 単位 | 1 | 時間数 | 15時間 |
| 授業科目名 | 防災学基礎 - 地域防災学入門 - | | | 開講学期等 | 前期後半 | 時間割 | 水3・4 |
| 授業科目名英字 | Foundation of Disaster Prevention Engineering | | | Introduction to Disaster Reduction | | | |
| 備考 | | | | 授業の形式 | 講義 | 必修・選択 | 選択 |
| | | | | 受講対象学生 | 全学部1～4年 | | |
| 内容的に密接に関係する授業科目 | 防災学基礎 - 防災のための地球科学入門 - | | | 履修する際に前提とする授業科目 | 特になし | | |
| 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 | 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 |
| 水田敏彦 | 地域創生センター | 2891 | 018-889-2891 | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| オフィスアワー | 【曜日及び時間】 | 水曜日 16:00 - 17:00 (予約すれば) | | 【場所】 | 教育文化学部3号館1階111 | | |
| 授業の目的 | | | | 授業の到達目標 | | | |
| 地震、豪雨などの事例を挙げ、メカニズムや特徴を平易に解説した上で、それらが発生した場合の現状および対策方法を考え、実践的な防災知識を学ぶ。また、身の回りのリスクや危機管理に関する基本的な知識を学ぶ。 | | | | 1) 自然災害の性質と特徴が理解できる。 2) 災害から都市を守るための諸方策や防災システムの基礎知識を修得し、説明できる。 3) 避難、安否確認、各種情報の入手など、災害から身を守る基本的な方法を理解し、説明できる。 | | | |
| カリキュラム上の位置付け | 学生との討議を通じて、人類が未解決の問題について考える。 | | | | | | |
| 授業の概要 | 【授業の概要】 わが国における地震災害を中心とした防災対策の経緯と現実・課題を整理し、これらの危機について具体的事例を基にどのように対応し、また、どのような問題点があったかを解説する。 | | | | | | |
| 授業の進行予定及び進め方 | 【進行予定と進め方】 1. 震災と防災について考える 2. 耐震設計の理念と防災・危機管理の実情 3. 大地震に直面、その時どうする？どうなる？ 4. 災害に強い街づくり 5. 防災マップの作成 6. リスクと危機管理(1) - 成功した例、失敗した例 - 7. リスクと危機管理(2) - 企業のリスクと対策 - 8. まとめ | | | | | | |
| 授業に関連するキーワード | 地域防災 | 防災技術 | | 地震災害 | | | |
| | 豪雨災害 | 災害予測 | | 危機管理 | | | |
| | 耐震設計 | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 演習及びレポート80%、学習態度20%により評価する。 総点で60点以上を合格とする。 全体の1/3(3回)以上欠席した場合は単位を認めない。 | | | | | | |
| 教科書・参考書等 | 【教/参の別】 | 【書籍名】 | | 【著者】 | 【出版社】 | 【出版年】 | |
| | 参考書 | 『地震防災と安全都市』 | | 鹿島都市防災研究会 | 鹿島出版会 | 1996年 | |
| | 参考書 | 『地域防災計画の実務』 | | 京都大学防災研究所 | 鹿島出版会 | 1997年 | |
| | 参考書 | 『失敗学のすすめ』 | | 畑村洋太郎 | 講談社 | 2000年 | |
| 教科書・参考書等に関する記述欄 | | | | | | | |
| 自由記述欄 | | | | | | | |

| | | | | | | | |
|--|--|------------------|-----------------|--|------------------------|---------|--------|
| 科目コード | 5150040 | | 単位 | 2 | 時間数 | 30 | |
| 授業科目名 | 日本語リテラシー - 読解力と表現力 - | | 開講学期等 | 前期 | 時間割 | 水3・4 | |
| 授業科目名英字 | Japanese Literacy I | | | | | | |
| 備考 | | | 授業の形式 | 講義、実習 | 必修・選択 | 選択 | |
| | | | 受講対象学生 | 全学部1～4年 | | | |
| 内容的に密接に関係する授業科目 | 日本語リテラシー I I | | 履修する際に前提とする授業科目 | | | | |
| 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 | 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 |
| 阿部昇 | 教育文化学部 | 3-138 | 2618 | 高橋康弘 | 国際課 | 国際課 | 3035 |
| 成田雅樹 | 教育文化学部 | 3-139 | 2531 | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| オフィスアワー | 【曜日及び時間】 | 阿部(月14:30～16:00) | | 【場所】 | 阿部(教文3-138)高橋(国際課)成田(教 | | |
| 授業の目的 | | | | 授業の到達目標 | | | |
| 大学での学習・研究及び社会人としての職務に必要な質の高い読解力・表現力を身につけることを目標とする。具体的には、大学での論文講読とレポート・論文執筆、社会での実践的な文章読解と文章表現について、多様な知識と方法を身につけることをねらう。 | | | | 1. レポート、報告書、記事、エッセー、論文など様々な文章について、その構造や表現の特徴を理解しながら読む力、主張や主題に対して主体的に評価する力を身に付けることができる。 2. レポート、報告書、記事、エッセー、論文など多様な文種について、目的や相手を考慮しながら書く力、その内容・表現を自分自身で検討・推敲する力を身に付けることができる。 | | | |
| カリキュラム上の位置付け | | | | | | | |
| 授業の概要 | 【授業の概要】 様々な文章の構造や表現の特徴を理解しながら読む力、主張や主題に対して主体的に評価する力を身に付ける。また、多様な文種について目的や相手を考慮しながら書く力、内容・表現を自分自身で検討・推敲すること力を身に付ける。それを通して大学での学習・研究及び社会人としての職務に必要な質の高い読解力・表現力を身につけていく。 | | | | | | |
| 授業の進行予定及び進め方 | 【進行予定と進め方】 第1回 オリエンテーション 文章を「読むこと」と「書くこと」の関係について考える。 第2回 文章の種類と文章の構成・構造について考え理解する。文種の特徴とそれに伴う読み方・書き方の違いについて考え理解する。 第3回 文章の「わかりやすさ」とは何かについて考える。「差異性」とは何かについて考え理解する。 第4回 NIE(教育に新聞を)について考える。「事実」と「意見」と「不思議な関係」について考え理解する。 第5回 クリティカルリーディングについて考え理解する。 第6回 文種の3類別(語り・伝達・主張)を理解し違いを考える。写真に合わせて文章を書いて文種を類別する。 第7回 文種換えを行って「語り」と「伝達」の違い(視点や構造等)を理解する。手紙を記事に書き換える。 第8回 「主張」の視点や構造を理解する。社説または評論の文章構造を分析して図(トーナメント)に表す。 第9回 「主張」の文章表現を身に付ける。社説または評論に対する反論を書いて相互批評をする。 第10回 文種を意識して相手や目的にふさわしい文章を書くことの大切さを理解する。前回の反論文を「語り」か「伝達」のタイプに書き換える。 第11回 400字エッセーの実演(プロジェクター使用)を見て、文章ができていく過程を理解する。 第12回 新聞を教材にして見出しづくりを行い、「物・事」の見方、「視点」の持ち方と表現の変化を理解する。 第13回 メモの仕方、質問の仕方、字を書く前の事前準備について学ぶ。 第14回 テレビ局からゲストを招いて模擬記者会見を行い、会見内容を400字課題として提出する。 第15回 提出した400字課題に対する添削や講評をもとに、自分の文章力をふり返る。 | | | | | | |
| 授業に関連するキーワード | 文種の判別 | 文章構成・構造 | | 論理 視点 | | | |
| | 書き換え 相手意識 | 目的意識 新聞 | | メモ 質問 | | | |
| | 記者会見 論文講読 | レポート作成 論文執筆 | | クリティカルリーディング | | | |
| 成績評価の方法 | 授業中の発表や活動の状況、課題の提出状況、課題の完成度によって4段階で評価(A:目標に十分達している/B:ほぼ達成している/C:最低限の達成が認められる/D:不十分である)した結果を総合して成績判定を行う。Aを1点、Bを±0点、Cを-1点とした合計が3点の場合「S」、2点の場合「A」、1～0点の場合「B」、マイナスの場合「C」とする。なお1期でも過半数の欠席がある者、全体で6回以上の欠席がある者、1つでもDがある者は「不可」とする。 | | | | | | |
| 教科書・参考書等 | 【教/参の別】 | 【書籍名】 | | 【著者】 | 【出版社】 | 【出版年】 | |
| | 教科書 | 『文章吟味力を鍛える』 | | 阿部 昇 | 明治図書 | | |
| | 参考書 | 『文章速達法』 | | 堺 利彦 | 講談社学術文庫 | | |
| | 参考書 | 『大学生のための日本語学習法』 | | 柴田義松他 | 学文社 | | |
| 教科書・参考書等に関する記述欄 | 阿部 昇『文章吟味力を鍛える』(明治図書)は生協で購入すること。それ以外の資料等は、必要に応じて授業担当者から配付する。 | | | | | | |
| 自由記述欄 | 本授業は、1～5回、6～10回、11～15回の3期を3人で担当する。成績は各期のA～Dを総合してS～Dを評価する。 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|--|---|----------------------|--|---------|-------|---------|--------|
| 科目コード | 5150080 | 単位 | 1 | 時間数 | 15 | | |
| 授業科目名 | 情報と知識・技術 A - 実際に役立つ学習技術 - | 開講学期等 | 前期前半 | 時間割 | 火7・8 | | |
| 授業科目名英字 | Information Literacy in academic studies IA | | | | | | |
| 備考 | 70名以内 | 授業の形式 | 講義・演習 | 必修・選択 | 選択 | | |
| | | 受講対象学生 | 全学部 1～4年 | | | | |
| 内容的に密接に関係する授業科目 | 図書館概論, 図書館サービス概論, 図書館経営論 | | 履修する際に前提とする授業科目 | | | | |
| 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 | 【担当教員名】 | 【所属】 | 【学内室番号】 | 【電話番号】 |
| 附属図書館長 | 附属図書館 | 2272 | 018-889-2272 | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| オフィスアワー | 【曜日及び時間】 | | 【場所】 | | | | |
| 授業の目的 | | | 授業の到達目標 | | | | |
| <p>大学で学ぶにあたって必須となる学術情報について知り、自分の学習・研究に必要な参考文献を調査・選択し、レポート・論文としてまとめるためのスキル（情報リテラシー能力）を獲得する。</p> | | | <p>1) 学術情報全般の基礎がわかる。 2) 秋田大学附属図書館の基本的な利用方法がわかる。 3) 秋田大学の図書検索システムOPAC等を利用して目的の図書・雑誌等を検索できる。 4) 各種データベースで情報や論文を検索でき、電子ジャーナルを入手できる。 5) レポート・論文のまとめ方の概要がわかる。</p> | | | | |
| カリキュラム上の位置付け | 課外の学習を進めるに当たって、図書館と学術情報の利用に習熟することは必要不可欠であり、その意味では本科目は全カリキュラムの最初に位置するものである。また、教育文化学部における、学校図書館司書教諭及び図書館司書資格取得のための授業とも関連している。 | | | | | | |
| 授業の概要 | 授業は講義と演習で行います。演習ではコンピュータを使って実際に情報検索を行います。 | | | | | | |
| 授業の進行予定及び進め方 | 【進行予定】 1. 学術情報概論 2. 図書館の使い方と情報検索の基礎 3. レポート・論文を書くために 4. 図書の探し方 5. 論文データベースと雑誌（1） 6. 論文データベースと雑誌（2） 7. 事柄・新聞記事・統計を調べる 8. 試験・講評 講義：附属図書館長 演習：図書館職員 | | | | | | |
| 授業に関連するキーワード | 情報検索 | インターネット | | 図書館 | | | |
| | 学術情報 | 情報リテラシー | | | | | |
| 成績評価の方法 | 学習態度（30%）、課題（10%）試験（60%）とし、総合60%を合格とする。 欠席3回の時点で評価はDとする。 成績不振者、出席日数が足りない者に対して、レポート提出や追試験などの救済措置は行いません。 | | | | | | |
| 教科書・参考書等 | 【教/参の別】 | 【書籍名】 | 【著者】 | 【出版社】 | 【出版年】 | | |
| | 教科書 | 『秋田大学情報探索ガイドブック2013』 | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| 教科書・参考書等に関する記述欄 | | | | | | | |
| 自由記述欄 | 受講者の上限を70名とする。第1回目の授業で上限を超えた場合、a・netへの受講登録の有無にかかわらず、その場で抽選を行う。当日に欠席又は遅刻した場合は抽選に参加できない。 | | | | | | |

| | | | | | |
|---|--|----|----------------------------|---|---------|
| 授業科目名 | 応用言語学 | | | 科目コード | 6040750 |
| 授業科目名英字 | Applied Linguistics I | | | | |
| 開設学期等 | 前期 | 単位 | 2 | 授業の形式 | 演習 |
| 時間割 | 水曜1・2 | | | | |
| 履修する際に 前提とする授業科目 | なし | | 内容的に密接に 関係する授業科目 | 後期の「第二言語習得論」と合わせて履修するようにしてください。 英語科教育学概論II、英語科教育学演習、応用言語学II、第二言語習得論 I、II、教育実習事前事後指導I、II、外国語活動概論、英語科教育学概 | |
| 教員免許取得のため の必修/選択 | 中・高(英語)選択科目 | | 保育士(学部)/臨床心 理士(大学院)資格取得 | | |
| 授業の特徴 | 学生参加型 | | | 担当形態 | 単独 |
| 科目 | | | | | |
| 施行規則に定める科目 区分/各科目に含める ことが必要な事項 | | | | | |
| 担当教員名, 所属, 学内室番号・電話番号 | | | | | |
| 佐々木雅子 教科教育学講座 教育文化学部3号館3-249室 電話018-889-2638 | | | | | |
| オフィシアワー | | | | | |
| 教育文化学部3号館3-249室 水曜日10:30-12:30 | | | | | |
| 授業の目的と到達目標 | | | | | |
| 1) To understand what "communicative language ability" is (knowledge) 2) To understand how important interaction is in language learning (knowledge) 3) To understand "communication-oriented approach" (knowledge) 4) To do interactive language activities (skill) 5) To reflect on your own language learning (skill, interest) | | | | | |
| 授業の概要と進行予定及び進め方 | | | | | |
| 第1回(4/10) Introduction 第2回(4/17) What is "communicative language ability"? 第3回(4/24) How important is interaction in language learning? Is "communication-oriented approach" effective? 第4, 5, 6, 7, 8回 (5/1, 5/8, 5/15, 5/22, 5/29) Part 1 1) Weekly Debriefing 2) Doing interactive language activities 3) Reflect on your own language learning 第9回(6/5) Mid-term Presentation 第10, 11, 12, 13回 (6/12, 6/19, 6/26, 7/3) Part 2 1) Weekly Debriefing 2) Doing interactive language activities 3) Reflect on your own language learning 第14回(7/10) Term-end Presentation 第15回(7/17) Conclusion | | | | | |
| 授業以外の学習 | ALTとの交流を自分の英語力の向上を図る機会とするとともに、英語を教えることおよび学ぶ際に必要な要素を見つけることを目的として、気がついたことをジャーナルに記録する。英語で書くことで、英語力と英語教授力を育む。 | | | | |
| 教科書 | Relevant materials to be used | | | | |
| 参考書等 | 「オーラル・コミュニケーションの理論と実践」幸野稔・佐々木雅子他著 三修社 Ingram, D.E., Kono, M., O'Neill, S., & Sasaki, M. (2008). Fostering Positive Cross-Cultural Attitudes through Language Teaching. Maleny, QLD, Australia: Post Pressed. 富田かおる・小栗裕子・河内千栄子編(2010)『英語教育学大系 第9巻 リスニングとスピーキングの理論と実践』大修館書店 | | | | |
| 成績評価の方法 | 授業への取り組み(20%), 課題への取り組み(30%) プレゼンテーション(30%), レポート(20%) 欠席(未提出)が5回に達した時点で履修放棄とみなす。 | | | | |
| 授業関連 キーワード | communicative language ability, Interaction(Negotiation of meaning), communication-oriented approach, language learning, reflection | | | | |
| 備考 | 課外の時間帯ではあるが、毎週(曜日は調整中)19:00 to 20:00 カレッジプラザにて英語を用いたALT等との交流を行う。コースのPresentationに関わってくるので、予定を空けるよう努力して下さい。 *TOEFL ITPを4月と7月に受けます *Make the most of this course to improve your English ability, *Think over what sort of language learning is effective. | | | | |